

事業報告書

平成22年度

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

学校法人 慈恵大学

目 次

以下の各目次をクリックすると、該当ページへ移動することが可能です。

I. 学校法人慈恵大学	
1. 慈恵大学行動憲章	2
2. 慈恵大学行動規範	2
建学の精神・病院の理念・病院の基本方針	3
3. 慈恵大学の沿革	4
4. 設置する学校・学部・学科等	4
5. 平成22年度事業報告	5
1) 平成22年度の事業概要	5
2) 主な建設工事	8
6. 平成22年度決算	9
7. 関連当事者等との取引等の状況	16
8. 学校法人慈恵大学の体制	18
1) 学校法人慈恵大学	18
2) 東京慈恵会医科大学	18
3) 看護専門学校	18
9. 学校法人慈恵大学組織図	19
10. 理事会	20
11. 評議員会	24
12. 監査室	24
II. 東京慈恵会医科大学	
1. 教授、その他の人事	28
1) 平成23年3月31日退任教授	28
2) 新任教授	28
3) 新任客員教授	28
4) 特任教授	28
5) 叙位・叙勲	29
6) 訃報	29
2. 教職員数	30
1) 教員数（医学科・看護学科）	30
2) 初期臨床研修医数	30
3) 職員数（看護師を含む）	30
4) 看護師数	30
3. 教 育	31
1) 医学部医学科学生数など	31
2) 医学部看護学科学生数など	31
3) 大学院学生数（医学系専攻博士課程）	32
4) 大学院学生数（看護学専攻修士課程）	32
5) 大学および大学院など	32
(1) 医 学 科	32
(2) 看護学科	36
(3) 大 学 院	37

6) 慈恵看護専門学校	38
看護専門学校学生数	38
(1) 慈恵看護専門学校	39
(2) 慈恵第三看護専門学校	40
(3) 慈恵柏看護専門学校	40
7) 卒後臨床研修	42
8) 生涯学習センター	43
4. 研究	45
1) 教育研究助成委員会・大型プロジェクト対策委員会・発明委員会	45
2) 総合医科学研究センター	46
5. 診療	49
1) 病院概況	49
(1) 本院	49
(2) 青戸病院	53
(3) 第三病院	56
(4) 柏病院	60
(5) 総合健診・予防医学センター	63
(6) 病床数および外来患者数	65
2) 派遣・関連病院関係	65
(1) 大学協力病院	65
(2) 教室等関連病院	66
(3) 特殊派遣機関	68
(4) 特殊派遣機関（海外派遣機関）	68
6. 学術情報センター	69
7. 教育センター	71
8. その他	73
1) 成医会	73
2) 各種行事	74
3) 印刷物等の発行	74

[付]

1. 平成22年度 事業計画に対する実施結果一覧	76
2. 中期目標・中期計画・平成23年度事業計画	100

I . 学校法人慈惠大学

1. 慈恵大学 行動憲章

H16. 9. 24 制定

H17. 2. 24 改正

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。

全教職員は本憲章を遵守し、本学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に貢献します。
5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、本学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

2. 慈恵大学 行動規範

H17. 3. 24 制定

H21. 4. 1 改定

(目的)

第1条 慈恵大学(以下「大学」という)が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。

(基本理念)

第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。

(法令の遵守)

第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。

(人間の尊重)

第4条 全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いわれなき差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。

(取引業者との関係)

第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。

(反社会的勢力との関係)

第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。

(過剰な接待接受の禁止)

第7条 正常な取引関係(患者関係含む)に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の接受を禁止する。

(環境保護)

第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。

(公私の区別)

第9条 公私の区別をわきまえ、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。

(日常の業務処理)

第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。

また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。

2. 法令および就業規則などに基づき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。
3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。
4. 会計処理にあたって、不明朗、不透明な処理を行ってはならない。

(虚偽の報告・隠蔽)

第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。

(教育・指導)

第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。

(告発)

第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案（告発）窓口に提案することができる。

2. 提案者（告発者）については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。

(監査・報告)

第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。

(違反の処理)

第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。

附 則 1. 本規範は、平成21年4月1日から実施する。

2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

【建学の精神】

「病気を診ずして病人を診よ」

私達は病気の治療のみではなく、病者の不安や悩みなどを取り除き、つねに患者さんのための真の医療を考えております。

また、病者の痛みに共感することができる「医の心」を持つ医師と「看護の心」を持つ看護師の養成をめざしております。

【病院の理念】

「病気を診ずして病人を診よ」の教えに基づき、質の高い医療を実践し、医療人を育成することにより、社会に貢献し、患者さんや家族から信頼される病院をめざす。

【病院の基本方針】

1. 患者さんや家族が満足する良質な医療を実践する。
2. 先進医療の開発・導入など、日々、医療水準の向上に努める。
3. 優れた技能を身につけ、豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた医療人を育成する。
4. 地域社会と連携し、きめ細かな医療サービスを提供する。
5. 全職員が誇りをもって働ける職場づくりを実践する。

3. 学校法人慈恵大学の沿革

年 月	学校法人・学校・学部・学科・課程等の新增設等
明治14年 5月	成医会講習所を開設した
明治23年 1月	成医会講習所を成医学校に改める
明治24年 9月	成医学校を改め、東京慈恵医院医学校となる
明治36年 6月	専門学校令により私立東京慈恵医院医学専門学校となる
明治41年 5月	東京慈恵会が設立され東京慈恵会医院医学専門学校と改称した
大正10年10月	財団法人東京慈恵会医科大学を設置した
大正10年10月	大学予科を新設した
大正11年 2月	東京病院（開設：明治24年 2月）を附属病院とした
大正14年 3月	東京慈恵会医院医学専門学校自然廃校とした
昭和19年 4月	東京慈恵会医科大学附属医学専門部を開設した
昭和19年 4月	中川堤診療所（入手：昭和18年）を総合病院とし、東京慈恵会医科大学附属青砥分院（現：附属青戸病院）を開設した
昭和25年11月	東京慈恵会医科大学附属第三分院（現：附属第三病院）を開設した
昭和26年 3月	大学予科を閉校した
昭和26年 3月	財団法人東京慈恵会医科大学は、学校法人慈恵大学に変更。同法人が東京慈恵会医科大学を経営する
昭和27年 3月	附属医学専門部を閉校した
昭和27年 4月	学制改革により医学専門課程をもつ新制大学として発足した
昭和31年 4月	大学院医学研究科を開設した
昭和35年 4月	医学科（入学定員80名）を調布市国領町に開設し、6年制の一貫教育を開始した
昭和39年 4月	医学科の入学定員を100名とした
昭和46年 4月	慈恵第三高等看護学院（現：慈恵第三看護専門学校）を開設した
昭和50年 4月	医学科の入学定員を120名とした
昭和50年 4月	慈恵青戸高等看護学院（現：慈恵青戸看護専門学校）を開設した
昭和62年 4月	東京慈恵会医科大学附属柏病院を開設した
昭和62年 4月	慈恵柏看護専門学校を開設した
平成 4年 4月	医学部看護学科（定員：30名）を調布市国領町に開設し、4年制の一貫教育を開始した
平成 4年 4月	医学科の入学定員を100名とした
平成14年 4月	慈恵医大晴海トリトニッククリニックを開設した
平成19年 4月	看護学科の入学定員を40名とした
平成21年 4月	医学科の入学定員を105名とした
平成21年 4月	大学院医学研究科看護学専攻修士課程（定員：10名）を開設した
平成22年 3月	慈恵青戸看護専門学校を閉校した

4. 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学 部 ・ 学 科 等	摘 要
東京慈恵会医科大学	昭和31年 4月	大学院医学研究科博士課程	
	平成21年 4月	大学院医学研究科看護学専攻修士課程	
	昭和27年 4月	医学部医学科	
	平成 4年 4月	医学部看護学科	
慈恵第三看護専門学校	昭和46年 4月	3年課程	
慈恵柏看護専門学校	昭和62年 4月	3年課程	

5. 平成22年度 事業報告

理事長 栗原 敏

1) 平成22年度の事業概要

〔基本方針〕

平成22年度は下記の項目を基本方針と重点施策として取り組んだ。

1. 法令遵守の徹底

・教職員の法令遵守精神を向上させる。

新入職員および臨床研修医には採用年度当初のオリエンテーションにおいて「新入職員研修の手引き」や「マナーハンドブック」を利用し大学行動憲章と行動規範の周知徹底を図った。大学行動憲章、行動規範はホームページや慈恵ニュースに掲載し教職員、学内外へ周知を図っている。

また、教職員には個人情報保護をはじめとする各種研修会や講演を開催し、意識の向上、教育に努めた。

2. 医療安全の推進

・医療安全体制を検証し、より良い医療安全システムを構築する。

① 附属4病院合同シンポジウムで医療安全・感染活動の共有や外部講師を招いての講演会を行った。米国にて医療安全推進室のスタッフがTeam STEPPSの研修を受講し、その内容を医療安全推進週間に開催したシンポジウムで講演した。

② 附属4病院リスクマネジメント委員会にて事例検討と改善策の共有を行った。また附属4病院相互ラウンドにより現場での改善策の実施状況の確認を行った。また日々の業務の中で病院間の連携を図り医療問題の解決に取り組んでいる。発生事例から現状の把握を行いマニュアルの見直しを随時行っている。感染対策では毎月分院より本院の感染対策委員会に参加し情報共有、対策の協議を行った。

③ 医療安全推進連絡会議議長施設として、全私立医大病院から医療安全相互ラウンドに関する意見を聴取、チェックリストの改訂案を作成した。また前年までの全国6ブロックから東西2ブロックへの変更に伴い、他地域の大学病院との相互ラウンドを行い情報共有に努めた。

感染対策では都内11大学による感染対策作業部会を開催し、チェックリストの作成や情報共有を行った。また全国の私大感染対策協議会の事務局を担当し、第1回総会を開催した。

④ 東大・早稲田・慈恵共同研究推進会議でプロセス・フローチャートによる業務の可視化を行い、問題の抽出、改善策の立案、実施、評価等を行った。病院管理学会、医療の質・安全学会にて講演を行った。

3. 質の高い医療人の育成

・卒前教育の改善と充実を図る。

医学科では研究的態度を涵養するため、研究室配属期間を6週間に延長した。また、臨床疫学に関する教育内容をさらに充実させた。

看護学科では4年次総合実習の選択自由度を拡大し充実させた。また、4年次後期に教養教育を取り入れることを決定した。

・卒業教育を改善して研修医とレジデントの応募者増を図る。

レジデント教育プログラムの改善を図ると同時に、各科毎のホームページを充実させレジデント教育プログラムについて詳細に掲載した。

・看護学科・看護専門学校は、協力して卒業時の技術到達目標に関する評価を周知する。

「慈恵看護教育あり方検討会」において、情報交換や検討を行い、慈恵における卒業時の技術

到達目標を相互に理解した。看護学科では改良した看護技術ステップアップノートを活用し、学生と教員の技術到達目標への統一を図った。

- ・看護学専攻修士課程における高度実践看護師のためのプログラムの充実を図る。

学生が学修しやすい環境を整備すると共に安定した運営を行った。

4. 安定した財政基盤の構築

- ・医療収入の増加と医療経費の削減を図る。

- ・大学における収支構造の点検を行う。

中期的な財務予測と新外来棟の建築計画をはじめとする大型投資計画の予測を勘案し、医療収入増加のための医療構造の分析と医療経費削減に取り組んだ。

医療構造分析・適正化タスク・フォースにて後発薬品導入やクリニカルパスの改善等を検討、実行した。青戸病院、第三病院、柏病院では分析ソフト等を活用し、疾病別DPC結果等をもとに収入改善および経費削減に取り組んだ。

4病院医療材料・物流検討ワーキング・グループでは4病院共同購入を推進し、価格削減に取り組んだ。また、全学対象の省エネルギー推進委員会を設置し、エコ活動を推進した。

- ・機関別の事業計画に基づく中期財務計画を策定する。

関係各部署のコンセンサスを得て平成35年度までの中期計画を策定した。

- ・収支状況の月次把握ができるようにする。

平成22年7月より月次把握を仮実施し、教育研究経費の見直しなど精度向上を図り、平成22年12月より月次決算を実現した。

- ・第三病院、柏病院の収支構造の改善を図る。

第三病院ではDPCに関する具体的な経営改善項目の提示や手術原価管理システムを導入し術式別原価管理分析を施行した。また、BSCを用いて各部門の重点改善項目の定期的な進捗確認を行い、意識啓蒙を図った。

柏病院では病院全体のBSCを用いて年度単位で設定した重点改善項目に対する実施担当を明確にし、患者数等の数値目標を設定して収支構造の改善に取り組んだ。

- ・柏病院の施設整備強化により収益増を図る。

増床した手術室を効率運用するため、手術室業務の運用改善および手術の1日前入院の推進や手術室における看護師業務の見直しを行った。また近隣、協力医療機関との連携強化を図ることで円滑な病床運用、外来患者数の確保を進めている。

- ・IT関連経費の適正化と全体計画検討組織を整備する。

情報システム将来検討会を発足し、ITにおける大学全体の計画や経費の管理のあり方及びそれらを検討する組織体制について策定した。今後、具体的な組織の構築と運用を図る。

5. 医学・看護学研究の推進

- ・各講座を中心に行われている特色ある伝統的研究と共に先進的研究を推進する。

平成21年度先端医療開発特区（スーパー特区）に採択されたME研究室の「急性期脳梗塞早期系統的治療のための分野横断的診断治療統合低侵襲システムの開発」について、学内外の研究者へ定期的な進捗報告会の開催や、学内や外部組織に対して先端機器の使用説明会・セミナーを開くなど研究を推進した。スーパー特区共同利用実験施設Ⅱを設置した。

またiPS細胞に関する研究については、遺伝病に対するiPS細胞の作製に成功し、現在は癌幹細胞の作製を試みている。「医学研究の基礎を語り合う集い」「遺伝病研究講座セミナー」などの学内セミナーで研究内容を紹介し、研究推進を図った。

- ・研究推進のための競争的研究資金の獲得を目指す。

平成22年度文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に応募した、研究プロジェクト（プロジェクト名：DNAマイクロアレイシステムを基盤としたエピゲノム臨床研究と分子標的薬リード創出／研究代表者：総合医科学研究センター 薬物治療学研究室 景山 茂教授）、並びに臨床

医学研究所 並木 禎尚 講師が、(独法)日本学術振興会「最先端・次世代研究開発支援プログラム」に応募した、研究課題「次世代ナノ診断・治療を実現する「有機・無機ハイブリッド籠型粒子」の四次元精密操作」が採択されるなど大型プロジェクト研究が活発に実施されている。また、科学研究費補助金の獲得に努め、採択件数、研究費ともに増加している。

なお、「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の平成23年度応募に向けて、学内応募を行った結果4件応募があった。うち1件を申請研究プロジェクトとして採択し平成23年度計画事業として予算化した。また「武田科学振興財団2011年度特定研究助成」の応募に向けて、学内応募を行った結果4件応募があり、うち1件を申請研究プロジェクトとして採択した。

・ **医療現場と連携して看護学研究を振興する。**

臨床技能を高めるために、高機能シミュレータを導入し、救急医療などの看護教育シミュレーション研修を行った。

6. 広報活動の充実

- ・ **広報誌、ホームページを充実させて、本学の教育・研究内容および附属病院の診療内容などを社会にアピールする。また、広報誌、ホームページで病診連携、病病連携、同窓会員への情報発信に活用する。**

ホームページ掲載の遅延防止や掲載漏れ防止のため、ホームページ作成・更新の申込み手順を確立しタイムリーに正確な情報発信を推進した。同窓会と情報共有を図り、連携体制を取ることで効果的な情報発信を行った。また、メディアに対してスピーディー且つ説得性のある情報発信を行った。

7. 青戸新病院開院に向けた具体的な準備を進める。

平成23年10月の竣工、平成24年1月開院を目指し、平成22年2月1日より着工し予定通り工事が進んでいる。また、建築設計検証、IT設計、診療機器選定など開院に向けた具体的な作業も予定通り遂行し、青戸病院リニューアル計画は順調に進められている。

8. 本院外来棟建築に関する検討を推進する。

昨年度より検討、策定した本院の外来機能コンセプトをもとに新外来棟建築の規模、建築場所や新外来棟建築に伴う敷地内建物の整理・移転等について検討した。

また新外来棟建築の今後の進め方について複数の建築専門家を含めて検討している。

9. 創立130年記念事業を行う。式典、講演会、130年史の刊行と募金活動を行う。

平成22年10月2日に記念式典、講演会、祝賀会を挙行了。 “共に歩む慈恵”にふさわしく同窓会および全教職員が協力し、滞りなく進行了。また、教育・研究施設および病院施設の建築資金として創立130年記念事業募金の募集を行った。

創立130年記念誌編集委員会では創立130年史の刊行を平成23年5月頃に予定している。

2) 重要な契約 (1件)

- ① 青戸六丁目地区区画道路の整備に関する年度協定
(葛飾区、平成22年7月1日付)

3) 22年度の主な建設工事

1. 法人事務局

- ① 大学1号館教職員用立体駐車場整備工事 平成23年1月完了

2. 西新橋校

- ① 医師人事室並びに臨床研修センターの大学2号館地下1階への移転 平成22年4月移転
- ② 中央講堂塗装工事 平成22年8月実施
- ③ 大学本館1階スーパー特区研究室拡張工事 平成22年12月完了
- ④ 中央講堂コンピュータ試験用電源工事 平成23年1月実施
- ⑤ 大学1号館吸収式冷温水機1号機分解整備工事 平成23年3月実施
- ⑥ 大学1号館非常用発電機整備工事 平成23年3月実施

3. 附属病院

- ① 救急部防犯カメラ増設工事 平成22年4月完了
- ② オートクレーブ移設工事 平成22年5月実施
- ③ 外来化学療法ミキシングルーム及び患者アメニティー改善工事 平成22年5月完了
- ④ 中央棟手術部OR-5脳血管撮影装置バージョンアップ 平成22年5月完了
- ⑤ ペインクリニック外来診察ブース増設工事 平成22年6月完了
- ⑥ 中央棟電気錠(出入管理)システム更新工事 平成22年7月実施
- ⑦ 中央棟防犯カメラ設置工事 平成22年7月完了
- ⑧ 中央棟20階・21階リハビリ科TMS治療用電源工事 平成22年8月完了
- ⑨ 外来棟(C棟)脳神経外科外来改修工事 平成22年8月完了
- ⑩ 中央棟CCU血管撮影装置増設及び更新工事 平成22年8月完了
- ⑪ 外来棟中央検査部採血室受付改修工事 平成22年10月実施
- ⑫ 中央棟20階、21階特B病室整備工事 平成22年11月完了
- ⑬ E棟電気錠(出入管理)システム更新工事 平成22年11月実施
- ⑭ 病棟個室6室の陰圧化工事 平成22年12月実施
- ⑮ 眼科外来改修工事 平成23年2月完了
- ⑯ 外来棟中央検査部P2対応遺伝子検査室設置工事 平成23年3月完了
- ⑰ 中央棟冷温水発生機2基分解整備工事 平成23年3月完了
- ⑱ 第二リニアック機器更新工事 平成23年3月完了
- ⑲ 外来棟各科外来防犯カメラ設置工事 平成23年3月完了
- ⑳ 医療用ガス設備年次整備工事 平成23年3月実施
- ㉑ 中央棟非常照明及び操作用蓄電池更新工事 平成23年3月実施
- ㉒ 中央棟ロールスクリーン生地交換工事 平成23年3月実施

6. 平成22年度決算

1. はじめに

平成22年度は、青戸新病院の建築資金確保と本院外来棟建築の為の内部蓄積実施を目指して運営されましたが、病院の経営効率化努力と診療報酬改定双方の効果により、帰属収支差額（収益）は予算を大幅に上回る結果となりました。

2. 資金収支計算書

資金収支計算書では、前年度繰越金は381億円でしたが次年度繰越金は433億円となり、繰越金は52億円増加しました。55億円の固定資産投資を行いました。主な内容は青戸新病院建築21億円、医療器械18億円、その他建築資金11億円でした。

3. 消費収支計算書

収入の部では、医療収入が前年度比49億円増加しました。主な要因は、手術件数の増加と診療報酬の改定によるものです。医療収入以外でも、地方公共団体補助金や寄付金の増加があり、帰属収入は前年度比55億円増加し合計899億円となりました。

支出の部では、医療経費が13億円増加したこと、また、看護師等の増員による人件費の増加があり支出の部の合計は833億円となりました。

この結果、帰属収支差額（収益）は66億円となり、前年度比30億円増加しました。

4. 貸借対照表

資産の部では、資金収支計算書で記載した通り、固定資産支出として青戸新病院建築の他55億円の固定資産投資を行いました。既存固定資産の減価償却があり、前年度比では9億円の増加に止まりました。

負債の部では、固定負債の長期借入金を10億円返済しました。

基本金の部では合計額が1,108億円となり、自己資金比率が72%となりました。

5. 決算開示方法について

- (1) 平成16年度の私立学校法の改正に伴い、本学の事業報告書、法人誌「The JIKEI」、インターネットのホームページでの決算報告は、文部科学省への届出フォームで開示しております。
- (2) 貸借対照表における未収入金は、徴収不能引当金254,227,376円を控除して表記しております。

以上

平成22年度決算書

1) 平成22年度消費収支計算書

自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日

(単位：円)

消費支出の部		消費収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費	36,842,696,915	学生生徒納付金	2,767,420,000
教育研究経費	41,526,032,493	手数料	182,688,700
教育研究経費	13,004,495,033	寄付金	1,397,167,449
医療経費	28,521,537,460	補助金	3,797,469,650
管理経費	4,358,881,402	国庫補助金	3,269,441,000
		地方公共団体補助金	528,028,650
		その他の補助金	0
借入金利息	261,286,323	資産運用収入	141,970,099
		資産売却差額	0
資産処分差額	48,353,975	事業収入	80,486,045,545
徴収不能額	53,456,308	医療収入	80,015,504,509
徴収不能引当金繰入額	254,227,376	雑収入	1,197,161,682
		(うち徴収不能引当金戻入額)	(235,260,926)
消費支出の部合計	83,344,934,792	帰属収入の部合計	89,969,923,125
消費収入超過額	4,067,533,813	基本金組入額合計	△ 2,557,454,520
合計	87,412,468,605	合計	87,412,468,605

平成23年6月文部科学省へ提出

2) 平成22年度資金収支計算書

自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日

(単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
人 件 費 支 出	36,605,169,351	学 生 生 徒 納 付 金 収 入	2,767,420,000
教 育 研 究 経 費 支 出	37,426,223,199	手 数 料 収 入	182,688,700
教 育 研 究 費 支 出	10,160,935,832	寄 付 金 収 入	1,121,451,272
医 療 経 費 支 出	27,265,287,367	補 助 金 収 入	3,797,469,650
管 理 経 費 支 出	3,757,382,528	国 庫 補 助 金	3,269,441,000
		地 方 公 共 団 体 補 助 金	528,028,650
		そ の 他 の 補 助 金	0
		資 産 運 用 収 入	141,970,099
		事 業 収 入	80,486,045,545
借 入 金 支 払 利 息 支 出	261,286,323	医 療 収 入	80,015,504,509
借 入 金 返 済 支 出	3,072,100,000	雑 収 入	961,900,756
施 設 関 係 支 出	3,189,757,542	借 入 金 収 入	1,900,000,000
設 備 関 係 支 出	2,418,521,183	前 受 金 収 入	833,494,362
資 産 運 用 支 出	1,000,000,000	そ の 他 の 収 入	14,979,540,400
そ の 他 支 出	12,674,907,427		
資 金 支 出 調 整 勘 定	△ 12,854,159,929	資 金 収 入 調 整 勘 定	△ 14,377,566,619
期 末 未 払 金	△ 12,854,159,929	期 末 未 収 入 金	△ 13,619,064,757
		前 期 末 前 受 金	△ 758,501,862
次 年 度 繰 越 支 払 資 金	43,297,500,816	前 年 度 繰 越 支 払 資 金	38,054,274,275
支 出 の 部 合 計	130,848,688,440	収 入 の 部 合 計	130,848,688,440

平成23年6月文部科学省へ提出

3) 平成22年度貸借対照表
平成23年3月31日現在

(単位:円)

資 産 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 資 産	97,207,715,268	96,257,824,418	949,890,850
有 形 固 定 資 産	90,862,554,415	89,712,913,808	1,149,640,607
土 地	6,331,139,571	6,331,139,571	0
建 物	65,838,247,860	67,055,282,166	△ 1,217,034,306
構 築 物	321,824,986	299,719,132	22,105,854
教育研究用機器備品	8,472,770,049	7,861,264,792	611,505,257
その他の機器備品	1,907,627,805	2,272,450,989	△ 364,823,184
図 書	2,798,981,256	2,772,144,270	26,836,986
車 輛	700,980	700,980	0
建設仮勘定	5,168,100,000	3,097,050,000	2,071,050,000
放射性同位元素	23,161,908	23,161,908	0
その他の固定資産	6,345,160,853	6,544,910,610	△ 199,749,757
長期貸付金	376,508,091	0	376,508,091
差入保証金	352,003,600	352,003,600	0
有 価 証 券	3,552,563,220	3,552,563,220	0
退職給与引当特定預金	1,600,000,000	1,600,000,000	0
青戸病院建築引当特定資金	0	560,950,000	△ 560,950,000
ソフトウェア	464,085,942	479,393,790	△ 15,307,848
流 動 資 産	57,000,467,085	51,439,573,096	5,560,893,989
現 金 預 金	43,297,500,816	38,054,274,275	5,243,226,541
未 収 入 金	13,546,641,999	12,889,727,807	656,914,192
貯 蔵 品	96,139,901	81,185,762	14,954,139
短期貸付金	0	334,867,970	△ 334,867,970
仮 払 金	60,184,369	79,517,282	△ 19,332,913
資産の部合計	154,208,182,353	147,697,397,514	6,510,784,839
負 債 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 負 債	28,400,649,098	29,251,464,213	△ 850,815,115
長期借入金	10,928,000,000	11,909,600,000	△ 981,600,000
退職給与引当金	16,915,798,274	16,678,270,710	237,527,564
長期未払金	556,850,824	663,593,503	△ 106,742,679
保 証 金	0	0	0
流 動 負 債	15,019,549,136	14,282,937,515	736,611,621
短期借入金	981,600,000	1,172,100,000	△ 190,500,000
未 払 金	12,960,902,608	12,109,126,534	851,776,074
前 受 金	833,094,362	758,101,862	74,992,500
預 り 金	242,627,166	242,319,119	308,047
保 証 金	1,325,000	1,290,000	35,000
負債の部合計	43,420,198,234	43,534,401,728	△ 114,203,494
基 本 金 の 部			
第 1 号 基 本 金	138,090,029,273	135,079,466,077	3,010,563,196
第 2 号 基 本 金	0	560,950,000	△ 560,950,000
第 3 号 基 本 金	0	0	0
第 4 号 基 本 金	6,431,270,038	6,323,428,714	107,841,324
基本金の部合計	144,521,299,311	141,963,844,791	2,557,454,520
消 費 収 支 差 額 の 部			
平成22年度消費支出準備金	0	0	0
翌年度繰越消費支出超過額	△ 33,733,315,192	△ 37,800,849,005	4,067,533,813
消費収支差額の部合計	△ 33,733,315,192	△ 37,800,849,005	4,067,533,813
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	154,208,182,353	147,697,397,514	6,510,784,839

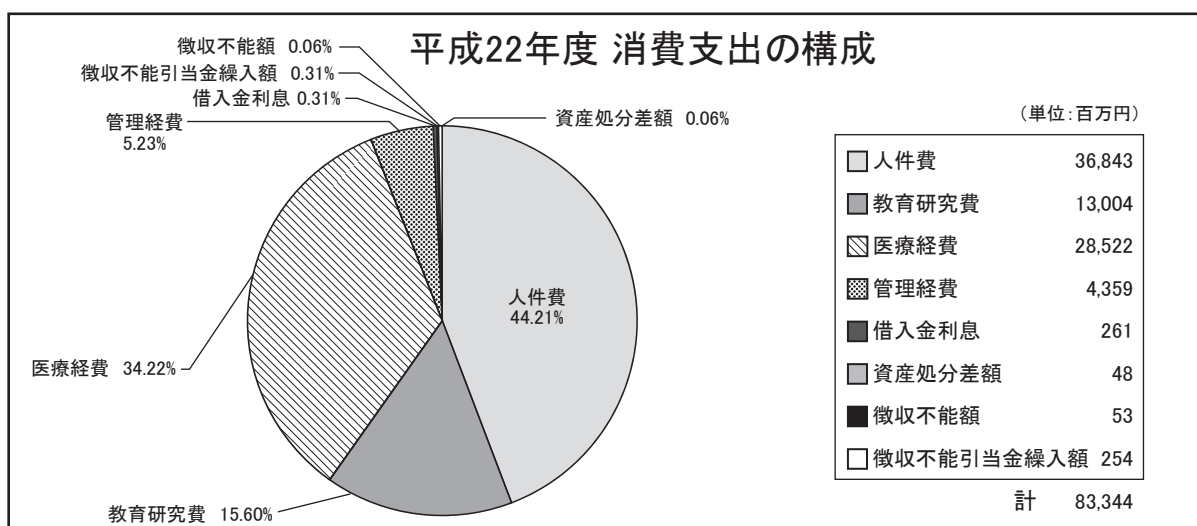
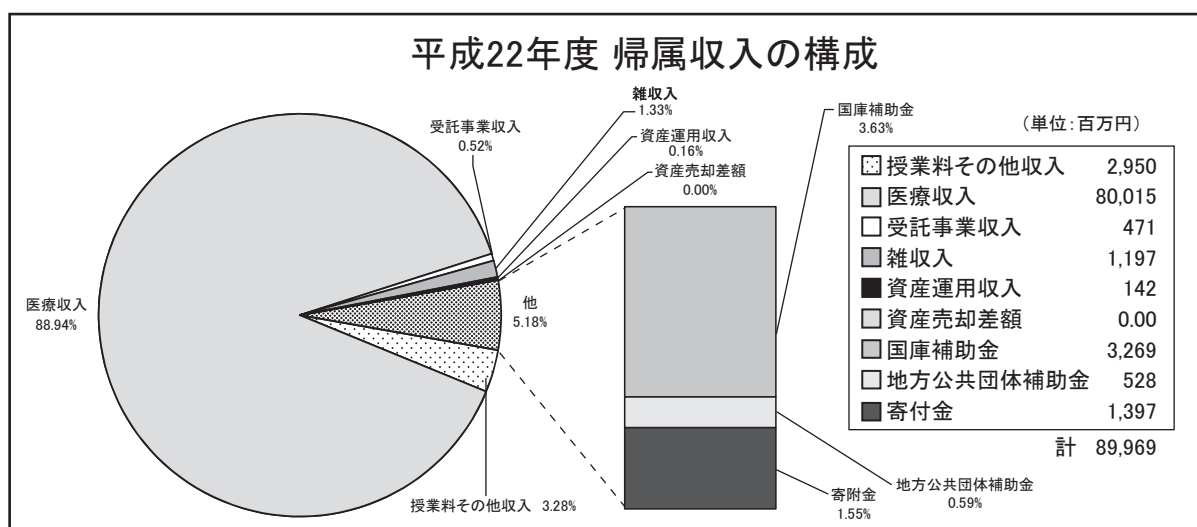
平成23年6月文部科学省へ提出

* 徴収不能引当金254,227,376円は未収入金から控除されています。

4) 主要な財務指標の推移

区 分	平成 17年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度
消費収支関係財務比率 (単位: %)						
①消費支出比率 (消費支出/帰属収入)	98.6%	97.2%	96.9%	96.7%	95.7%	92.6%
②学生生徒等納付金比率 (学生生徒等納付金/帰属収入)	3.6%	3.5%	3.4%	3.4%	3.2%	3.1%
③寄付金比率 (寄付金/帰属収入)	1.2%	1.7%	1.3%	1.3%	1.2%	1.6%
④補助金比率 (補助金/帰属収入)	5.5%	4.7%	4.7%	4.7%	4.4%	4.2%
⑤医療収入比率 (医療収入/帰属収入)	86.8%	87.0%	86.4%	87.5%	88.9%	88.9%
⑥人件費比率 (人件費/帰属収入)	44.9%	45.1%	43.7%	42.9%	42.2%	41.0%
⑦教育研究経費比率 (教育研究経費/帰属収入)	49.2%	47.6%	48.1%	49.0%	48.6%	46.2%
⑧帰属収支差額比率 (100%-消費支出比率)	1.4%	2.8%	3.1%	3.3%	4.3%	7.4%
貸借対照表関係財務比率 (単位: %)						
①流動比率 (流動資産/流動負債)	335.8%	345.7%	346.4%	355.2%	360.1%	379.5%
②固定比率 (固定資産/自己資金)	103.2%	101.4%	98.4%	96.3%	92.4%	87.7%
③固定長期適合率 (固定資産/(自己資金+固定負債))	76.0%	75.6%	74.6%	74.2%	72.1%	69.8%
④負債比率 (総負債/自己資金)	49.7%	47.6%	45.4%	43.0%	41.8%	39.2%
⑤自己資金比率 (自己資金/総資産)	66.8%	67.8%	68.8%	69.9%	70.5%	71.8%

* 自己資金=基本金+消費収支差額
平成23年6月文部科学省報告



財 産 目 録

平成 23 年 3 月 31 日

I. 資産総額	154,208,182,353 円
内 基本財産	97,207,715,268 円
内 運用財産	57,000,467,085 円
内 収益事業用財産	0 円
II. 負債総額	43,420,198,234 円
III. 正味財産	110,787,984,119 円

学校法人 慈恵大学

科 目	数 量	金 額(円)
一、基本財産		97,207,715,268
1. 土地	153,491.78㎡	6,331,139,571
(1)校地	55,338.48㎡	1,262,224,051
(2)その他	98,153.30㎡	5,068,915,520
2. 建物	286,124.76㎡	65,838,247,860
(1)法人本部	3,993.34㎡	965,670,139
(2)一般校舎	70,341.50㎡	14,592,655,256
(3)図書館	3,882.20㎡	117,715,178
(4)講堂	1,168.99㎡	106,330,053
(5)その他	206,738.73㎡	50,055,877,234
3. 図書	333,860冊	2,798,981,256
4. 教具、校具、備品	7,667件	10,380,397,854
5. 有価証券		3,552,563,220
6. その他		8,306,385,507
二、運用財産		57,000,467,085
1. 現金、預金		43,297,500,816
2. 未収入金		13,546,641,999
3. その他		156,324,270
資産総額		154,208,182,353
三、固定負債		28,400,649,098
1. 長期借入金		10,928,000,000
2. 退職給与引当金		16,915,798,274
3. 長期未払金		556,850,824
4. 保証金		0
四、流動負債		15,019,549,136
1. 短期借入金		981,600,000
2. 未払金		12,960,902,608
3. 前受金		833,094,362
4. その他		243,952,166
負債総額		43,420,198,234
正味財産(資産総額-負債総額)		110,787,984,119

上記の通り相違ありません。

平成23年 5月26日

監 事 濱 邦 久



監 事 岡 島 進 一 郎





監 査 報 告 書

平成 23 年 5 月 26 日

学校法人 慈恵大学
理 事 会 御 中

学校法人 慈恵大学

監事 濱 邦久 

監事 岡島 進一郎 

私たちは、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人慈恵大学寄付行為第 15 条の定めに基づき、平成 22 年度（平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで）の学校法人の業務及び財産の状況について監査を行いました。
その結果について以下の通り報告いたします。

1、 監査方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査を実施し、計算書類の正確性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会及び評議員会に出席して理事から業務の報告を聴取し、また、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討しました。

2、 監査の結果

- (1) 資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表並びに財産目録は、会計帳簿の記載と合致し、学校法人慈恵大学の平成 23 年 3 月 31 日現在の財産状況、及び同日をもって終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めます。
- (2) 学校法人の業務及び財産の状況に関して、不正の行為または法令若しくは寄付行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

以上

7. 関連当事者等との取引等の状況

関連当事者等との取引の内容は、次の通りである。

(単位：円)

属性	役員・法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
関係法人	(株)東京慈恵会(注1)	東京都港区	—	看護師養成事業、医学研究事業	—	5名	卒業生の大半を大学の附属病院に受け入れている	会費の支払(注2)	160,228,949	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 当学校法人の役員及び教員が(株)東京慈恵会の役員の過半数を占めている。

(注2) (株)東京慈恵会への会費の支払については、同法人の財政状況等を勘案し金額を決定している。

学校法人の出資による会社に係る事項

当学校法人の出資割合が総出資額の2分の1以上である会社の状況は以下の通りである。

名称	株式会社 慈恵実業					
事業内容	物品販売・斡旋・仲介、慈恵大学内の理容・美容・食堂施設の管理 保険代理業・リース業・労働者派遣・請負業務など					
出資金	30,000,000円 60,000株					
学校法人の出資状況	30,000,000円 60,000株 総出資金額に占める割合 100%					
出資の状況	昭和51年2月28日 30,000,000円 60,000株					
当期中に学校法人が受け入れた配当金及び寄附金の金額並びに学校法人との資金、取引の状況	当該会社からの受入額 (単位：円)					
	一般寄附	1,320,000				
	駐車場等賃借料	86,325,590				
	手数料他	8,253,869				
	出向者人件費受入分	154,631,313				
	合計	250,530,772				
	当該会社への支払額 (単位：円)					
	消耗雑品購入	12,728,400,729				
	医療機器等リース料	728,712,060				
	合計	13,457,112,789				
			期首残高	資金支出等	資金収入等	期末残高
	当該会社への出資金等		30,000,000	0	0	30,000,000
	当該会社への貸付金		0	0	0	0
当該会社への未払金		3,180,906,389	3,180,906,389	3,173,838,359	3,173,838,359	
当該会社からの借入金		0	0	0	0	
当該会社からの未収入金		64,479	68,341	64,479	68,341	
保証債務	当該会社への保証債務は一切ない。					

関連当事者等との取引

関連当事者等との取引の内容は、次の通りである。

(単位：円)

属性	役員・法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
関係法人(注3)	慈恵ファシリティサービス株式会社	東京都港区	3,000万円	建物等の清掃・管理業務、病院内医療廃棄物並びに一般廃棄物の取扱、病院等整備業務・病院等搬送業務	—	1名	本学並びに附属病院の清掃、整備、搬送、管理業務を委託	清掃、管理費等の支払(注4)	1,038,514,060	未払金	88,098,438
								出向者人件費等受入収入	143,516,698	未収入金	0

(注3) 当学校法人の出資割合が2分の1以上である株式会社慈恵実業の子会社である。

(注4) 慈恵ファシリティサービス(株)への清掃、管理費等の支払については、市場価格を勘案して一般的取引条件と同様に決定している。

(単位：円)

属性	役員・法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権の割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
関係法人 (注5)	株式会社東京堂医科器械店	東京都港区	2,500万円	医科器械及び附属品計量器の販売、医療材料・消耗品等の販売	—	—	医科器械・医療消耗品等を購入	医科器械・医療消耗品等の支払(注6)	9,822,050	未払金	37,669
								受入収入	0	未収入金	0

(注5) 当学校法人の出資割合が2分の1以上である株式会社慈恵実業の子会社である。

(注6) ㈱東京堂医科器械店への支払については、市場価格を勘案して一般的取引条件と同様に決定している。

8. 学校法人慈恵大学の体制（平22.4.1.）

1) 学校法人慈恵大学

① 役員概要	定員数	理事	15人以上16人以内	現員数	16人
		監事	2人以上3人以内	現員数	2人
		顧問	3人以上7人以内	現員数	5人
理事長	栗原 敏				
専務理事	高木 敬三、梅澤 祐二				
常務理事	谷口 郁夫				
理事	森山 寛、伊藤 洋、坂井 春男、小林 進 落合 和徳、羽野 寛、橋本 和弘、小路美喜子、高橋実貴雄 霜 礼次郎、原 貞夫、前田 新造				
監事	濱 邦久、岡島進一郎				
顧問	阿部 正和、岡村 哲夫、小森 亮、佐々木正峰、真野 章				

② 評議員の概要 評議員の定員は40人以上 42人以内であり、現員数は42人である。

評議員会議長	村岡 伸一				
評議員	栗原 敏、森山 寛、伊藤 洋、坂井 春男、小林 進 細谷 龍男、橋本 和弘、落合 和徳、谷口 郁夫、上出 良一 谷 諭、浅野 晃司、高木 敬三、寺坂 治、羽野 寛 松藤 千弥、藤村 龍子、蝦名 總子、加藤 一人、高橋実貴雄 高橋 則子、横山 秀彦、奈良 京子、宮崎 栄一、秋元 文夫 柳澤美津代、川久保 孝、霜 礼次郎、原 貞夫、高橋紀久雄 渡邊 盛雄、香川 草平、篠原 健、今井 健郎、須田 健夫、 村岡 伸一、赤羽 清彬、高木 公寛、米津 等史、飛鳥田一朗、 丸山 浩一、梅澤 祐二				

2) 東京慈恵会医科大学

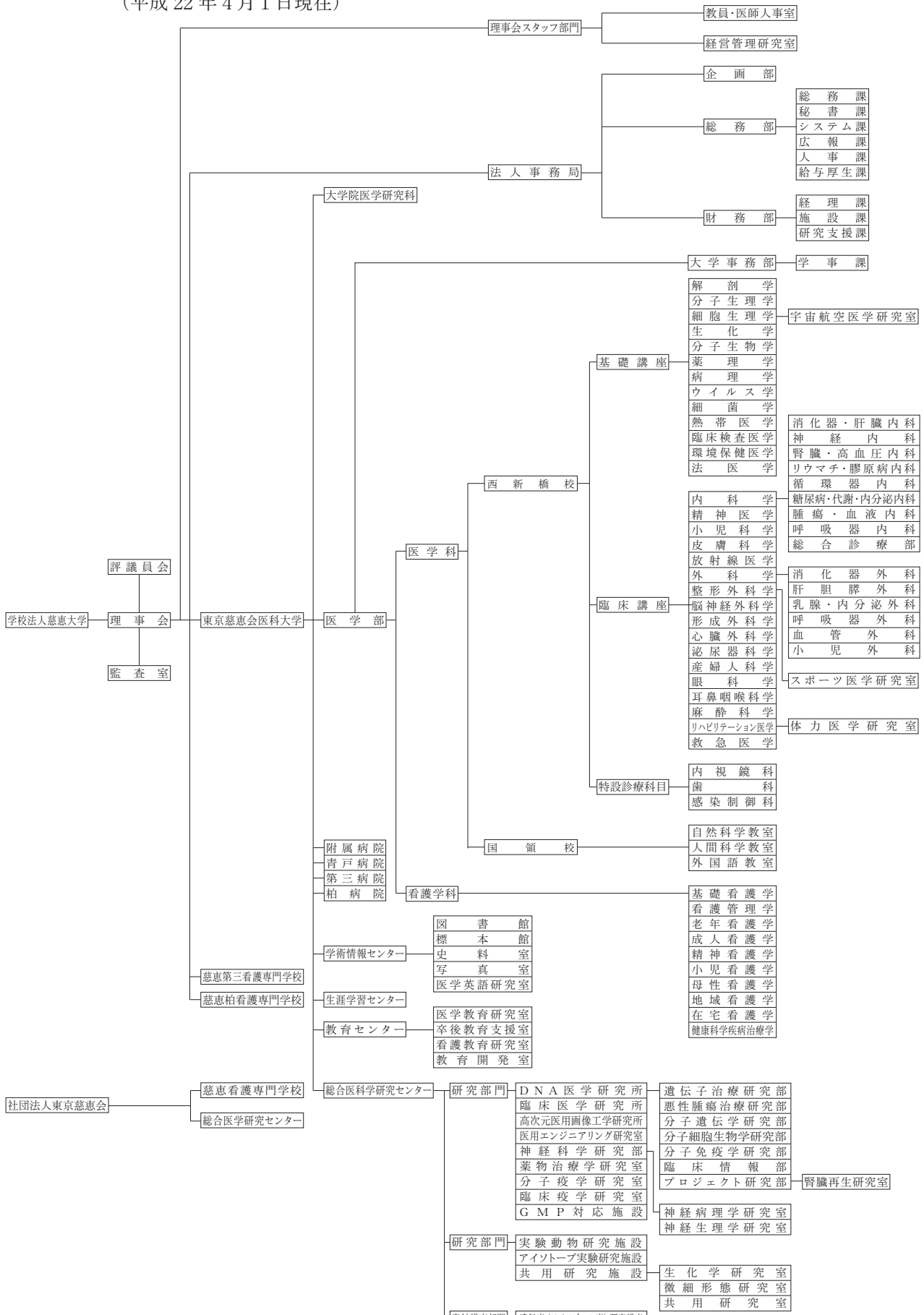
学 長	栗原 敏				
医 学 科 長	羽野 寛				
看 護 学 科 長	藤村 龍子				
大学院医学研究科長	栗原 敏				
附 属 病 院 長	森山 寛 副院長：落合 和徳、細谷 龍男、橋本 和弘 丸毛 啓史、高橋 則子				
青 戸 病 院 長	伊藤 洋 副院長：吉田 和彦、児島 章				
第 三 病 院 長	坂井 春男 副院長：中村 敬、岡 尚省、岡本 友好				
柏 病 院 長	小林 進 副院長：清水 光行、岸本 幸一、吉田 博				
学術情報センター長	兼平 千裕				
生涯学習センター長	阿部 俊昭				
教育センター長	福島 統				
総合医科学研究センター長	栗原 敏				

3) 看護専門学校

慈恵第三看護専門学校長	横山 淳一				
慈恵柏看護専門学校長	佐々木 敬				
[慈恵看護専門学校長]	川村 将弘]				

9. 学校法人慈恵大学組織図

(平成 22 年 4 月 1 日現在)



※平成22年5月1日付で「遺伝病研究講座」に名称変更

10. 理事会

定例理事会の開催状況（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

議 事	内 容
<p>平成22年4月22日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 創立130年記念事業募金について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 平成22年度俸給表</p> <p>(2) 学校法人慈恵大学組織図</p> <p>(3) 幹部職員一覧</p> <p>(4) 新入職員数報告</p> <p>(5) 看護職員採用状況及び看護学科、看護専門学校卒業生の状況</p> <p>(6) 平成21年度中に制定・改定された規程について</p> <p>(7) 資産運用状況報告</p>	<p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 平成22年度初期臨床研修医採用について</p> <p>(2) レジデントの採用状況</p> <p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 評議員会の開催予定について</p> <p>日時：5月28日（金）午後3時～</p> <p>議題：平成21年度決算報告、その他</p>
<p>平成22年5月27日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 平成21年度決算</p> <p>3) 夏季賞与資金借入れについて</p> <p>4) 附属病院名誉院長に関する規程について</p> <p>5) 寄付講座の名称変更について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 平成21年度事業報告</p> <p>(2) 第三病院・国領校の一団地申請について</p> <p>(3) 会計検査院による検査について（講評）</p> <p>2) 学事関係報告</p>	<p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 本学在籍医師の逮捕（不同意墮胎罪容疑）について</p> <p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 評議員会の開催予定について</p> <p>日時：5月28日（金）午後3時～</p> <p>議題：平成21年度決算報告、その他</p>
<p>平成22年6月24日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 平成21年度決算修正事項について</p> <p>2) 教員人事</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 5月評議員会報告</p> <p>(2) 労働組合との交渉結果について</p> <p>(3) 宮崎県穆佐小学校児童招待の件</p> <p>(4) 宮崎県特別大使受入れの件</p> <p>(5) 東京慈恵会医科大学創立130年・同窓会設立85周年合同記念行事案内状送付について</p>	<p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 本学在籍医師の報道について</p> <p>(2) 薬品管理の改善策について</p> <p>(3) 青戸病院リニューアル（パンフレット配布）について</p> <p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p>

議 事	内 容
<p>平成22年 7月22日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 創立130年記念事業募金計画の骨子について</p> <p>3) 教員の懲戒について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p> <p>(2) 第126回成医会総会プログラムについて</p> <p>(3) 大学ガイド2011・大学院ガイド2011</p>	<p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 4病院院長・事務・看護部長会議報告</p> <p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 平成21年度事業報告書</p>
<p>平成22年 9月24日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 職員管理職人事（平成22年10月1日付）</p> <p>3) 平成22年度医療収入予算額・収益目標額の修正について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 創立130年記念事業募金について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(2) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(3) 多剤耐性アシネトバクターによる他大学病院院内感染事例</p>	<p>① 本学附属4病院の感染対策について</p> <p>② 全国医学部長病院長会議からの声明文</p> <p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 夏季常任理事会報告</p> <p>2) 第127回成医会の開催について</p>
<p>平成22年10月28日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 資産運用規程の改定について</p> <p>3) 創立120周年記念募金の総括について</p> <p>4) 医学部入学定員の変更について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 大学創立130年記念事業報告</p> <p>2) 法人関係報告</p> <p>(1) 資産運用状況報告</p> <p>3) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事関係報告</p>	<p>4) 病院関係報告</p> <p>(1) 研修医・レジデント応募状況について</p> <p>(2) 医療安全について</p> <p>① 医療安全週間</p> <p>② 平成21年度医療安全管理部活動報告</p> <p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p>

議 事	内 容
<p>平成22年11月25日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 賞与資金借入れについて</p> <p>3) 慈恵大学教育ローンについて</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事関係報告</p>	<p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 平成23年度レジデントについて</p> <p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p>
<p>平成22年12月24日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 役員人事</p> <p>(1) 寄付行為施行規則第34条に規定する人事の選任</p> <p>2) 教員人事</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 平成23年度専門修得コース（レジデント）について</p> <p>(2) 平成23年度初期臨床研修医採用予定者数について</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 評議員会の日程について</p> <p>(1) 平成23年3月8日（火）午後3時 平成23年度予算（案） 他</p> <p>(2) 平成23年5月27日（金）午後3時 平成22年度決算、平成22年度事業報告 他</p>
<p>平成23年1月27日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 平成23年度基礎系講座定員について</p> <p>3) 平成23年度附属4病院診療部・中央診療部定員について</p> <p>4) 職員管理職人事（平成23年2月1日付、4月1日付）</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 株式会社慈恵実業第36期決算報告</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 成医会例会案内</p> <p>2) 大学記録Ⅶ（平成16年度～20年度）の配付について</p> <p>3) 平成23年度理事会開催日程</p> <p>4) 全国医学部長病院長会議記者会見について</p> <p>5) 評議員会の日程について</p> <p>(1) 平成23年3月8日（火）午後3時 平成23年度予算（案） 他</p> <p>(2) 平成23年5月27日（金）午後3時 平成22年度決算、平成22年度事業報告 他</p>

議 事	内 容
<p>平成23年 2月24日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 平成23年度予算(案)について(説明)</p> <p>2) 教員人事</p> <p>3) 職員管理職人事(平成23年4月1日付)</p> <p>4) 寄付講座の設置について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 関連当事者との取引の調査依頼</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 評議員会の日程について</p> <p>(1) 平成23年3月8日(火)午後3時 平成23年度予算(案) 他</p> <p>(2) 平成23年5月27日(金)午後3時 平成22年度決算,平成22年度事業報告 他</p>
<p>平成23年 3月24日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 評議員の選任(寄附行為第24条)</p> <p>2) 平成23年度事業計画(案)について</p> <p>3) 平成23年度予算(案)について</p> <p>4) 特定預金の積み上げ</p> <p>5) 教員人事</p> <p>6) 職員管理職人事(平成23年4月1日付)</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 東北地方太平洋沖地震の影響について</p> <p>2) 法人関係報告</p> <p>3) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事関係報告</p> <p>4) 病院関係報告</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 配布資料</p> <p>(1) 教育・研究年報(2009)</p> <p>(2) Research Activities(2009)</p> <p>2) 評議員会の日程について</p> <p>(1) 平成23年5月27日(金)午後3時 平成22年度決算、事業報告他</p>

11. 評議員会

評議員会の開催状況（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

議 事	内 容
<p>平成22年5月28日</p> <p>1. 諮問事項</p> <p>1) 平成21年度決算</p> <p>2) 平成21年度監査報告</p> <p>3) 平成21年度事業報告</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 学事報告</p> <p>2) 平成21年度中に制定・改定・廃止となった規程類の件</p> <p>3) 国領キャンパス一団地申請について</p>	<p>4) 東京慈恵会医科大学創立130年・同窓会設立85周年合同記念事業について</p> <p>5) 経常費補助金に係わる会計検査院の実地検査報告</p> <p>6) 本学の医師に関する報道について</p> <p>3. その他</p>
<p>平成23年3月8日</p> <p>1. 諮問事項</p> <p>1) 平成23年度事業計画案の件</p> <p>2) 平成23年度予算案の件</p> <p>(1) 平成23年度予算案について</p> <p>(2) 平成23年度の銀行借入れについて</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 学事報告</p> <p>2) 東京慈恵会医科大学創立130年・同窓会設立85周年合同記念事業報告</p> <p>(1) 合同記念行事について</p> <p>(2) 大学創立130年記念事業募金の進捗状況について</p>	<p>3) 青戸病院リニューアルの件</p> <p>4) その他</p> <p>(1) 次回評議員会の開催について</p> <p>日時：5月27日（金）午後3時～</p> <p>場所：B会議室</p> <p>議題：平成22年度決算報告、その他</p> <p>3. その他</p>

12. 監査室

平成22年度の内部監査は前年度に引き続き公的補助金を中心に実施した。公的補助金以外に実施した内部監査は、「慈恵実業」、「事務業務分掌規程の改定および業務手順書の整備状況確認」であった。

1. 平成22年度に実施した内部監査

1) 公的補助金監査

- (1) 平成19年度および平成20年度分私立大学等経常費補助金（一般補助）
- (2) 平成21年度分私立大学等経常費補助金（一般補助、特別補助）
- (3) 平成21年度分厚生労働科学研究費等補助金
- (4) 平成21年度分文部科学省科学研究費補助金
- (5) 平成21年度分独立行政法人科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業(CREST、さきがけ)委託研究費

2) 業務監査

- (1) 慈恵実業（慈恵実業監査室による平成21年度内部監査実施状況および結果の確認）
- (2) 事務業務分掌規程の改定および業務手順書の整備状況確認
- (3) 事務部門における仮払金管理業務（一部次年度継続）

2. 監事並びに監査法人との連携

- 1) 監事との意見交換
- 2) 2回（平成22年4月、平成23年2月）

11. 評議員会

評議員会の開催状況（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

議 事	内 容
<p>平成22年5月28日</p> <p>1. 諮問事項</p> <p>1) 平成21年度決算</p> <p>2) 平成21年度監査報告</p> <p>3) 平成21年度事業報告</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 学事報告</p> <p>2) 平成21年度中に制定・改定・廃止となった規程類の件</p> <p>3) 国領キャンパス一団地申請について</p>	<p>4) 東京慈恵会医科大学創立130年・同窓会設立85周年合同記念事業について</p> <p>5) 経常費補助金に係わる会計検査院の実地検査報告</p> <p>6) 本学の医師に関する報道について</p> <p>3. その他</p>
<p>平成23年3月8日</p> <p>1. 諮問事項</p> <p>1) 平成23年度事業計画案の件</p> <p>2) 平成23年度予算案の件</p> <p>(1) 平成23年度予算案について</p> <p>(2) 平成23年度の銀行借入れについて</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 学事報告</p> <p>2) 東京慈恵会医科大学創立130年・同窓会設立85周年合同記念事業報告</p> <p>(1) 合同記念行事について</p> <p>(2) 大学創立130年記念事業募金の進捗状況について</p>	<p>3) 青戸病院リニューアルの件</p> <p>4) その他</p> <p>(1) 次回評議員会の開催について</p> <p>日時：5月27日（金）午後3時～</p> <p>場所：B会議室</p> <p>議題：平成22年度決算報告、その他</p> <p>3. その他</p>

12. 監査室

平成22年度の内部監査は前年度に引き続き公的補助金を中心に実施した。公的補助金以外に実施した内部監査は、「慈恵実業」、「事務業務分掌規程の改定および業務手順書の整備状況確認」であった。

1. 平成22年度に実施した内部監査

1) 公的補助金監査

- (1) 平成19年度および平成20年度分私立大学等経常費補助金（一般補助）
- (2) 平成21年度分私立大学等経常費補助金（一般補助、特別補助）
- (3) 平成21年度分厚生労働科学研究費等補助金
- (4) 平成21年度分文部科学省科学研究費補助金
- (5) 平成21年度分独立行政法人科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業(CREST、さきがけ)委託研究費

2) 業務監査

- (1) 慈恵実業（慈恵実業監査室による平成21年度内部監査実施状況および結果の確認）
- (2) 事務業務分掌規程の改定および業務手順書の整備状況確認
- (3) 事務部門における仮払金管理業務（一部次年度継続）

2. 監事並びに監査法人との連携

- 1) 監事との意見交換
- 2) 2回（平成22年4月、平成23年2月）

- 2) 監事への内部監査報告 2回(平成22年10月、平成23年3月)
- 3) 監査法人との意見交換 1回(平成23年2月)
- 4) 監査法人への内部監査報告 1回(平成23年2月)

Ⅱ. 東京慈恵会医科大学

1. 教授、その他の人事（平成22年4月～平成23年3月）

1) 平成23年3月31日付退任教授

氏名	旧担当	現在
渡邊直熙	熱帯医学	名誉教授の称号を贈る
法橋建	総合診療部	客員教授を任命する(国民健康保険審査委員在任中)
伊藤文之	小児科学	
山田昭夫	内科学 (リウマチ・膠原病内科)	
星順隆	輸血部	
藤村龍子	看護学科長・ 成人看護学	客員教授の称号を贈る
奥山則子	地域看護学	

2) 新任教授

氏名	担当	就任年月日	経歴	備考
竹森重	分子生理学	平22.4.1	昭和60年 本学卒	分子生理学 准教授より
宇都宮一典	内科学 (糖尿病・代謝・内分泌)	平22.4.1	昭和54年 本学卒	糖尿病・代謝・内分泌内 科定員外教授より
小林進	外科学	平22.4.1	昭和47年 本学卒	外科学 特任教授より
村山雄一	脳神経外科学	平22.4.1	平成元年 本学卒	脳神経外科学 特任教授より
北素子	在宅看護学	平22.4.1	平成7年 立命館大卒	
横田邦信	大学直属	平22.5.1	昭和53年 本学卒	大学直属 准教授より
岸本幸一	泌尿器科学	平22.5.1	昭和53年 本学卒	泌尿器科学 准教授より
宮本幸夫	放射線医学	平22.8.1	昭和57年 本学卒	放射線医学 准教授より
酒田昭彦	病理学	平23.3.1	昭和52年 本学卒	病理学 准教授より
岡尚省	内科学 (神経内科)	平23.3.1	昭和54年 本学卒	神経内科 准教授より

3) 新任客員教授

氏名	所属	就任年月日	備考
成宮学	内科学	平22.5.1	国立病院機構西埼玉中央病院在任中
小野寺昭一	大学	平22.7.1	富士市立中央病院在任中
奥山虎之	総合医科学研究センター	平23.2.1	国立成育医療研究センター臨床検査部長 (H23.2.1～H25.3.31の間)

4) 特任教授

氏名	所属	就任年月日	備考
穴澤貞夫	看護学科	平19.4.1	特任期間：平成22年4月1日～ 平成23年3月31日
伊藤文之	看護学科	平19.4.1	特任期間：平成22年4月1日～ 平成23年3月31日
衛藤義勝	遺伝病研究講座	平20.11.1	特任期間：平成22年4月1日～ 平成25年3月31日
檜垣恵	総合健診予防医学センター 新橋健診センター	平18.1.1	特任期間：平成22年4月1日～ 平成23年3月31日
古幡博	医用エンジニアリング研究室	平22.4.1	特任期間：平成22年4月1日～ 平成25年3月31日

5) 叙位・叙勲

平成22年度の叙勲受章者

平成22年4月29日 瑞宝双光章 小路美喜子 元附属病院看護部長

平成22年度の死亡叙位

平成22年8月4日 従五位 野本 浩智 名誉教授

6) 訃 報

大森 薫雄	客員教授	平成22年4月24日	逝去
野本 浩智	名誉教授	平成22年8月4日	逝去
柏崎 修	客員教授	平成22年8月9日	逝去
天神 美夫	客員教授	平成22年10月5日	逝去
亀田 治男	客員教授	平成22年11月15日	逝去
伊東 保	客員教授	平成22年11月16日	逝去
増田 允	客員教授	平成23年2月21日	逝去

2. 教職員数

1) 教員数 平成22年5月1日現在

① 医学科

専任教員 1,158名	その他教員 1,181名
(内訳) 本学を本務とする者 1,135名	(内訳) 本学を本務とする者 207名
日本クラブ診療所派遣中 3名	関連病院派遣中 551名
留学中 14名	留学中 35名
休職中 6名	休職中 70名
	上記以外(名誉・客員教授・講師 (非常勤)) 318名

② 看護学科

専任教員 33名	その他教員 19名
----------	-----------

2) 初期臨床研修医数(平成22年5月1日現在)

1年	本院	40名	2年	本院	45名
	〃 歯科	3名		〃 歯科	2名
	青戸病院	4名		青戸病院	7名
	第三病院	20名		第三病院	20名
	柏病院	21名		柏病院	13名
	合計	88名		合計	87名
				総合計	175名

3) 職員数(看護師を含む)(平成22年5月1日現在)

大学 *	232名
本院 **	1,570名
青戸病院	534名
第三病院 ***	811名
柏病院 ***	846名
計	3,993名

常勤職員のみ(長期非稼働者を除く)

◆ 法人事務局、医学科国領校、看護学科、慈恵看護専門学校を含む。

** 晴海トリートメントクリニックを含む。

*** それぞれ看護専門学校を含む。

4) 看護師数(平成22年5月1日現在)

	正 看	准 看	その他*	計
本 院	1,019名	0名	65名	1,084名
青 戸 病 院	345名	4名	35名	384名
第 三 病 院	528名	1名	38名	567名
柏 病 院	561名	0名	58名	619名
計	2,453名	5名	196名	2,654名

*事務員(看護部所属)、看護補助員、診療補助員、保育士

3. 教 育

1) 医学部医学科学生数など（平成22年5月1日現在）

(1) 学生数および各学年担当教学委員

学年	定員	人員	内 訳		学年担当教学委員	学 生 保 健 指 導 委 員 会
			男	女		
1	105	109	70	39	福山 隆夫 教授	委員長 福田 国彦 教授 副委員長 竹田 宏 講師
2	105	107	74	33	靱山 俊彦 教授	【委員】 銭谷 幹男 教授（総合健診・予防医学センター） 齋藤 義弘 講師（小児科）
3	100	107	83	24	近藤 一博 教授	吉田 正樹 講師（感染制御部） 小此木英男 助教（1年担当・内科）
4	100	95	74	21	小川 武希 教授	三枝 裕和 助教（"・放射線） 中村 敬 教授（"・精神）
5	100	101	82	19	尾上 尚志 准教授	川井 真 講師（2年担当・内科） 横田 邦信 准教授（3年担当・内科）
6	100	97	60	37	宇都宮一典 教授	原 弘道 助教（4年担当・内科） 上竹慎一郎 助教（5年担当・内科） 宇都宮保典 准教授（6年担当・内科）
計	610	616	443	173		中山 和彦 教授（2～6年担当・精神）

（国領校：109名 西新橋校：507名）

(2) 教学委員長 学生部長 大学事務部長

・教学委員長	松藤 千弥 教授
・副教学委員長	福田 国彦 教授
"	岡野 孝 教授
・学生部長	中川 秀己 教授
・副学生部長	羽野 寛 教授
"	福山 隆夫 教授
・大学事務部長	高橋実貴雄

2) 医学部看護学科学生数など（平成22年5月1日現在）

(1) 学生数および学年担当委員など

学年	定員	人員	内 訳		学 年 担 当 委 員 等
			男	女	
1	40	43	2	41	委 員 伊藤 文之 教授（保健指導担当）
2	40	40	1	39	" 北 素子 教授（1年担当）
3	40	41	1	40	" 長 佳代 准教授（2年担当）
4	40	43	1	42	" 渡邊 知映 講師（3年担当）
計	160	167	5	162	" 嶋澤 順子 准教授（4年担当）

(2) 教学委員長・学生部長・学事課長

・教学委員長	櫻井美代子 教授
・学生部長	濱中 喜代 教授
・学事課係長	深澤 博臣

3) 大学院学生数（医学系専攻博士課程）（平成22年5月1日現在）

学年	定員	人員	内 訳		大 学 院 委 員 会			
			男	女				
1	66	35	26	9	委 員 長：栗原 敏 学長			
2	66	20	17	3	委 員：渡邊 直熙 教授 阿部 俊昭 教授			
3	66	27	17	10	松藤 千弥 教授 細谷 龍男 教授			
4	66	20	15	5	近藤 一博 教授 中川 秀己 教授			
計	264	102	75	27	オブザーバ：高木 敬三 専務理事 山田 尚 教授			

4) 大学院学生数（看護学専攻修士課程）（平成22年5月1日現在）

学年	定員	人員	内 訳		大 学 院 委 員 会（修 士 課 程）			
			男	女				
1	10	12	1	11	委 員 長：菊地登喜子 専攻長			
2	10	12	0	12	委 員：柿川 房子 教授 櫻井 尚子 教授			
計	20	24	1	23	藤村 龍子 教授 茅島 江子 教授			

5) 大学および大学院など

(1) 医 学 科

I. 教学関係

1. 教学委員会

平成22年度医学科教学委員会は国領校選出委員2名および西新橋校選出委員15名の計17名で運営された。委員会は毎月2回定例で開催された。平成22年度の各教学委員の役割分担は以下の通りである。

医学科教学委員会：松藤千弥（教学委員長）、福田国彦（副教学委員長、学生保健指導委員長）、岡野孝（副教学委員長）、中川秀己（学生部長、学生担当委員長）、羽野寛（副学生部長、学生担当副委員長）、福山隆夫（副学生部長、学生担当副委員長、1学年担当）、柳澤裕之（カリキュラム委員長）、福島統（カリキュラム自己点検・評価委員長）、木村直史（試験委員長）、中山和彦（学生相談室委員長）、川村哲也（臨床実習教育委員長）、靱山俊彦（2学年担当）、近藤一博（教育施設委員長、3学年担当）、小川武希（4学年担当）、尾上尚志（5学年担当）、宇都宮一典（6学年担当）、伊坪真理子

2. 平成22年度医学科の進級、卒業者

1年：進級	106人	留年	1人	休学	1人	退学	1人
2年： "	100人	"	3人	休学	2人	退学	2人
3年： "	104人	"	3人				
4年： "	90人	"	4人	退学	1人		
5年： "	101人	"	0人				
6年：卒業	97人	"	0人				

以上の結果、平成23年度の学生数は1年-113人、2年-111人、3年-103人、4年-108人、5年-90人、6年-101人、合計626人

3. カリキュラムの改訂と経過

3年次の「研究室配属」を3週間から6週間に延長した。4年次でコース「臨床医学Ⅰ」、「社会医学Ⅱ」、「外国語Ⅳ」が1コマ90分間から70分間に短縮され、従来180分間であった実習・演習時間は175分間となった。3年次のコース「社会医学Ⅰ」から「法医学」を除くユニットを4年次のコース「社会医学Ⅱ」に移すこととなった。なお経過措置のため当ユニットを平成22年度は開講せず、平成23年度に開講される。4年次のコース「医学総論Ⅳ」に、ユニット「医学総論Ⅳ演習－医療安全－」を新設した

4. 教学委員と学生会委員との懇談会

例年同様に平成22年7月12日（月）、平成22年12月13日（月）に開催された。学生会からの主な報告は前年度活動報告、会計報告、平成22年度予算案、京都市立医科大学定期戦成績（3勝16敗）、第53回東日本医科学学生総合体育大会成績、慈恵祭の準備・報告、学生のアンケート調査結果等であった。また、設備の改善および講義配布資料の改善に関する要望があった。

5. 第51回～第56回 Faculty Development

平成21年4月以降の開催および修了証を授与された参加者数は以下の通りである。

第51回 Faculty Development

日 時：平成22年5月16日（日）

場 所：西新橋校

テーマ：在宅ケア実習指導者FDワークショップ

修了証受領者（12名、実行委員2名）

第52回 Faculty Development

日 時：平成22年7月3日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：試験問題作成

修了証受領者（38名、実行委員7名）

第53回 Faculty Development

日 時：平成22年10月24日（日）

場 所：西新橋校

テーマ：家庭医実習指導医FDワークショップ

修了証受領者（5名、実行委員2名）

第54回 Faculty Development

日 時：平成22年10月30日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：クリニカル・クラークシップ指導医養成

修了証受領者（33名、実行委員10名）

第55回 Faculty Development

日 時：平成22年11月13日（土）

場 所：国領校

テーマ：初年次教育に関するワークショップ

修了証受領者（23名、実行委員11名）

第56回 Faculty Development

日 時：平成22年12月11日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：OSCE評価者トレーニング

修了証受領者（44名、実行委員16名）

6. 第49回～第51回医学教育セミナー

以下のとおり開催された。

第49回医学教育セミナー

日 時：平成22年6月9日（水）

場 所：西新橋校

講 演：医師国家試験の変遷

三苦博教授（東京医科大学、医学教育学）

第50回医学教育セミナー

日 時：平成22年10月22日（金）

場 所：西新橋校

講演：臨床実習、臨床研修、専門医研修（ジェネラリスト養成を含む）における大学附属病院の教育機能
平出敦教授（近畿大学、救急診療部）

第51回医学教育セミナー

日時：平成22年11月15日（月）

場所：西新橋校

講演：セント・ジョージ医科大学の医学教育-ITを駆使しての医学教育-

Peter McCrorie教授（英国、セント・ジョージ医科大学、医学教育学）

7. 第35回カリキュラム特別検討会

以下のとおり開催された。

第35回カリキュラム特別検討会

日時：平成23年2月16日（水）

場所：西新橋校

テーマ：4年次70分間講義—1年目の検証と今後に向けて—

8. その他の報告事項

1) 新入生オリエンテーション

平成22年4月9日（金）、10日（土）の両日、新1年生を対象にオリエンテーションが行われた。初日は、学長より建学の精神と医学生としての心構えについての講話、小論文作成、学生生活アドバイザーとのグループ討論ならびに懇談会等があり、2日目はカリキュラム、健康管理の説明、学生生活等についての諸注意が行われた。

2) 首都大学東京から学生の受入れ

首都大学東京との教育・研究交流協定書に基づき特別科目等履修生を受入れた。

平成22年度は国領校で前期3名、後期4名（実質4名）、西新橋校2名、合計6名の学生の単位を認定した。

3) 学祖の墓参および学長、教学委員と学生の懇親会

学長、教学委員、学生代表が平成22年10月9日（土）に青山墓地に眠る学祖高木兼寛先生の墓参をした。また学祖を偲んで千代田区一ツ橋の如水會館で懇親会を開催した。

4) 学生生活アドバイザー

担当教員はそれぞれ4～5名の学生を受持っている。1年生は国領校教員および第三病院勤務教員、2年生は西新橋校基礎講座教員が担当している。また、総括と意見交換のためにアドバイザーが集まって懇談会を開催した。

5) 共用試験システム

「臨床実習開始前の学生評価のための共用試験システム」が例年どおり運用された。OSCEは平成23年1月16日（土）に西新橋校大学1号館8階演習室および7階実習室で、CBTは平成23年2月5日（金）に西新橋校4階講堂で実施された。受験者数93名、欠席者なしであった。またCBTの再試験は該当者なしであった。

6) 4大学学生教育交流会

本学と昭和大学、東邦大学、東京医科大学の4校が持ち回りで年2回の開催が続けられている。カリキュラム全般および臨床実習、卒業試験、医師国家試験、共用試験等に関する話題を中心に継続的な交流が図られている。平成22年度は4校の協力で展開している戦略的大学連携支援事業の最終年度であり当初の目的が予定通り達成された。平成22年度の開催日および当番校は以下の通りであった。

第24回 平成22年5月21日（金）昭和大学

第25回 平成22年11月12日（金）東京慈恵会医科大学

7) オープンキャンパス

例年8月に行っている医学科大学説明会は、昨年度よりオープンキャンパスに名称を改め、3回ともオープンキャンパスとして広報し、いずれも午後1時30分から開催した。終了後、

大学1号館教育施設の見学と個別相談会を実施した。

- 1回目：平成22年8月28日（土）中央講堂 参加者：約800名
- 2回目：平成22年9月25日（土）中央講堂 参加者：約340名
- 3回目：平成22年10月23日（土）1号館講堂 参加者：約180名

8) 教育施設

平成25年度からの看護学科入学定員増員計画に基づき、国領キャンパス施設改修委員会を立ち上げて検討を開始した。看護学科教育環境のスペース確保については、改築ではなく増築工事で継続して検討することとなった。国領校については、トイレ等一部の改修を行うこととした。

II. 入学試験

1. 入学試験は、平成23年2月6日（日）に五反田TOCビルで一次試験を、2月19日（土）・20日（日）に本学西新橋校舎で二次試験を実施し、2月23日（水）午後3時に合格発表を行った。今年度より東京都地域枠5名を設け、入学定員が105名から110名となった。志願者数は2,574名、入学者数は111名である。入学者の内訳は下記の通りである。

- ① 男子 72名、女子 39名
- ② 現役 45名、1浪 42名、2浪 14名、その他 10名
- ③ 地域別入学者数
 - 北海道 0名 東北地方 1名
 - 東京および関東地方 90名 甲信越・北陸地方 1名
 - 東海・近畿地方 9名 山陽地方 1名
 - 四国地方 2名 九州地方 5名
 - その他（在外教育施設等）2名

III. 国家試験

1. 医師国家試験

第105回医師国家試験は平成23年2月12日（土）～14日（月）の3日間に渡り実施され、結果が3月18日（金）に発表された。

本学からの受験者数は106人であり、合格者103人、合格率97.2%であった。全国平均合格率は89.3%であり、本学の合格率は全国3位、私立2位であった。新卒者については97人中合格者97人、合格率100%（全国平均92.6%）、既卒者については受験者9人中6人が合格し合格率66.7%（全国平均60.2%）であった。

IV. 退任記念講義

平成23年1月31日（月）午後3時30分から大学1号館講堂において開催された。

渡邊 直熙 教授（熱帯医学講座）

演 題：「新たな概念を求めてIgEとともに」

基礎医学の分野で活躍された渡邊教授の含蓄ある講義に学生及び教職員一同が大変感銘を受けた。次いで松藤千弥教学委員長から同じく定年退任される4名の伊藤文之教授（小児科学）、山田昭夫教授（内科学：リウマチ・膠原病内科）、法橋 建教授（総合診療部）、星 順隆教授（輸血部）の略歴が紹介され、栗原敏学長より挨拶があり記念品が贈呈された。また、学生会より記念品並びに花束贈呈があり、同窓会、父兄会より記念品の贈呈があった。

退任記念講義終了後、退任される5教授を囲んで退任記念パーティーが「東京プリンスホテル サンプラワーホール」にて開催された。会場には、教職員、同窓、学生が参集し、盛大なうちに会は終了した。

国領校では、平成23年1月15日（土）午後2時から国領校本館講堂において藤村龍子教授（看護学科長）、佐藤幸一教授（物理学研究室）の最終講義を実施した。終了後、ベラ食堂にて記念パーティーが開催された。

(2) 看護学科

I. 教学関係

1. 教学委員会

看護学科教学委員会は看護学科教学委員長1名、看護学科教学委員4名をもって構成され、教学委員会は定例として毎月1回開催されている。

教学委員は以下の通りである。

平成22年4月～平成23年3月

教学委員長 櫻井美代子

教学委員 芳賀佐和子、高島 尚美

濱中 喜代、嶋澤 順子

2. 教学関連の主な事項

- ① 平成22年度は、1年生（19期生）43名、2年生（18期生）40名、3年生（17期生）41名、4年生（16期生）43名で新学期をむかえた。
- ② 平成22年度オリエンテーションは、4月9日から16日にかけて実施した。カリキュラムや学生生活上の注意などの説明、健康診断や防災、防犯についての講習会、カルト教団への注意を喚起する講演も平行して行なわれた。
- ③ 平成22年4月24日、全学生に向けた川嶋みどり氏（日本赤十字看護大学教授）による講演会（テーマ「未来の看護チャレンジャーとしてあなたへー看護師60年からのメッセージ」）を行なった。
- ④ 次の期間に定期試験を実施した。
 - ・前期 平成22年6月26日
平成22年8月27日～9月18日
 - ・後期 平成23年2月1日～2月5日
- ⑤ 平成22年7月24日、18期生の「看護への思いを新たにする式」の一環として、廣井嘉代子氏（東京慈恵会医科大学附属病院看護部・・・本学2期生）による講演会が実施され、9月4日に本学関係者、ご父母をお招きし、式典を行った。また、同日保護者会も開催し、有意義な意見交換ができた。
- ⑥ 平成22年10月23日、浅倉美津子氏（薬害肝炎東京原告団）による講演会を開催した。
- ⑦ 平成22年10月9日には学祖高木兼寛先生の墓参があり、学生代表が参加した。
- ⑧ 平成22年10月28日には解剖諸霊位供養法会が行なわれ、4年生が参加した。
- ⑨ 平成22年11月27日、4年生の看護研究発表会が行なわれた。
- ⑩ 平成23年3月11日には医学科と合同の卒業式が西新橋で行なわれ、16期生42名が卒業し、慈大賞と同窓会賞がそれぞれ1名に贈られた。

II. 入学試験

1. 平成23年度入学試験は、平成23年2月10日に一次試験を、2月13日に二次試験を実施した。志願者数は、315名、入学者は42名、その内訳は次のとおりである。

① 女子 40名、男子 2名

② 現役 34名、1浪 5名、その他 3名

③ 地域別入学者数

北海道地方	1名	東北地方	1名
東京および関東地方	38名	信越地方	2名
東海地方	0名	近畿地方	0名
中国・四国地方	0名	九州・沖縄地方	0名

2. 平成22年度オープンキャンパスは、平成22年7月17日と8月3日・4日の3日間実施し、参加者数は529名であった。内訳は、7月が240名、8月が151、138名であった。

3. 受験生の確保を目的に、学外で開催された3箇所の大学ガイダンス等に分担して教員・学事課

職員が参加した。

4. 高等学校 8 校へ訪問し、本学のピーアールや看護について進路指導の先生方へ説明し、看護について理解を深めてもらった。また、模擬授業も 3 校で実施した。

Ⅲ. 国家試験

1. 看護師・保健師国家試験

第100回看護師国家試験は、平成23年 2 月20日（日）に、第97回保健師国家試験は平成23年 2 月18日（金）に実施され、その結果が 3 月25日（金）に発表された。

看護師、保健師国家試験ともに16期生42名が受験し、看護師は41名（97.6%）、保健師は37名（88.1%）が合格した。

なお、全国の看護師国家試験合格率は91.8%、保健師国家試験合格率は86.3%であった。

Ⅳ. 学生生活アドバイザー

平成21年度より、学生生活を稔り豊かなものとするため、学習上や生活上の悩みを気軽に相談できる学生生活アドバイザー制度を導入した。1、2 年生を対象とし、比較的若手の教員が 4～5 名の学生を担当し、前期・後期それぞれ 1 回の交流活動の他、適宜自由に活動を行なった。学生アンケートの結果は好評であった。

(3) 大学院

1. 医学研究科博士課程

平成19年度より大学院改革を実施し、以後大学院の改善充実化を図るため種々検討を重ね、実施している。平成22年度は以下について検討を行った。

1) 研究助成制度の見直し

経常費補助金特別補助の大幅な見直しにより、大学院生に対する大学院研究助成金と大学院教員に対する医学研究科研究推進費の助成制度が廃止された。本学では研究の充実化と活性化を堅持するため以下のとおりとし、平成23年度より実施することとした。

- ① 大学院研究助成金を見直し、助成額を50万円から30万円とした。

平成23年度採択件数：12件

- ② 医学研究科研究推進費を次のとおりとした。

- ・研究助成期間の見直し「3年間」を「2年間」とする。
- ・1件あたりの年間助成額の見直し「上限500万円」を「上限300万円」とする。

平成23年度採択件数：新規 2 件、継続 5 件

2) 海外派遣助成金の増額

同窓会のご厚意により、同窓会基金による海外派遣助成の総額を100万円から200万円に増額していただいた。従来対象は、大学院生のみであったが、平成22年度から大学院生ならびに若手研究者（講師以上を除く）とした。

3) 星薬科大学との学術交流の締結

本学と星薬科大学は、それぞれ専門とする分野の特色を生かして、包括的に教育および研究分野で以下の点について連携していくこととした。

- ① 教育・研究面での相互協力推進と、その具体策の策定
- ② 相互理解を深めるためのシンポジウム等の学術交流事業の実施
- ③ その他、両大学が必要と認める事項等の検討

4) 大学院教員へ Faculty Development の実施

大学院委員会と倫理委員会共催でFD「臨床研究に関する講習会」を実施した。

日時：平成22年 6 月22日（火）18：00～ 講師：薄井紀子

5) カリキュラムの内容の検証

社会人大学院生のニーズにより、共通カリキュラムにe-learningシステムを利用した「疫学・臨床研究」の科目を導入した。当授業は、平成23年度から実施することとした。

6) その他

・社会人大学院生の勤務状況を配慮して、平成23年度より入学式を4月第1週目の土曜日に設定した。

平成23年度の大学院入試は2回実施し、1回目は平成22年10月16日に、2回目は平成23年1月22日に実施した。その結果、33名（うち社会人6名）が合格した。本学の大学院生は本学の各講座、総合医科学研究センターのみならず、国外ではカリフォルニア大学、ボストン大学、スタンフォード大学、ベイラー医科大学など、国内では東京大学、大阪大学、防衛大学校、慶應大学および放射線医学総合研究所、国立成育医療センター、国立感染症研究所など国内外の様々な大学、研究所でも広く研究を行っている。

2. 看護学専攻修士課程

平成22年度に本課程は完成年度を迎え、より課程の安定的な運営に努めるべく研究科委員会、大学院委員会、教学委員会、FD委員会、大学自己点検・評価委員会、入学試験委員会の有機的連携と運営を図った。

- 1) 教育研究活動においては、教員への教育研究支援としての「研究指導費」の運営面での充実を図り、学生に対しては、博士課程と同様な「研究助成制度」の機能的運用で、学生にとっては、研究指導費の院生使用分と研究助成制度により、活動の範囲や内容を高めることを図った。研究助成制度による研究助成採択者は11名。
- 2) 開設当初より、目標であった専門看護師教育課程（認定機関：一般社団法人日本看護系大学協議会所管）へ平成22年7月29日に申請を行い、本課程の成人看護学（急性・重症患者看護学）分野でクリティカルケア看護分野、がん看護学分野でがん看護分野において、それぞれ専門看護師教育課程の認定を23年2月16日付けにて受けた。
- 3) 入学試験は、募集を平成22年8月10日（火）～9月10日（金）間に行い、出願資格認定試験を平成22年9月18日（土）、一般入学試験を平成22年9月26日（日）に実施した。その結果、10名の応募があり、10名が合格した。
- 4) 平成21年4月に入学した院生の1期生の修了式を平成23年3月11日に挙行了た。
修了者：11名
- 5) 文部科学省へ大学等の設置に係る設置計画履行状況報告の開設後2年間について、平成21年5月13日（木）に提出し、平成23年2月4日付けにて、「特段の留意事項は付さない」との通知を受けた。

6) 慈恵看護専門学校の状況

看護専門学校学生数（平成22年5月1日現在）

	学生総定員数	1学年定員数	1年生	2年生	3年生	計
	人	人	人	人	人	人
慈恵看護専門学校	300	100	98	98	108	304
慈恵第三看護専門学校	150	50	52	58	51	161
慈恵柏看護専門学校	240	80	80	91	61	232
計	690	230	230	247	220	697

(1) 慈恵看護専門学校

I. 教学関係（校長：川村将弘、副校長：蝦名總子、事務長：岡村秀樹）

1. 運営委員会

- ① 慈恵看護専門学校運営委員会は校長、副校長、教務主任、事務長、慈恵会局長の5名をもって構成され、定例として毎月1回開催されている。
- ② カリキュラム運営委員会は副校長、教務主任、とカリキュラム委員5人で構成され週1回開催されている。

2. 教学関連の主な事項

- ① 平成22年度1年生（61期生）98名（新入生 95名＋復学者3名）、2年生（60期生）98名、3年生（59期生）108名、で新学期をむかえた。
- ② 平成22年度オリエンテーションは4月6日から4月26日にかけて、学校生活を円滑に送ることができるようガイダンスが行われた。この間に上級生と交流する機会も持った。オリエンテーションの一環として1年生を対象に防災訓練を実施した。
- ③ カリキュラム改訂
平成21年度入学生より新カリキュラム（97単位）を導入。22年度は1、2年生は新カリキュラム、3年生は旧カリキュラムを運営した。新たに開講した科目は次年度に向け、教授内容の評価修正を行なった。また次年度開講科目の準備を行なった。成人看護学3実習において3年生全員に夜間実習を経験させた。夜間の看護師の仕事の実際や患者の様子を知り看護師としての役割を広く学べた。学生の学びをまとめ看護学教育学会や日本看護協会看護教育学会に報告した。
旧カリキュラム未履修科目を持つ者が単位を新カリキュラムの教授内容で履修できるよう単位互換の整理、および対象学生へのガイダンスを行った。
- ④ 次の期間に定期試験を実施した。
 - ・前期 平成22年9月16日～9月25日
 - ・後期 平成22年12月13日～12月16日
平成23年2月12日～2月19日
- ⑤ 平成22年10月6日には東京都看護協会主催の看護学生看護研究学会（普門館）に2、3年生が参加。本学の学生3名が発表した。
- ⑥ 平成22年10月25日、26日、3年生の学外セミナーを実施。「ケアの本質」について話し合い看護についての学びを深めた。
- ⑦ 平成22年10月29日看護研究発表会、平成23年3月7日看護観発表会を3年生が行った。
- ⑧ 平成23年3月10日に卒業式が行なわれ、82名が卒業し、優等賞と同窓会恵和会賞がそれぞれ1名に贈られた。
- ⑨ 平成23年3月11日震災発生日は2年生が臨床実習中であった。全学生の負傷者はなかった。当日帰宅困難な学生約100名が校舎内に宿泊した。3月のカリキュラム予定を見直し学生が最小限の出校になるよう配慮した。

II. 入学試験

1. 平成23年度入学試験は次のとおり実施した。

推薦・大学卒選考〔一次〕平成22年10月27日（水）〔二次〕平成22年11月13日（土）

一般選考 〔一次〕平成23年1月19日（水）〔二次〕平成23年1月22日（土）

志願者数は440名（推薦84名・大学卒111名・一般245名）昨年度より推薦選考志望者が30名増加した。入学者は104名（推薦69名・大学卒10名・一般25名）であった。

2. 平成21年度オープンキャンパスは、平成22年7月17日（土）・8月28日（土）・11月27日（土）の3日間実施し、参加者数は555名（内訳は7月202名、8月258名、11月95名）であった。

3. 予備校主催入試ガイダンス等は、7月に6箇所、12月に2箇所、分担して教員・事務員が参加した。

III. 国家試験

第99回看護師国家試験は、平成23年2月22日（日）に実施され、その結果が3月25日（金）に発

表された。59期生82名が受験し、82名全員が合格した。

(2) 慈恵第三看護専門学校 (校長：横山淳一、副校長：平岡宮子、事務長：佐藤 博)

I. 教学関係

1. 会 議

下記の会議を置き学校運営にあたっている。

運営会議は学校長、副校長、参与、教務主任、実習調整者、学年主責任者、事務長で構成され、毎月約1回のペースで開催されている。その他の会議・委員会は、教員会議、教職員会議、認定会議、入学試験判定会議、カリキュラム会議、講師会議、臨床実習指導者会議等である。

2. 教学関連の主な事項

- ① 4月5日(月) 3校合同入学式が西新橋で行われ、当日、保護者会を開催した。平成22年度1年生(21期生)58名、2年生(20期生)52名、3年生(19期生)60名計170名で新学期をむかえた。
- ② 5月15日3校交流会を第三校で開催した。
- ③ 6月10日～12日、2泊3日の日程で平山キャンプ場にて教育キャンプを実施した。
- ④ 5月29日、細谷亮太氏による「子どもの命と向き合って」のテーマで恵和会特別講演を3校学生対象に開催した。
- ⑤ 7月17日、3年生保護者会を開催し看護師国家試験の現状と対策を理解していただき、学生が実習や学習に集中できるように協力してもらうための機会とした。
- ⑥ 7月24日、9月25日、11月7日(学校祭同時開催)の3回、学校説明会を開催した。参加総数は、受験生および保護者を含め292名であった。
- ⑦ 10月12日講師会を開催し、今年度は参加者を看護部長及び各師長とし、23年度の統合実習の実施に向けて臨床と意見交換をする機会とした。
- ⑧ 11月26日、理事長同席のもと1年生57名の戴帽式を実施した。
- ⑨ 12月11日、第4回 Home Coming Dayを6階大教室で開催し、卒業生教職員合わせて66名の参加があった。
- ⑩ 平成23年3月10日2校合同の卒業式が西新橋で行われた。19期生56名が卒業し、優等賞と同窓会より恵和会賞が授与された。

II. 入学試験

平成22年度入学試験は、推薦入試を平成21年11月19日(木)・11月28日(土)、一般入試を平成22年1月17日(日)・1月19日(火)に実施した。

志願者数は推薦29名、一般188名、入学者は57名であった。

III. 国家試験

第100回看護師国家試験は、平成23年2月20日(日)に実施され19期生56名が受験し、54名(96.4%)が合格した。なお、全国の看護師国家試験合格率は91.8%であった。

(3) 慈恵柏看護専門学校 (校長：佐々木敬、副校長：山下紳子、事務長：宮崎栄一)

I. 教学関係

1. 学校運営に関する会議

- 1) 学校運営会議は、毎月1回開催されている。
- 2) 教職員会議は、毎月1回開催されている。
- 3) 教員会議は、毎月2回開催されている。

2. 教学関連の主な事項

- 1) 平成22年4月5日(月)、3校合同入学式を挙行了した(24期生：入学者79名)。
- 2) 平成22年度は1年生(24期生)80名、2年生(23期生)91名、3年生(22期生)61名の計232名で新学期を迎えた。
- 3) 4月6日(火)、平成22年度始めにあたり、全学生を対象に始業対面式を実施した。

教職員紹介、学年のクラス編成の説明及び校長より教育方針の表明を行ない、3年間の学習計画導入として行なっている。

- 4) 4月2日(金)に、講師会を実施した。本校の教育計画の周知と日頃の教育に関する意見交換の場として活用している。
- 5) 5月15日(土)に、第三看護専門学校講堂において3校合同交流会を行なった。今回は征矢光生講師(新宿セミナー国家試験対策本部 部長)を招き講演を行なった。演題は「人を教えること、育てること」であった。
- 6) 5月29日(土)に看護専門学校3校の学生を対象に恵和会の特別講演が行われた。講師は聖路加国際病院副院長 細谷亮太先生(演題:子どもの命と向きあって)であった。
- 7) 人間関係の基礎倫理を学び体験を通して深められるように1年次の7月と3年次の5月に「人間関係論1・2」として2泊3日の宿泊研修を実施している。
- 8) 安全教育の一環として大学主催の「チーム医療構築ワークショップ」へ3年生が年2回10名ずつ参加した。また、「医療安全と看護技術」の科目の中で医療安全について16時間の講義演習を実施した。
- 9) 平成22年10月31日(土)、学習支援対策の共同を目的として、3年生の保護者を対象とした保護者会を開催した。
- 10) 平成22年11月22日(月)、1年生(24期生)の戴帽式を挙行了(戴帽生79名)
- 11) 平成23年1月20日(木)、関東信越厚生局による指導調査を受けた。
- 12) 平成23年3月10日(木)、3校合同の卒業式を挙行了。22期生57名が卒業し、優等賞、恵和会賞がそれぞれ各校1名に贈られた。また、千葉県より、千葉県知事賞が本校卒業生1名に贈られた。

II. 入学試験

1. 平成23年度推薦入学試験は、1次試験を平成22年10月27日(水)、2次試験を11月6日(土)に実施した。志願者数57名、合格者43名であった。
2. 平成23年度一般入学試験は、1次試験を平成23年1月29日(土)、2次試験を2月1日(火)に実施した。志願者数207名、合格者49名であった。
3. 推薦入試・一般入試を実施した結果、23年度の入学者は77名であり、その内訳は次の通りである。
 - (1) 現役 65名、既卒者 12名(内 大卒 2名、短大卒 1名、高卒 9名)
4. 平成22年度学校説明会は、平成22年5月・7月・8月の3日間実施し、参加者数は316名であった。
5. 学生確保を目的とし、推薦入学した在学生の出身高等学校39校(千葉県24校、茨城県6校、埼玉県7校、東京都2校)に対して学校訪問を行った。
6. 予備校等で開催された学校相談会に出席し約140名の相談を受け付けた。また、6月～11月の土曜日に臨時の学校見学を受け入れ、約50名の参加を得た。

III. 看護師国家試験

1. 第100回看護師国家試験は平成23年2月20日(日)に実施され、結果が3月25日(金)に発表された。22期生57名が受験し、55名が合格した(合格率96.4%)
なお、全国の看護師国家試験合格率は91.8%であった。

IV. 学生関係行事

- 1) 4月13日(火) 1、2年生健康診断実施
- 2) 4月20日(火) 3年生健康診断実施
- 3) 7月27日(火) 体育祭を実施
- 4) 10月22日(土) 秋芳祭を実施
- 5) 12月22日(火) キャンドルサービスを実施

7) 卒後臨床研修

1. 初期臨床研修

- 1) 平成22年度初期臨床研修医は、医科85名（本学卒56名、他学卒29名）、歯科3名、計88名が平成22年4月1日より研修を開始した。附属4病院別の採用数は下記の通りである。
本院 40名（定員47名）内訳：本学卒15名、他学卒25名
（歯科医師3名を含めた合計は43名である。）
青戸病院 4名（定員8名）内訳：本学卒4名
第三病院 20名（定員21名）内訳：本学卒18名、他学卒2名
柏病院 21名（定員24名）内訳：本学卒19名、他学卒2名
- 2) 平成23年度初期臨床研修医（医科）の採用試験を7月31日、8月21日に附属病院にて実施した。平成23年度の募集定員は下記の通りである。
本院：51名（一般47・小児2・産科2）、青戸病院：6名、第三病院：25名（一般21・小児2・産科2）、柏病院：28名（一般24・小児2・産科2）。
附属4病院を合わせた定数110名全員の採用を見込み、244名のマッチング登録を行なったところ、マッチした人数は103名であった。その後、追加募集にて4名（柏病院4名）を追加内定とした。
- 3) ロンドン大学医学部を卒業し、英国の初期臨床研修を修了している日本人2名を本院の初期臨床研修医として採用（定員外採用）とすることとした。厚生労働省への申請により、日本での研修期間は大幅に短縮できる見込みである。
- 4) 平成23年度初期臨床研修医（歯科）の採用試験を8月28日に附属病院にて実施した。定数3名のところ9名のマッチング登録を行ない、定数通りの3名がマッチした。
- 5) 採用予定者の卒業試験および医師・歯科医師国家試験の結果、平成23年度初期臨床研修医は医科107名（本学卒67名、他学卒40名）、歯科3名となった。
機関別の採用数は下記の通りである。
本院 48名（定員51名）内訳：本学卒19名、他学卒29名
※定員外採用2名および歯科医師3名を含めた合計は53名である。
青戸病院 5名（定員6名）内訳：本学卒5名
第三病院 25名（定員25名）内訳：本学卒21名、他学卒4名
柏病院 27名（定員28名）内訳：本学卒22名、他学卒5名
- 6) 研修指導医講習会を平成22年8月6日（金）から7日（土）の2日間にわたり開催し、参加者全員（33名）が修了した。
なお、当講習会は、厚生労働省の開催指針に基づき開催され、修了者には厚生労働省医政局長と本学附属病院長により修了証が授与される。
- 7) 他学学生を対象とした病院説明会を下記の日程で開催し、合計84名の参加が得られた。
第1回説明会 平成22年7月3日（土）
第2回説明会 平成22年7月17日（土）
- 8) メディカル・プリンシプル社が主催する『医学生のための臨床研修指定病院合同セミナー・レジナビフェア2010 in 東京』（平成22年7月18日開催）に参加した。大学、市中病院等を含めて460施設が出展する中、本学4附属病院のブースには、5年生を中心に227名（昨年135名）の来訪者を得ることができた。

9) 平成22年度のCPCについては5月から11月にかけて計6回開催した。

開催回数	開催日	担当科	臨床診断名
第702回	5月10日(月)	泌尿器科	膀胱癌
第703回	7月5日(月)	消化器・肝臓内科	肺塞栓
第704回	7月12日(月)	腎臓・高血圧内科	Castleman病
第705回	9月6日(月)	神経内科	クリプトコッカス髄膜炎
第706回	10月4日(月)	循環器内科	心筋炎
第707回	11月8日(月)	腫瘍・血液内科	MDS、ムコール症

2. 専門修得コース（レジデント）

- 1) 平成22年4月1日より、レジデント133名〔本学初期研修修了者79名、他施設初期研修修了者54名（うち本学卒15名）〕が専門修得コースの研修を開始した。
- 2) レジデント108名、リサーチレジデント4名の合計112名が平成23年3月31日をもって専門修得コースを修了した。
- 3) 平成23年度レジデントの採用に関しては、第1回目の採用試験を平成22年9月25日(土)に行い、その後も7回の追加試験を実施した結果、144名（前年比+11名）が採用となった。採用者の内訳は次の通りである。
本学初期臨床研修修了者74名、他施設初期臨床研修修了者70名（本学卒25名）

8) 生涯学習センター

- 1) 登録者数：平成23年3月現在232名、内港区医師会31名、中央区医師会6名である。
- 2) 利用者数：平成22年度は140名である。
- 3) テレフォンサービス利用件数：平成22年は88件である。
- 4) 月例セミナーが下記のとおり開催された。
 - ① 第184回・平成22年4月10日
新型インフルエンザパンデミックの1年を振り返る 小野寺昭一（感染制御部）
 - ② 第185回・平成22年5月8日
甲状腺機能亢進症の薬物治療 東條 克能（糖尿病・代謝・内分泌内科）
 - ③ 第186回・平成22年6月12日
変形性膝関節症
一保存・手術療法のとピックスー 丸毛 啓史（整形外科）
 - ④ 第187回・平成22年7月10日
スポーツにおける脳震盪
(なぜ防がなくてはいけないか) 谷 諭（脳神経外科）
 - ⑤ 第188回・平成22年9月11日
関節リウマチの早期診断と最新の治療 山田 昭夫（リウマチ・膠原病内科）
 - ⑥ 第189回・平成22年11月13日
アンチエイジング医療と形成外科 内田 満（形成外科）

- ⑦ 第190回・平成23年2月12日
超音波診断の最前線

宮本 幸夫（画像診断部）

5) 第31回夏季セミナー

「Common Diseaseの新しい治療戦略」が平成22年8月7日（土）午後4時より法橋建（総合診療部）の司会で行われ、参加者は76名であった。

- ① インクレチン関連薬剤による
新しい糖尿病治療の幕開け 東條 克能（糖尿病・代謝・内分泌内科）
- ② 慢性腎臓病（CKD）における降圧療法の新展開
—RAA系阻害薬、そして直接的レニン阻害薬へ—
宇都宮保典（腎臓・高血圧内科）
- ③ 女性の尿失禁・性器脱治療の新戦略 鈴木 康之（泌尿器科）
- ④ 関節リウマチの新しい治療戦略 黒坂大太郎（リウマチ・膠原病内科）
- ⑤ 最近のうつ病とその対策 忽滑谷和孝（精神神経科）
- ⑥ 懇親会（立食）

4. 研 究

1) 教育研究助成委員会・大型プロジェクト対策委員会・発明委員会

- (1) 教育研究助成委員会は、本学の教育と研究の向上を図るため、これらに係る学内教育研究費の予算化および科学研究費補助金等公的研究費のほか各種財団等からの補助・助成について審議し、決定事項を教授会に提案、報告している。また、委員会は研究費の不正防止計画担当部署として、文部科学省「公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づく研究費管理の体制整備等の推進と運用の徹底を推進している。
- ① 平成22年度の委員会は、委員長：渡辺直熙、委員：大川清、柳澤裕之、細谷龍男、井田博幸、寺坂治、奥山則子各教授及び高木敬三専務理事で構成された。
 - ② 平成22年度文部科学省科学研究費補助金の採択を受けた件数及び総額は、研究分担者分含めて合計148件、総額241,085千円（間接経費含む）であった。厚生労働科学研究費補助金および関連独立行政法人の委託研究事業等は、採択後大学が経理事務を行った研究課題は研究代表者および研究分担者数は58件、総額310,497千円（間接経費含む）、また各種民間財団等から公募があり大学を通じて応募、あるいは研究者個人が応募して交付通知を受けた研究補助、助成金は17件（応募件数119件）、金額は22,960千円であった。
 - ③ 平成22年度科研費補助金交付内定者を対象とした研究費使用説明会を開催した。
（4月24日西新橋、4月26日第三病院・国領校、看護学科、4月27日柏病院、4月28日西新橋）
 - ④ 平成23年度科研費補助申請書の書き方講習会を9月14日に開催した
 - ⑤ 平成23年度科研費補助金公募に係る学内説明会を9月22日に開催した。
 - ⑥ 平成22年度私立大学等経常費補助金（特別補助）の申請ゾーンのメニュー区分改定に伴う本学申請ゾーンの見直しを行った。
 - ⑦ 平成23年度教育研究経費関係予算の立案および研究機器等の選定を行った。
 - ・ 学生教育用実習機器購入費
 - ・ 文部科学省私立大学等研究設備費等補助金費
 - ・ 慈恵大学一般研究設備費
 - ・ 文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
 - ・ 日本私立学校振興・共済事業団「学術研究振興資金」
 - ・ 私立大学等経常費補助金（特別補助）
 - ⑧ 公募研究の学内選考を行った。
 - ⑨ 「国民との科学・技術対話」について
30,000千円以上の公的研究資金が交付された研究者が、研究の目的、内容、成果をわかりやすく一般市民等に公開する場を設けることについて支援することとした。
 - ⑩ 「研究支援に関するアンケート調査」の実施
研究費を管理、執行している研究者を対象に、研究支援の現状、要望、研究費の管理方法等の意見を広く求め今後の改善の参考とすることを目的に平成22年9月～10月にアンケート調査を実施した。
 - ⑪ 文部科学省「公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づく実施調査の対応
平成22年12月21日、文部科学省競争的資金調整室による科研費等公的研究費の管理監査体制の整備状況について立ち入り実施調査が実施された。
 - ⑫ 「公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づく体制整備等の実施状況報告書を平成22年10月、並びに体制整備等自己評価チェックリストを平成23年3月に文部科学省に提出した。
- (2) 大型プロジェクト対策委員会は、全学の研究体制の整備拡充の推進と研究活動の活性化のため、本学がとるべき適切かつ最善な方策（総合医科学研究センター各研究施設の充実、大型研究設備設置、大型研究プロジェクトへ申請選定等）を審議している。
- ① 平成22年度の委員会は、委員長：渡辺直熙教授、委員：阿部俊昭、森山寛、田尻久雄、

水之江義充の各教授と高木敬三専務理事で構成された。

- ② 平成22年度に委員会が審査を実施し、応募申請した大型研究プロジェクト事業は次のとおりであった。
 - ・武田科学振興財団「特定研究助成金」
 - ・文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
- (3) 発明委員会は、本学が関係する発明と特許について審議している。
 - ① 平成22年度の委員会は、委員長：渡辺直熙教授、委員：阿部俊昭、森山寛、田尻久雄、水之江義充の各教授と高木敬三専務理事で構成された。
 - ② 平成22年度は11件の発明の届出があり、内10件の発明について特許権等の権利を大学が承継することになった。なお、企業との共同出願している発明のうち、平成22年度国内特許登録となったものが1件あった。
 - ③ 「東京慈恵会医科大学発明規程」及び「東京慈恵会医科大学発明実施補償金細則」を改定した（平成22年11月24日付け）
 - ④ 特許の実用化に向けたアドバイス等を行う専門企業と連携会員の覚書を取り交わした。
 - ⑤ 共同発明特許の出願企業が権利を放棄することになり、大学が特許権等を承継したもの（国内5件、国際4件）については譲渡を受入れることとし大学が権利を維持管理することにした。

2) 総合医科学研究センター

平成22年度における総合医科学研究センター3研究所（DNA医学研究所・高次元医用画像工
学研究所・臨床医学研究所）の活動状況は次のとおりである。

(1) DNA医学研究所

概要：DNA医学研究所は6研究部（遺伝子治療、分子免疫学、悪性腫瘍治療、分子細胞物
学、分子遺伝学、臨床情報部）と、1つのプロジェクト研究部（腎臓再生研究室）よ
り構成され、基礎と臨床を結びつける研究を行っている。その成果は海外英文誌や国際学
会で発表された。学内の研究支援に関してはNAシーケンス、フローサイトメトリー、
Gene Scanなどの受託解析を数多く行った。教育に関しては18名の大学院生が臨床各科
より派遣された。卒前教育に関しても、研究室配属、選択実習などで学部学生を受け入れ
た。研究の進捗の発信は月2回の研究所内セミナー、DNA医学研究所夏季セミナー、臨
床医学研究所との合同セミナーで行った。

具体的な題別進捗状況は以下のとおりである。

1. 悪性腫瘍に関して：

- ・網膜芽細胞腫の細胞株にヒストン脱アセチル化酵素阻害薬を用いることで、放射線に
よる殺細胞効果を増強することに成功し、新規治療法の可能性を提示した。
- ・巨核芽球性白血病細胞株を用いて、白血病幹細胞の可塑性・分化誘導・治療法の開発
に関して分子生物学的に研究を進めた。
- ・腫瘍免疫治療に関する研究は臨床応用へと進展した。「進行膵臓癌に対する塩酸ゲム
シタピン併用WT1ペプチドワクチン療法第I相臨床試験」を完遂し、その安全性が
確認された。2例の著効例は治療開始後2年以上が経過したが再発兆候なく健在で、
第II相臨床試験の準備が進められている。また、本学GMP対応細胞産生施設を使用
した「進行膵臓癌及び胆道癌に対する塩酸ゲムシタピン併用WT1ペプチドパルス樹状
細胞療法第I相臨床試験」は倫理委員会の承認を得て試験のシミュレーションを試行
中である。脳腫瘍に対する樹状細胞療法は継続して施行中である。またより良い腫瘍
免疫治療法を開発するため以下のような基礎研究も行った。プロテオミクス技術を用
いて昨年度行った泌尿器系の癌以外に多種の癌につき解析を進め、臨床上有用な新規
腫瘍マーカーの探索を行った。また、新たに同定した前立腺癌腫瘍マーカーから癌治
療を目的としたペプチドワクチンの作製を試みた。アジュバントを必要としない効果

的な癌ワクチンの開発を目指して、人工蛋白を合成するモルクラフト法を用いて抗原提示細胞に取り込まれやすく、かつTリンパ球に提示されやすい人工蛋白抗原の作製を進めた。

- ・脳腫瘍に関して超音波を利用した診断治療技術の開発、および細胞増殖シグナル分子に対する干渉RNAの導入による増殖抑制、薬剤感受性増強治療法の開発を行った。
- ・甲状腺癌に対して特異抗体を用いた診断治療技術の開発を行った。

2. 遺伝病に関して:

- ・遺伝病講座との研究でiPS細胞に関する研究を進めた。今年度はライソゾーム病(LD)の一つであるポンペ病の治療法の開発を目指し疾患モデルマウスよりiPS細胞を樹立し骨格筋に分化させた。今後は本細胞を用いてのポンペ病の骨格筋病変の治療法の開発を行う。
- ・東京医科歯科大学との共同研究でLDの副作用の少ない新規骨髄移植療法を開発した。
- ・LDに対するレンチウイルスを用いた遺伝子治療法の開発を行った。
- ・LD現行の治療法である酵素補充療法の欠点(免疫反応、オートファジーの亢進)を駆逐する新規療法の開発を行った。
- ・LDの早期診断のためのスクリーニング法を開発した。
- ・脊髄性筋委縮症の病院解明と治療法の開発を行った。
- ・精神科との共同でアルツハイマー型認知症の患者の症候とSNPSの関連性の有無を研究した。

3. 免疫・アレルギー:

- ・スギ花粉症治療薬の有効性と安全性を、自然発症ニホンザルに経口摂取させて検討した。
- ・アトピー性皮膚炎、IgE抗体産生および脱毛に関与するIL-31の多機能を制御できるか、IL-31の拮抗的レセプター抗体を作成して検討した。
- ・ウイルスや癌の生体防御に重要な細胞障害性T細胞の誘導法を、クラスI抗原提示の観点から研究を進めた。

4. DDSに関する研究

- ・シリコンナノ粒子の開発、安全性試験、またスーパー特区(代表:古幡博)に関連して神経幹細胞を用いた神経保護法を開発した。

5. 心臓、腎臓に関する研究

- ・心臓から分泌されるウロコルチンなどのホルモンについても解析を行った。
- ・腎再生に関しては、ラットを用いた同種後腎移植実験にて、後腎移植が腎不全時の動脈硬化進行抑制に寄与することを確認した。また、自殺誘導Tgマウスおよびラットを用いた異種後腎移植実験にて自家骨髄細胞由来のエリスロポイエチン産生組織の誘導に成功した。現在、ネコ及びブタを用いた実験にて自己細胞由来腎臓再生への手法の確立とデバイスの開発を行っている。

(2) 高次元医用画像工学研究所

高次元医用画像工学研究所では、生体の立体構造を表示できる三次元画像技術や、その立体構造の動態を認知できる四次元画像技術を用いた、十年後の未来の医療を少しでも早く臨床応用できるように研究活動を行なっている。

本年度は昨年度より開始された文部科学省科学研究費・新学術領域研究(研究領域提案型)の「医用画像に基づく計算解剖学の創成と診断・治療支援の高度化」研究プロジェクトにおいて、計算解剖学の臨床応用を目指し、九州大学との共同研究で手術シミュレーションや手術ナビゲーションへの「計算解剖学」の活用を試みた。また経済産業省の委託事業である「内視鏡下手術支援システムの研究開発プロジェクト」は、事業期間5年のうち4年度目を迎え、内視鏡型ロボットシステムの開発において、より複雑な手術手技を実施可能にするための自由度を上げたロボットアームや、ロボット操作に不慣れな初心者用のトレー

ニングシステムの開発を併せて行なった。

学内共同研究においては、第三病院内に設置されているハイテクナビゲーション手術室を用い、本学外科学講座、耳鼻咽喉科学講座、形成外科学講座とともに次世代ナビゲーション手術システムの臨床への適用を目指した研究開発を行なっている。また昨年度に引き続き、東京地方検察庁、警視庁との共同研究で、殺人事件、および殺人未遂事件における被害者のX線CT画像を用いた創傷の三次元的な解析を本学法医学講座と共同で実施し、鑑定結果が裁判員裁判で採用された。

(3) 臨床医学研究所

「患者さん中心の最高・最善の医療を研究面から支援し、かつ推進する」という当研究所の理念の下、平成22年度においては、専任教員（専任研究員）として常勤2名、兼任2名、事務、技術職員（計3名）のほか、総合診療部、消化器・肝臓内科、循環器内科、腫瘍・血液内科、臨床検査医学、糖尿病・代謝・内分泌内科、産婦人科など柏病院診療部に所属する教員が一般研究員として登録・参加し、それぞれの研究テーマに取り組み成果を上げている。こうした研究結果が国際学術誌に取り上げられ、他施設との共同研究も積極的に進められている。以下、代表的研究内容を記す。

- ① ダイオキシン類汚染土壌・底質の分解酵素を用いた浄化システムの開発（環境省環境技術開発推進事業）
- ② 酸化ストレス誘導性肝発癌におけるIQGAP1とVimentinの役割と発癌機序解明
- ③ Lactoferrinの新規剤型（pegylated）抗酸化剤の開発
- ④ C型慢性肝炎の治療におけるSNPsの意義と機序解明（文科省研究分担）
- ⑤ 肝疾患における臨床疫学多施設間共同研究（厚労省研究分担）
- ⑥ Atp7Bの細胞局在と動態解析（海外研究施設との共同研究）
- ⑦ がんの診断や治療を目指した磁性ナノ粒子の開発（産業技術研究助成事業（新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO））：平成20～23年度）
- ⑧ 磁性ナノ粒子を用いた新型インフルエンザの診断チップの開発（科研費基盤（B）：平成22～24年度）
- ⑨ 三大疾病・致死性疾患の診断・治療に応用展開できる、外部エネルギー変換型ハイブリッドナノ粒子の開発（最先端・次世代研究開発支援プログラム（内閣府）：平成22～25年度）
- ⑩ 磁性ナノ粒子による核酸導入試薬の実用化を目指した企業との共同研究
- ⑪ 樹状細胞と膵癌細胞を融合した融合細胞ワクチンの基礎研究
- ⑫ 進行膵癌に対する塩酸ゲムシタピンとWT1ペプチドの併用療法
- ⑬ 肝細胞がんの超早期診断法開発の臨床研究とGPC3ペプチドワクチン臨床試験（平成22年度厚労科研費補助の研究分担）
- ⑭ ヘルパーT細胞を中心とした革新的免疫治療法の開発（第I相臨床試験、NEDO技術開発機構の研究分担）
- ⑮ 抗菌薬療法による潰瘍性大腸炎の粘膜細菌叢の変化と治療効果の検討（科研費基盤C）
- ⑯ Robotic surgeryを用いた婦人科がん術後下肢リンパ浮腫予防手術の開発（厚労科研費第3次対がん総合戦略研究事業「QOLの向上をめざしたがん治療法の開発研究」）
- ⑰ バクテリアファージを対象とした血清抗ウイルス作用の同定とその作用機序
- ⑱ 食の評価を基盤とした生活習慣病治療のための地域連携システムの構築（ちば県民保健予防基金助成金交付）

5. 診 療

1) 病院概況

(1) 本 院 (院長:森山寛、副院長:細谷龍男、落合和徳、橋本和弘、丸毛啓史、高橋則子、事務部長:今出進章)

(1) 病床利用状況

平成22年度の病床利用率は稼働床1,049床に対して85.1%(昨年比-1.2%)、平均在院日数は、11.8日(昨年比-1.0日)であった。

(2) 患者紹介率

平成22年度の紹介率は年間平均で医療法53.1%(昨年比-1.3%)、保険法43.5%(昨年比-5.3%)であった。

(3) 初期臨床研修

平成22年度採用者は医科40名(内訳:本学卒15名、他学卒25名)、歯科3名の計43名であった。

(4) 行政監査・指導・検査

① 医療法第25条第1項による特定機能病院の立入検査(東京都) (平成22年10月20日)

② 医療法第25条第3項による特定機能病院の立入検査及び、健康保険法講習会(関東信越厚生局) (平成22年10月20日)

③ 精神病院等実地指導 (平成22年10月20日)

(5) 先進医療(高度医療含む)

新規申請・承認(申請5件、承認5件)

① 実物大臓器立体モデルによる手術支援(整形外科) 平成22年9月28日付承認

② 末梢血単核球移植による血管再生療法(腎臓・高血圧内科) 平成22年9月28日付承認

③ 内視鏡的大腸粘膜下層剥離術(内視鏡科) 平成22年11月26日付承認

④ 肝切除手術における画像支援ナビゲーション(肝胆膵外科) 平成23年1月27日付承認

⑤ パクリタキセル静脈内投与、カルボプラチン静脈内投与及びベバシズマブ静脈内投与の併用療法(これらを三週間に一回投与するものに限る。)並びにベバシズマブ静脈内投与(三週間に一回投与するものに限る。)による維持療法 再発卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん(産婦人科) 平成23年1月28日付承認

(6) 臨床研究、保険適用外診療(平成22年度審査状況)

承認件数:新規申請130件、変更申請(期間延長など)46件

(7) 病院改修について

・外来棟3階外来化学療法室の拡張 (平成22年5月20日)

・外来棟4階ペインクリニック外来診察室・問診室増設設置 (平成22年6月21日)

・中央棟7階心臓カテーテル検査室改修(平成22年8月23日 工区を2回に分けて実施)

・外来棟(C棟)地下1階脳神経外科外来改修工事 (平成22年9月1日)

・中央棟1階「特定保健指導室」を「ボランティア室」へ名称変更 (平成22年9月21日)

・中央棟1階新橋健診センター改修工事 (平成22年10月12日)

・E棟1階エントランスホールの一部をクリーニングサービス店へ変更 (平成22年11月19日)

・C棟4階「医療安全管理部」を「事務部事務室」へ変更 (平成23年1月)

・C棟6階「業務課外来事務室」を「渉外室」へ変更 (平成23年1月)

・C棟6階「渉外室・実習生控室」を「医療安全管理部」へ変更 (平成23年1月)

・E棟10階、中央棟18階の個室(5017,5018,1801,1802)の陰圧化工事 (平成23年1月7日)

・外来棟2階「ボランティア室」を「第2心電図室」へ改修工事 (平成23年2月10日)

・外来棟1階「画像診断部 撮影室No.8」機器更新に伴う改修工事 (平成23年2月10日)

・外来棟(C棟)3階眼科外来改修工事 (平成23年2月21日 工区を5回に分けて実施)

・外来棟3階外来化学療法室処置用ベッド5床増設工事 (平成23年3月18日)

・外来棟7階中央検査部内に「細菌遺伝子解析室」を設置 (平成23年3月18日)

(8) 医療安全管理

- ① リスクマネジメント委員会、4病院リスクマネジメント会議、フロアリスクマネージャー会議、医療安全運営会議等を主管し、医療問題発生防止並びに医療安全推進活動を実践した。(通年)
- ② 発生した医療安全問題について、必要に応じて関係者を招集し、問題点の検証や以後の対策を組織として決定し、実践した。(通年)
- ③ パソコンによる医療問題の発生源入力システムsafe masterを利用した問題事例の収集と分析を通じ、再発防止策を立案し実践した。(通年)
- ④ 基礎研修、一般研修、専門研修の3部門より構成されるリスクマネジメント教育・研修計画を策定し、年度内に一人2回以上の出席を目標に出席ポイント制度を継続運用した。また、出席時に配布するシールを各部署の一覧表に貼付して管理した。(通年)
- ⑤ システム工学の見地からみた医療問題分析手法について、東大・早大・慈恵共同研究を継続した。(通年)
- ⑥ 医療安全院内ラウンドを実施した。
 - ・全外来・中央診療部門、病棟、手術部門、診療支援部門対象ラウンド
 - ・附属病院間の相互ラウンド
 - ・私立大学病院間の相互ラウンド
- ⑦ 全ての教職員や委託・派遣職員に対し、携帯版リスクマネジメントマニュアルを配布し、医療安全に必要な事項の周知徹底を図った。(平成22年4月)
- ⑧ 医療安全推進週間を実施した。(平成22年11月)

(9) 院内感染対策

- ① 感染対策強化病棟への介入
ICU、NICUを中心に感染リスクの高い部署に対しデータのフィードバックと改善のための支援を行った。
- ② サーベイランスの実施
サーベイランスを行い医療処置感染の発生状況の把握とフィードバックを実施した。
- ③ 教育啓発活動
感染対策の基本の周知徹底をはかるため、感染対策ベーシックコースを立ち上げ、集合研修11回、各部署への出張で31回開催した。その他、医療安全との共催で研修会を開催し、合計4172名の参加があった。
- ④ 抗菌薬適正使用の推進
広域スペクトラム抗菌薬の届出制を導入した。さらに投与症例をラウンドし適正使用の推進を行った。
- ⑤ 職業感染対策
B型肝炎：毎年行っていた任意の抗原抗体価検査から、血液曝露の可能性のある教職員を対象とした検査体制に変更した。
結核：ハイリスク部署（呼吸器内科医師、救急部医師、感染制御部医師、教職員のQFT検査を実施した。

(10) 保険関係承認・届出関係

- ① 平成22年度診療報酬改定に伴う届出 (平成22年4月16日)
※41項目
- ② 小児入院医療管理料1 (2E・4E病棟) (平成22年6月1日)
- ③ 新生児治療回復室入院管理料 (GCU) (平成22年6月1日)
- ④ 療養環境加算及び重症者等療養環境加算 (平成22年6月1日)
※室料差額料金改定に伴う届出
- ⑤ 評価療養の届出 (平成22年6月10日)
※有差額床→重症室へ変更

- ⑥ 小児入院医療管理料 2 (2E・4E病棟) (平成22年10月1日)
 - ⑦ 緩和ケア診療加算 (平成23年3月1日)
※平成22年度診療報酬改定経過措置に伴う届出
 - ⑧ 外来化学療法加算 1 (平成23年3月1日)
※病床増床に伴う届出
 - ⑨ 急性期看護補助加算 1 (平成23年3月1日)
※1月分実績基準満たさず、再届出。
その他、施設基準に係る新規・変更・辞退届出等、合計67項目の届出と定例報告を行った。
- (11) 患者支援・医療連携センター
- ① 救急搬送患者地域連携加算施設基準届出医療機関 7 施設と提携した。
(平成22年4月～8月)
 - ② 区中央部糖尿病医療連携検討会・事務局を患者支援・医療連携センターが担当
・総会、作業部会 (2回)、シンポジウムが開催された。(平成22年4月～23年3月)
 - ③ 近隣医療機関へ医療連携強化のための戸別訪問を実施した。(平成22年7月～23年2月)
・ソーシャルワーカー部門 (10施設)、医療連携部門 (同窓会支部長訪問・8施設)
 - ④ 4 機関患者支援・医療連携スタッフによる合同会議を開催した。(平成23年1月)
 - ⑤ 近隣医療機関主催による医療連携懇談会等に参加し、情報収集、交流を実施した。
・牧田総合病院 (22年11月)、済生会中央病院 (23年1月)、虎の門病院 (23年2月)
 - ⑥ CAPS (子ども虐待対応チーム) の発足に向けたワーキンググループで対応マニュアル
の原案を纏めた。(平成23年3月)
 - ⑦ 東日本大震災に伴い、センターが戸別訪問している医療機関に対して被災者・家族の診
療に係る協力要請を行う。
・ソーシャルワーカー部門が過去に訪問している施設へ電話連絡による協力要請を行う。
(平成23年3月)
- (12) 臨床試験支援センター
- ① 治験の実施：継続37件、新規承認32件、終了14件
継続および新規承認69件のうち、国際共同治験は18件 (26%) であった。
 - ② 治験審査委員会委員を対象とした、勉強会の実施：1回
 - ③ 治験開始時のミーティングの開催：20回
CRCが主導して、治験ごとに治験依頼者、治験責任・分担医師や関係部署の担当者を集め、実施手順や注意点などの確認を行い、安全・円滑な実施につなげた。
 - ④ 治験拠点病院の終了
当院は、平成19年度より厚労省の「新たな治験活性化5ヵ年計画」により治験拠点病院
に採択されていたが、中間見直しを経て、平成22年度をもって拠点病院を終了するこ
とになった。
 - ⑤ 「治験だより」の発行：2回 (通算 第14号)
教職員向けに治験の現状や関連情報を発信するため、「治験だより」を発行した。
 - ⑥ 外来プラズマ・ディスプレイへの情報提供
患者向けに、治験に関する基礎的情報を発信するため、外来プラズマ・ディスプレイに
情報を掲載した。
- (13) 診療体制の整備
- ① 病棟関連事務業務効率化検討会開始 (平成22年5月12日)
病棟事務員と業務課入院保険担当者との病棟における業務融合を図り効率化を目的とする。
その後、病棟事務業務効率化計画 (3ヵ年計画) の提案が了承され、平成23年度計画病
棟を前倒しで計画が開始された。
 - ② 外来関連事務業務効率化検討会開始 (平成22年9月4日)
各科外来への外線電話対策、患者IDカード、会計フォルダ、外来基本伝票など外来事
務業務に関する効率化について検討された。

- ③ 文書カウンター開設について
医師事務作業の軽減の一環として、文書カウンターを設置するためにワーキング・グループを発足し、平成23年度の開設に向けて取組んだ。
- ④ 10E病棟個室2床、18H病棟個室2床を陰圧室へ改修し、感染症流行時の対策を行った。
(平成22年1月7日)
- ⑤ 採血室混雑緩和対策のため、受付カウンターを新設(受付番号発行機導入)し、平成22年11月15日より運用を開始した。
- (14) 患者サービス
- ① 外来待ち時間調査を2回実施した。
(初回：平成22年8月9日、2回目：平成23年2月4日)
- ② 外来患者満足度調査を実施した。(平成22年11月9日、10日)
- ③ 入院満足度調査を実施した。(平成23年2月1日～28日)
- ④ 入院患者向けフロアコンサート(高木会館1階ロビー)
- ・平成22年5月15日(土) 渡邊加奈さん、三上繭子さん(フルーツとオカリナ演奏)
 - ・平成22年8月31日(火) 駒澤大学合唱団
 - ・平成22年12月4日(土) 教職員等による有志
 - ・平成22年12月16日(木) 原田真二さん(歌手)
- ⑤ 患者向け広報誌「すこやかインフォメーション」第24号(平成22年4月)第25号(平成22年6月)第26号(平成22年9月)を発刊した。
- ⑥ 「新みんなの健康教室」を開催した。※NHK放送博物館と共催
1. 日 時：平成22年6月26日(第1回)参加者18名
 2. 日 時：平成22年11月13日(第2回)参加者14名
 3. 日 時：平成23年3月5日(第3回)参加者29名
- ⑦ 平成22年7月11日の参議院議員選挙に伴う入院患者不在者投票を、平成22年7月7日(水)を中心に実施し、115件の申し込みがあった。
- (15) 医療安全講演会、シンポジウムの開催について
- 【初期臨床研修医対象】**
- ① 平成22年4月2日 初期臨床研修医オリエンテーション
 - ② 医療安全研修医カンファレンス(小グループに分かれての警鐘事例の考察と発表)4回開催
- 【新規採用教職員・転入職員対象】**
- ① 平成22年4月1日 新入職員オリエンテーション(全機関新入職員)
 - ② リスクマネジメント基礎研修会 2回開催
 - ③ 平成22年7月31日 新規採用看護師オリエンテーションBLS研修会
- 【全教職員対象】**
- ① 転倒・転落予防のための勉強会 2回開催
 - ② 平成22年5月21日 スタットコールシステムの現状と課題
 - ③ 平成22年7月13日 4病院合同リスクマネジメントシンポジウム 3回開催
 - ④ 平成22年9月13日 輸血の副作用について－TRALIを中心に－
 - ⑤ 平成22年12月6日 第9回 慈恵医大褥瘡セミナー
 - ⑥ 平成23年2月2日 個人情報保護研修会
 - ⑦ 医療安全DVD研修会 5回開催
- 【委託・派遣職員対象】**
- ① 委託・派遣職員向け医療安全研修会 2回開催
- ※その他医療安全講習会に関することは、医療安全管理部活動報告を参照
- (16) 第1回緩和ケア研修会開催 平成22年11月13日(土)～14日(日)
大学1号館6階講堂及び6階実習室で開催

(17) 慈恵ICLSコース、慈恵BLSコース

- ① 心肺停止患者に対する適切な救急蘇生の手技教育「慈恵ICLSコース」（年間5回）

日 時：平成22年5月30日（日）午前8時30分～午後6時 青戸病院

日 時：平成22年7月25日（日）午前8時30分～午後6時 本院

日 時：平成22年9月26日（日）午前8時30分～午後6時 第三病院

日 時：平成22年11月28日（日）午前8時30分～午後6時 柏病院

日 時：平成23年1月23日（日）午前8時30分～午後6時 本院

- ② 「慈恵ICLSコース」が11月28日の開催で通算50回を記録した。これに伴い長年の慰労を兼ね関係者を招き12月3日（金）に本院にて記念懇親会を開催した。

- ③ 初期心肺蘇生術の講習会「慈恵BLSコース」を年間5回開催した。

(18) 鏡視下手術トレーニングコース

鏡視下手術を行う外科系医師の育成、認定を行う独自の制度である鏡視下手術トレーニングコース認定試験を実施した。（STEP1計4回、STEP2計5回）

(19) 東京都赤十字血液センターによる献血が実施された。

- ① 平成22年9月2日 献血者94名（申込者数126名）

- ② 平成23年2月24日 献血者80名（申込者数120名）

(20) 慈恵医大晴海トリトンクリニック（所長：阪本要一）

平成22年度の患者数実績は、1日平均外来患者数137.1人（昨年比-2.2人）、うち健診は26.1人（昨年比-1.6人）である。

(21) 保険診療講習会の開催

1回目 平成22年4月2日 午後1時30分～2時50分 大学1号館5階講堂

2回目 平成23年2月28日 午後6時～7時 大学1号館3階講堂

(2) 青戸病院（院長：伊藤 洋、副院長：吉田和彦、児島章、事務部長：横山秀彦）

(1) 病床利用率

- ① 平成22年度の病床利用率（稼働床）は、89.4%、平均在院日数は11.1日であった。

(2) 患者紹介率

- ① 平成22年度の患者紹介率は医療法で46.6%、保険法で44.1%であった。

(3) 患者サービス

- ① 平成22年4月1日、文書受付窓口を設置し、文書管理の一元化を図った。

- ② 平成22年7月1日、文書受付窓口における診断書の代行入力を開始し、医師の事務作業軽減を図った。

- ③ 平成22年9月、病院顧客満足度調査を実施した。

- ④ 平成22年10月1日、子宮頸がん予防ワクチン（サーバリックス）の接種を開始した。

- ⑤ 平成22年12月25日、教職員有志によるフロアコンサートを開催した。

(4) 医療連携

- ① 平成22年4月、東京都からの受託事業である、区東北部糖尿病医療連携検討会の座長（糖尿病・代謝・内分泌内科 蔵田診療部長）及び事務局を継続受託した。

- ② 平成22年7月29日、12月2日、病病連携ネットワーク協議会（南かつしか病院ネットワーク協議会）を開催した。（該当医療機関名：足立共済病院・東立病院・金町中央病院・梶原病院・山田記念病院・堀切中央病院・第一病院・亀有病院・亀有中央病院・亀有みんなのクリニック）

- ③ 平成23年2月19日、医療連携フォーラム2011を開催した。

(5) 指定・受託事業

- ① 平成22年7月、平成22年度東京都看護職員地域確保支援事業を受託した。

- ② 平成22年12月、平成22年度東京都新人看護職員研修事業費補助事業を受託した。

(6) 青戸病院リニューアル

〈建築関連〉

- ① 建築工事経過
- | | |
|--------------|-----------------------|
| 地盤改良工事 | 平成22年2月1日～平成22年4月10日 |
| PHC杭・掘削工事 | 平成22年4月5日～平成22年7月20日 |
| 基礎工事 | 平成22年6月21日～平成22年9月1日 |
| 免震装置設置 | 平成22年7月14日～平成22年8月21日 |
| TC設置 | 平成22年9月8日～平成23年3月21日 |
| 地上階工事開始 | 平成22年9月17日 |
| 鉄骨建て方（1F～9F） | 平成22年9月17日～平成23年1月17日 |
| 外装工事着手 | 平成22年11月19日 |
| 内部仕上げ工事着手 | 平成22年12月10日 |
- ② 平成23年2月3日、青戸病院新築工事 上棟式を開催した。

〈IT関係〉

- ① 平成23年1月25日、大学リニューアル委員会にて、情報システム部門システム開発候補会社の第一優先交渉権会社を決定した。
- ② 平成23年1月5日から、新病院へのカルテ移行準備として、入院・外来サマリーシステムの運用を開始した。

〈診療機器関係〉

- ① 平成23年3月24日、大学リニューアル委員会にて、大型診療機器の第一優先交渉権会社、機種、スペックを決定した。

〈その他〉

- ① 平成22年5月24日、青戸病院第1・2・3会議室にて、青戸リニューアルプロジェクト第5フェーズキックオフを開催した。
- ② 平成22年4月より、既存病院における土壌汚染履歴調査を開始した。
- ③ 駐車場は、患者用として、平成22年9月13日から青戸7丁目第2仮設駐車場（50台）を設置し、平成22年11月8日から青戸7丁目第1仮設駐車場を自走式2段型（80台）として設置し稼動した。教職員用は、平成22年9月1日より、青戸高砂橋沿民間駐車場を賃借し（30台）稼動した。

(7) 指導・監査

- ① 平成22年12月14日、東京都福祉保健局医療政策部医療安全課による医療法第25条第1項の規定に基づく立入検査及び放射線使用施設を有する病院に対する立入検査が実施された。

(8) 防火・防災

- ① 平成22年7月29日、本館3階3B病棟において防火訓練を実施した。
- ② 平成22年10月26日、本田消防署管内での自衛消防隊訓練審査会が開催され、青戸病院隊が参加し三位入賞した。
- ③ 平成22年11月12日、4病院合同防災訓練及び講演会を実施した。

(9) 病床運用

- ① 平成22年4月1日、ユニット個室差額料金の改定を行った。
- | | |
|----------|--------------------------|
| 4人室（20床） | 4,200円→5,250円（+1,050円） |
| 個室（4床） | 10,500円→12,600円（+2,100円） |
- ② 平成22年4月30～5月14日、3B病棟16・17・18号室（計12床）を改修し、HCU病室（計4床）に用途変更工事が施工された。これに伴い、6月1日より届出病床を390床から382床へ、稼動床を363床から353床へ変更した。
- ③ 午前退院、午後入院を推進した結果、病床稼働率は、前年比で1.7ポイント向上した。

(10) 医療安全

〈研修関係〉

- ① 平成22年4月5日、1年目研修医を対象に医療安全の基本研修とオリエンテーションを

実施した。

- ② 平成22年 4月28日、5月26日、新入・転入教職員を対象にリスクマネジメント基本研修を開催した。
- ③ 平成22年 5月20日、27日、6月3日、全教職員を対象にMRI安全講習会を開催した。
- ④ 平成22年 6月14日、6月18日、7月5日、職員対象に移乗動作介助技術研修を開催した。
- ⑤ 平成22年 7月6日、全教職員対象に感染セミナーを開催した。
- ⑥ 平成22年 7月13日、4病院合同リスクマネジメントシンポジウムを開催した。
- ⑦ 平成22年 7月24日、地域住民を対象に転倒防止対策勉強会を開催した。
- ⑧ 平成22年 7月31日、医師を対象に超音波ガイド下穿刺法の基本研修会を実施した。
- ⑨ 平成22年 8月20日、8月26日、4病院合同リスクマネジメントシンポジウムのDVD研修会を開催した。
- ⑩ 平成22年10月16日、全教職員・学生を対象にチーム医療構築ワークショップを開催した。
- ⑪ 平成22年10月26日、地域住民・患者・家族を対象に感染公開セミナーを開催した。
- ⑫ 平成22年10月29日、全教職員を対象に第1回薬剤セミナーを開催した。
- ⑬ 平成22年10月30日、平成23年 3月5日、研修医、レジデントを対象に呼吸療法の基礎研修会を開催した。
- ⑭ 平成22年11月1日、4病院合同リスクマネジメントシンポジウムを開催した。
- ⑮ 平成22年11月25日、12月1日、4病院合同リスクマネジメントシンポジウムのDVD研修会を開催した。
- ⑯ 平成22年11月～12月、全教職員・部署を対象に5S活動コンテストを開催した。
- ⑰ 平成22年12月6日、慈恵医大褥瘡セミナーを開催した。
- ⑱ 平成22年12月9日、4病院合同感染対策セミナーを開催した。
- ⑲ 平成23年1月18日、教職員対象に『診療プロセス設計による医療安全の担保と質の管理』をテーマに外部講師による講演会を開催した。
- ⑳ 平成23年1月18日、リスクマネージャー及び教職員対象に『医療事故とその対応』をテーマに顧問弁護士による研修会を開催した。
- ㉑ 平成23年1月31日、2月1日教職員対象に『診療プロセス設計による医療安全の担保と質の管理』のDVD研修会を開催した。
- ㉒ 平成23年2月2日、4病院合同個人情報保護に関する研修会を開催した。
- ㉓ 平成23年2月8日、4病院合同リスクマネジメントシンポジウムを開催した。
- ㉔ 平成23年2月22日、3月7日、輸血療法研修会を開催した。
- ㉕ 平成22年3月12日、全教職員対象に、第2回薬剤安全セミナーを開催した。

〈院内安全ラウンド及び相互ラウンド関係〉

- ① 平成22年5月26日、血液浄化部の医療安全ラウンドを実施した。
- ② 平成22年6月30日、3E病棟及び薬剤部の医療安全ラウンドを本院医療安全推進室と合同で実施した。
- ③ 平成22年7月28日、4B病棟・3C病棟の医療安全ラウンドを実施した。
- ④ 平成22年9月29日、外来部門の医療安全ラウンドを実施した。
- ⑤ 平成22年10月27日、3A病棟・4C病棟の安全ラウンドを第三病院医療安全推進室と合同で実施した。
- ⑥ 平成22年11月1日～13日、医療安全推進週間中に院長ラウンドと院内5Sラウンドを実施した。
- ⑦ 平成22年12月22日、外来部門の医療安全ラウンドを実施した。
- ⑧ 平成23年1月26日、3D病棟・3B病棟の医療安全ラウンドを柏病院医療安全推進室と合同で実施した。
- ⑨ 平成23年3月2日、4A病棟・4D病棟の医療安全ラウンドを日本医科大学武蔵小杉病院と合同で実施した。

〈その他〉

- ① 平成22年8月9日、3E病棟にリストバンドバーコード認証システムを追加設置運用を開始した。
 - ② 平成23年1月17日、救急部におけるリストバンドバーコード認証システムの運用を開始した。
- (11) 成医会青戸支部例会開催
- ① 平成22年6月19日 第104回青戸支部例会
 - ② 平成22年12月18日 第105回青戸支部例会（ポスター展示方式による開催）
- (12) 青戸病院公開カンファレンス開催
- ① 平成22年2月19日 医療連携フォーラム2011が開催され、総合内科の講演が実施された。
- (13) 青戸病院公開健康セミナー開催
- ① 第27回 平成22年6月5日「心臓病の予防は抗加齢につながる－高血圧と糖尿病の対策－」
 - ② 第28回 平成22年11月6日「知っておきたい頭痛の原因」
- (14) メディカルカンファレンス
- ① 第61回 平成22年6月19日「青戸病院における外来化学療法」
- (15) 症例検討会（CPC）開催
- ① 第39回 平成22年8月9日 担当科：糖尿病・代謝・内分泌内科
「糖尿病治療の経過中、重症肺炎・DIC・多臓器不全で急死した一例」
 - ② 第40回 平成22年12月20日 担当科：循環器内科
「高血圧で経過中、完全房室ブロックを合併、入院後血液疾患・DICを疑いつつも、脳出血にて死亡した一例」
- (16) 工事関係
- ① 本館3階HCU病室設置改修工事 平成22年5月完了
 - ② 第2堤桜寮屋上・外壁防水他改修工事 平成23年3月完了
 - ③ 第2堤桜寮2階～5階フロア各寮室整備工事 平成23年3月完了
- (17) その他
- ① 平成22年7月8日、参議院議員選挙の不在者投票を実施した。
 - ② 平成23年2月10日、新美茂樹産婦人科診療副部長（社保支払基金審査委員）を講師に「保険診療とDPC」のテーマで保険診療講習会を開催した。
 - ③ 平成23年3月7日、青戸中学校において3年生を対象としたBLS＋AED講習会を開催した。
 - ④ 平成22年度のBLS＋AED講習会を計11回開催した。
 - ⑤ 平成23年度の初期臨床研修医の定数が8名から6名に減員となった。マッチングの結果は、5名のマッチングが決定した。（マッチング率83.3%）
 - ⑥ 平成22年度診療報酬改定が行われた。改定情報の収集、改定作業、教職員への説明会開催、施設基準の届出を行い、改定項目の適正な保険請求を実施した。
 - ⑦ 青戸病院BSC及び各部署のBSCを作成し、戦略目標に沿ったアクションプランの実行に努めた。教職員全体でBSCに関する情報を共有し可視化されたビジョンと戦略を周知するために、全体報告会を開催し、平成22年度総括、平成23年度BSCの報告を行った。

(2) **第三病院**（院長：坂井春男、副院長：岡 尚省、中村 敬、岡本友好、事務部長：井出晴夫）

(1) 患者数・病床利用状況

平成22年度1日平均患者数 入院464名（前年比－30名）、外来1,402名（前年比－33名）であった。紹介率は医療法40.7%（昨年度41.38%）、保険法32.8%（昨年度35.0%）であった。平均在院日数13.8日（前年度14.1日）、病床利用率82.2%（前年度85.38%）

(2) 医療連携

平成22年 5月20日 第18回第三病院医療連携フォーラム「パーキンソン病の診断と治療」
平成22年11月 9日 第19回第三病院医療連携フォーラム（第三病院開院60周年記念フォーラム）

第一部第三病院の先端医療 医用画像工学研究所とのコラボ
第二部特別講演 高木専務理事 「慈恵の医の源流を求めて」

(3) 第三病院医療セミナー

平成22年 7月20日 第52回第三病院医療セミナー「第三病院夏のBigDebate 本院外来棟の次は新第三病院だ!」
平成22年 9月17日 第53回第三病院医療セミナー「慈恵各機関の緩和ケアの取り組み」
平成22年11月16日 第54回第三病院医療セミナー「大学病院・地域中核病院の今後の経営戦略」

(4) 公開健康セミナー

平成22年 4月17日 第39回公開健康セミナー「救急医療機関への上手なかかり方」
平成22年 5月29日 第40回公開健康セミナー「転倒予防とリハビリテーション」
平成22年 6月12日 第41回公開健康セミナー「健康長寿のための食事とは」
平成22年 7月10日 第42回公開健康セミナー「“胸やけ”ってなに?」
平成22年 9月11日 第43回公開健康セミナー「眼底検査で見つかる目の病気」
平成22年10月23日 第44回公開健康セミナー「知っておきたい薬の知識」
平成22年11月13日 第45回公開健康セミナー「足・腰の痛み」
平成22年12月18日 第46回公開健康セミナー「本当はこわい心不全」
平成23年 1月29日 第47回公開健康セミナー「健口談話」
平成23年 2月19日 第48回公開健康セミナー「COPD」－肺の生活習慣病－

(5) ちょうふ市内・近隣大学公開講座

平成22年 9月15日 加齢に伴い増える脳神経の病気について
平成22年10月 6日 “胸やけ”ってなに? ー生活習慣病とのつながりー
平成22年11月11日 小児ぜん息の予防と治療 ークスリを減らすヒントー

(6) こまえ市民大学医療講座

平成22年 5月15日中高年者におけるうつ病治療 ーうつ病にならないための生活とはー

(7) 第三病院癒し企画（入院患者向け）

平成22年 4月17日牧伸二氏 漫談
平成22年 4月24日弦楽四重奏コンサート 大津千代子様他
平成22年 5月22日沖縄バンド 相澤明様
平成22年 6月26日ピアノコンサート 小関久美子様
平成22年 7月 3日七タロビーコンサート 慈恵大学音楽部管弦楽団
平成22年 7月31日ハワイアン&フラ コンサート 岩田典康様他
平成22年 9月 4日加藤万吏乃 ソプラノコンサート 看護学科音楽選択学生とともに
平成22年10月30日バンドコンサート 八尾雅子様
平成22年11月13日日本の読み聞かせ 佐々木様
平成22年12月 4日クリスマスコンサート 慈恵大学音楽部管弦楽団
平成22年12月11日ハンドベルコンサート 藤村女子中学高等学校
平成23年 1月15日ハーモニカコンサート 岸野龍雄様
平成23年 1月22日出前ミュージカル 劇団俳優座
平成23年 2月 5日ギターコンサート 阿部忍様

(8) 諸官庁への届出・報告等（関東信越厚生局東京事務所）

平成22年 4月14日平成22年度診療報酬改定に伴う施設基準の届出
基本診療料の施設基準 11項目
特掲診療料の施設基準 17項目

平成22年 5月26日基本診療料の施設基準「結核病棟入院基本料7：1」、「急性期看護補助加算50：1」届出

特掲診療料の施設基準「CT撮影及びMRI撮影」変更届出

平成22年 6月29日特掲診療料の施設基準「地域連携診療計画管理料」変更届出

平成22年 7月15日入院基本料等の実施状況報告書提出

平成22年 7月28日放射線部治療常勤医の不在により、「医療安全機器管理料2」、「外来放射線治療加算」、「放射線治療専任加算」の辞退届出

平成22年 8月30日特掲診療料の施設基準「CT撮影及びMRI撮影」変更届出

平成22年10月27日特掲診療料の施設基準「地域連携診療計画管理料」変更届出

平成22年11月 4日結核病棟改修閉鎖のため基本診療料の施設基準「結核病棟入院基本料7：1」辞退届出

平成23年 1月27日酸素の購入価格に関する届出書

平成23年 2月28日特掲診療料の施設基準「検体検査管理加算I・IV」届出、特別の療養環境の提供の実施変更報告書届出

平成23年 3月 8日結核病床数31床から27床へ減床のため、「届出事項変更届出書」の提出

平成23年 3月29日地域歯科診療支援病院歯科初診料の報告

(9) 工事関係

1) 第三病院

- ① 2C病棟改修工事、中央棟耐震補強工事※特別会計工事 (平成23年 3月19日完了)
- ② 放射線部血管撮影室・操作室空調設備更新工事 (平成22年 4月 7日完了)
- ③ 本館外来系統冷温水発生機修理工事 (平成22年 6月18日完了)
- ④ 本館1階泌尿器科外来前ホール天井内污水排水管盛替工事 (平成22年 8月15日完了)
- ⑤ 本館非常用発電機起動用バッテリー交換工事 (平成22年 8月25日完了)
- ⑥ 本館玄関側狛江通り出入口門回り並びに高次元医用画像工学研究所横市道出入口門回り改修工事 (平成22年 8月 3日完了)
- ⑦ 本館スプリンクラーアラーム弁取替工事 (平成22年11月26日完了)
- ⑧ 中央棟給水揚水管盛替修理工事 (平成22年 9月22日完了)
- ⑨ 放射線部CT装置用冷水装置取替工事 (平成22年10月 9日完了)
- ⑩ 青樹寮上水揚水ポンプ取替工事 (平成22年10月 2日完了)
- ⑪ 患者用駐車場市道借用部分返却に伴う駐車場整備工事 (平成22年10月19日完了)
- ⑫ 1C病棟病室空調機更新工事 (平成23年 1月10日完了)
- ⑬ 地上デジタルアンテナ設置工事 (平成23年 3月25日完了)
- ⑭ 6A便器消毒器取替工事 (平成23年 3月31日完了)
- ⑮ 手術棟空調設備加湿器整備工事 (平成23年 3月25日完了)

2) 国領校

- ① 体育館高圧油入遮断器取替工事 (平成22年10月17日完了)
- ② グランド陥没調査、修理工事 (平成22年12月18日完了)
- ③ 国領校入口正門回り改修工事 (平成22年12月28日完了)
- ④ 本館屋上高置水槽更新工事 (平成23年 3月31日完了)

(10) 行政監査・実地検査

平成22年 8月31日 狛江消防署による査察 病院全館

平成23年 2月10日 医療法第25条に基づく精神科実地調査・放射線使用施設立入検査

(11) 行事関係

平成22年 4月 2日 平成22年度研修医オリエンテーション

平成22年 4月 2日 平成22年度研修医歓迎会

平成22年 7月 1日 本採用辞令交付

平成22年 7月23日 第三病院納涼会

- 平成22年12月3日 第三病院忘年会
 平成23年2月25日 診療部会議懇親会
 平成23年3月29日 研修医修了式
- (12) 特記事項
- 平成22年4月1日 日本静脈経腸栄養学会のNST稼動施設として認定された。
 平成22年4月23日 平成21年度(第2回)ベスト診療科選出 腫瘍・血液内科
 平成22年5月1日 日本脳ドック学会による脳ドック施設として認定された。
 平成22年5月24日 病室テレビの更新(5月24日～27日)
 平成22年6月1日 第三病院の救急受入に関する基本方針を制定
 平成22年6月1日 マナー向上月間(～6月30日)
 平成22年7月1日 病床利用率向上を目的に病床運用の変更
 平成22年7月8日 参議員選挙不在者投票
 平成22年7月29日 職場環境改善リニューアルプロジェクト キックオフミーティング
 平成22年8月12日 放射線治療再開(リニアック更新)
 平成22年9月1日 結核病棟改修工事に伴う入院制限の開始
 平成22年9月5日 患者駐車場に関し、市道拡幅に伴う狛江市より借用部分の返還
 平成22年9月10日 多剤耐性菌院内感染緊急セミナー
 平成22年11月1日 広報活動の一環として「第三病院メーリングリスト」運用開始
 平成22年11月1日 東京都認定がん診療病院認定に向け「院内がん登録準備委員会」発足
 平成22年11月1日 内科病棟内に循環器疾患専用重症室1室を設置
 平成22年11月7日 第5回ホスピタルフェア(狛江消防署等参加)地域住民1500名の参加
 平成22年11月7日 患者・医療者パートナーシップの一環として「患者さんの意見を伺う会」を開催
 平成22年12月2日 脳死判定シミュレーションの実施
 平成22年12月4日 世田谷区医師会医学会演題発表(11演題)
 平成22年12月8日 午前退院・午後入院の更なる推進
 平成23年3月5日 結核病棟リニューアルに伴う見学会(近隣医師会等に案内)
 平成23年3月8日 結核病棟リニューアルオープン
 平成23年3月11日 東日本大震災発生。当院の大きな被害無し。臨泊者75名
 震災に伴う、計画停電、物流関係等の連絡会議を震災以降連日開催
- (13) 成医会
- 平成22年7月2日 成医会第三支部例会 特別講演 富田博樹 武蔵野赤十字病院院長
 『都会における地域完結型の脳卒中診療態勢の構築を目指して』
 平成22年12月3日 成医会第三支部例会 特別講演 伊藤文之教授 「こどもに支えられて40年」
- (14) 医療安全
- 平成22年7月13日 4病院合同リスクシンポジウム
 平成22年10月7日 第1回研修医医療裁判傍聴
 平成22年10月13日 第2回研修医医療裁判傍聴
 平成22年10月28日 第三病院リスクシンポジウム「暴力・暴言・クレーム患者の対応」渉外室横内顧問
 平成22年11月1日 医療安全推進週間(11/1～11/13)
 平成22年11月1日 4病院合同リスクシンポジウム
 平成23年2月8日 4病院合同リスクシンポジウム
- (15) 救急・防災関係
- 平成22年7月9日 狛江救急業務連絡協議会
 平成22年10月19日 北多摩南部地域救急会議「東京ルール1年間の経過」

- 平成22年11月12日 4病院合同災害対策訓練
 平成22年12月1日 狛江消防署との救急患者症例検討会実施について検討（平成23年度より実施予定）
 平成23年2月24日 結核病棟改修に伴う狛江消防署立入検査
 平成23年3月4日 狛江消防署合同防災訓練
- (16) その他研修
- 平成22年5月19日 第1回メンタルヘルス研修会（新人向け）
 平成22年5月24日 第2回メンタルヘルス研修会（新人向け）
 平成22年9月21日 職員研修会主催「ワークライフバランス講習会」
 平成22年11月15日 メンタルヘルス研修会（ライン・スタッフ向け）
 平成22年11月20日 チーム医療ワークショップ
 平成23年2月2日 個人情報保護講習会（テレビ会議）
 平成23年3月22日 保険診療講習会

(4) 柏病院（院長：小林 進、副院長：清水光行・岸本幸一・吉田 博、事務部長：宮崎栄一）

- (1) 患者数・病床稼働率・患者紹介率等
- ① 一日平均外来患者数：外来1,476名（前年度比+3名）
 - ② 一日平均入院患者数：532名（前年度比+21名）
 - ③ 病床稼働率：91.3%（昨年度87.6%）
 ※稼働床583床（平成22年4月1日現在）に対して
 - ④ 平均在院日数：13.8日（昨年度14.2日）
 - ⑤ 患者紹介率：医療法60.1%／保険法49.9%
- (2) 保険関係承認・届出関係
- ① 平成22年4月14日 診療報酬改定に伴う施設基準の届出を行なった。
 - ② 平成22年6月1日 基本診療料「急性期看護補助体制加算1」の算定を開始した。
 - ③ 平成22年6月 病床の有効利用を図るため7C病棟を改修し無菌室を11床増床するとともに、一部室料差額料金を変更したため、特別の療養環境の提供の実施（変更）報告書を提出した。
 - ④ 平成22年8月1日 基本診療料「認知症専門診断管理料」の算定を開始した。
 - ⑤ 平成22年9月 認定期間満了による救急告示病院の更新手続きを行なった。
 （認定期間 平成23年1月18日～平成26年1月17日）
 - ⑥ 平成23年2月 病床の有効利用を図るため7B病棟を改修し、一部室料差額料金を変更したため、特別の療養環境の提供の実施（変更）報告書を提出した。
 また、改修に伴い重症室を27室から28室に変更したため、重症者等療養環境特別加算の再届出を行なった。
 - ⑦ 平成23年2月 看護補助者数の不足により基本診療料「急性期看護補助体制加算」の算定を辞退した。
 - ⑧ 保険医療機関としての指定期間満了に伴い、再指定の手続きを行なった。
 （指定期間 平成23年4月1日～平成29年3月31日）
- (3) 医療連携
- ① 平成22年6月22日 救急搬送患者地域連携協議会を開催した。連携医療機関11施設から25名、柏病院内から院長を含め27名が出席し、総勢52名の会となった。
 - ② 平成22年10月26日「平成22年度慈恵医大柏病院医療連携フォーラム」を三井ガーデンホテル柏にて開催した。連携登録医を含む連携医療機関から53施設93名、柏病院内から院長以下87名が出席し、総勢180名の出席となった。
 - ③ 平成22年11月より子宮頸がん地域医療連携パスを開始した。

④ 平成22年12月より胃がん地域医療連携バスを開始した。

(4) 患者サービス関連

- ① 平成22年7月 ご意見箱に寄せられた投書内容に対する取り組みを、「患者さんの声」として柏病院のホームページに掲載した。
- ② 平成22年10月から11月にかけて正面玄関車寄せの改修、外来における自動販売機および携帯電話通話可能エリアの増設、院内緑化の見直し等を実施した。
- ③ 平成23年1月11日より外来会計窓口でのオンライン会計処理を午後6時30分までに延長した。
- ④ 患者サービスに向けた基礎データの収集を目的として、外来患者を対象とした患者満足度調査を平成23年2月15日（火）～17日（木）の3日間に実施した。

(5) 成医会柏支部例会

- ① 平成22年7月3日 第42回成医会柏支部例会
- ② 平成22年12月4日 第43回成医会柏支部例会

(6) 症例検討会（CPC）

- ① 平成22年6月23日 第28回症例検討会（CPC）
「急性精神病様症状で発症し、痙攣重積を繰り返した16歳女性」

(7) 行事・その他

- ① 平成22年7月27日 納涼盆踊り大会を開催した。
- ② 平成22年12月27日 病院忘年会を開催した。

(8) 指導・監査

- ① 平成22年10月14日 千葉県柏市保健所による医療機関立入検査（医療監視）が行われた。
- ② 平成23年2月3日 がん診療連携拠点病院事業を対象とした会計検査院による会計実地検査が行われた。

(9) 先進医療関連

- ① 平成22年2月1日付で「パクリタキセル腹腔内反復投与療法 胃切除後の進行性胃がん（腹膜に転移しているもの、腹腔洗浄細胞診が陽性であるもの又はステージⅡ若しくはⅢであって肉眼型分類が3型（長径が八センチメートル以上のものに限る。）若しくは4型であるものに限る。）」が承認された。（外科）
- ② 施設基準の追加により「超音波骨折治療法」の再届出を行なった。（整形外科）

(10) 地域がん診療連携拠点病院関係

【研修関連】

- ① 平成22年7月1日 院内研修「医師・看護師・コメディカルのための実践緩和ケア講座」
- ② 平成22年7月18日～19日 緩和ケア基礎研修会

【公開講座】

- ① 平成22年6月26日 第5回市民公開講座「がん診療連携拠点としての新しい取り組み」
- ② 平成23年1月22日 第6回市民公開講座「がんと向き合って」

【交流会】

- ① 平成22年5月13日 第10回がん・緩和ケア交流会「がん治療中の食事」
- ② 平成22年7月8日 第11回がん・緩和ケア交流会「リンパ浮腫と上手につきあおう」
- ③ 平成22年9月9日 第12回がん・緩和ケア交流会「安心して治療を受けるために」

- ④ 平成22年11月11日 第13回がん・緩和ケア交流会「がん治療中の食事について」
- ⑤ 平成23年1月13日 第14回がん・緩和ケア交流会「アロマの基本とハンドマッサージ」
- ⑥ 平成23年3月11日 第15回がん・緩和ケア交流会「ストレスとのつきあい方」

(11) 東葛北部地域難病相談・支援センター事業関係

【会議関連】

- ① 平成22年4月20日 平成22年度第1回運営会議
- ② 平成22年10月19日 平成22年度第2回運営会議

【研修・講演会関連】

- ③ 平成22年6月30日 平成22年度第1回吸引実技研修会
- ④ 平成22年7月8日 神経難病患者・家族交流会
- ⑤ 平成22年11月5日 嚥下について講演会
- ⑥ 平成22年12月2日 在宅支援に関わる研修会
- ⑦ 平成22年12月15日 平成22年度第2回吸引実技研修会

(12) 医療安全・院内感染対策

【研修関連】

- ① 平成22年4月6日 1年目研修医を対象に医療安全研修
- ② 平成22年5月26日 新人看護職員を対象にリスクマネジメント研修
- ③ 平成22年6月4日 医療安全勉強会
「チェストドレーンバッグの正しい知識と安全な管理について」、「メラサキュームの正しい知識と安全な管理について」
- ④ 平成22年6月24日 医療安全講演会
「病院5S活動の取り組みについて」
- ⑤ 平成22年7月13日 4病院合同リスクシンポジウム
「各病院における医療の質向上のための取り組み」
- ⑥ 平成22年7月17日 柏病院チーム医療構築ワークショップ
- ⑦ 平成22年7月29日 感染対策セミナー
「針刺し・切創、粘膜曝露から身を守るために」
- ⑧ 平成22年9月14日 感染対策セミナー
「感染対策の基礎知識と結核対策について」
- ⑨ 平成22年10月6日 倫理委員会講習会
「適応外使用薬・治療を用いた臨床研究のあり方」
- ⑩ 平成22年10月29日 医療安全勉強会
「静脈血栓塞栓症の予防ーリスク評価と予防対策ー」
- ⑪ 平成22年11月1日 4病院合同リスクシンポジウム
「医療安全のためのチームワーク改善法 Team STEPPS」、「医療におけるヒューマンエラーとその対策」
- ⑫ 平成22年12月6日 4病院合同褥瘡セミナー
- ⑬ 平成22年12月18日 柏病院チーム医療構築ワークショップ
- ⑭ 平成23年2月2日 個人情報保護研修会
「個人情報漏洩発覚! 組織対応の進め方」、「電子化された情報の漏洩と対策」
- ⑮ 平成23年2月4日 医療安全報告会
「脳梗塞院内発症例におけるrt-PAによる血栓溶解療法について」
- ⑯ 平成23年2月7日 医療安全勉強会
「静脈血栓塞栓症の予防と注意」

- ⑰ 平成23年2月8日 4病院合同リスクシンポジウム
「チームで取り組む医療安全—Team STEPPS—」
- ⑱ 平成23年2月9日 医療安全報告会
「脳梗塞院内発症例におけるrt-PAによる血栓溶解療法について」
- ⑲ 平成23年3月3日 血液製剤使用適正化個別説明会
- ⑳ 平成23年3月7日 感染対策セミナー 「耐性菌についての理解と対策について」
- 【医療安全推進週間（平成22年11月1日～11月13日）】
 - ・平成22年11月1日～13日 患者アンケート実施（医療従事者の患者安全確認行為の実態調査）
 - ・平成22年11月1日 4病院合同リスクシンポジウム
- ① 「医療安全のためのチームワーク改善法 Team STEPPS」
- ② 「医療におけるヒューマンエラーとその対策」
 - ・平成22年11月2日 院長、看護部長らによる院内医療安全ラウンド
 - ・平成22年11月12日 4病院合同災害対策訓練・講演会
 - ・平成22年11月27日 公開講座 「冬の健康管理」

(13) 防火・防災

- ① 平成22年7月8日 トリアージ訓練を実施した。
- ② 平成22年9月28日 柏市自衛消防隊競技会に参加した。（男子隊・女子隊：努力賞）
- ③ 平成22年11月12日 4病院合同防災訓練を実施した。
- ④ 平成23年3月7日 柏市東部消防署との合同消防訓練を実施した。

(14) 工事関係

- | | |
|-----------------------|------------|
| ① 7C病棟無菌病室改修工事 | 平成22年5月完了 |
| ② 外周フェンス整備 | 平成22年9月完了 |
| ③ 看護棟地上波デジタル放送対策工事 | 平成22年10月完了 |
| ④ 外来部門空調設備更新 | 平成23年1月完了 |
| ⑤ 7B病棟病室改修工事 | 平成23年1月完了 |
| ⑥ 本館1階エントランスホール天井塗装工事 | 平成23年2月完了 |
| ⑦ 本館地下ピット配管更新 | 平成23年3月完了 |

(15) 研修医関連

- ① 平成22年度研修医は医師国家試験の結果、21名（一般プログラム20名、小児・産科育成プログラム1名）を採用し、平成21年度研修医13名と併せて、柏病院の研修医は34名となった。
- ② 平成23年度からは、一般プログラム（募集定員24名）、小児科医育成プログラム（募集定員2名）、産科医育成プログラム（募集定員2名）、計3つのプログラム、28名の定員で募集することとなった。

(5) 総合健診・予防医学センター

センター長 錢谷 幹男
 新橋健診センター 所長 和田 高士
 晴海健診センター 所長 阪本 要一

1) 22年度実績（新橋健診センター）

年間受診者 12,043名
 （内訳）
 *人間ドック 7,613名

*入社健診	552名
*定期健診	1,897名
*特殊検診	1,312名
*予防接種	222名
*その他	447名

- 2) 契約企業対象の健康医学セミナーを毎年開催している。
平成23年2月7日(月)開催した。参加人数は34名であった。講演内容は「あなたの体、80年使えますか? 40才からの運動のすすめ」について了徳寺大学健康科学部教授・稲次潤子先生が講演した。
- 3) 日本総合健診医学会による優良施設認定期間が更新され認定証が交付された。
- 4) 健康の医学のニュースを年4回(5月・8月・11月・2月)発行した。

(6) 病床数および外来患者数

(1) 病床数 (使用床)

(平成22年4月1日現在)

	本 院	青 戸	第 三	柏	合 計
個 室	289	26	60	61	436
2 人 室	6	38	44	40	128
3 人 室 以 上	754	299	461	482	1,996
合 計	1,049	363	565	583	2,560
比率 (内科系 : 外科系)	42 : 58	44 : 56	56 : 44	36 : 64	

(2) 病床数 (届出床)

(平成22年4月1日現在)

	本 院	青 戸	第 三	柏	合 計
個 室	298	26	55	66	445
2 人 室	6	38	28	62	134
3 人 室 以 上	771	326	502	496	2,095
合 計	1,075	390	585	624	2,674
比率 (内科系 : 外科系)	42 : 58	44 : 56	56 : 44	36 : 64	

(3) 平成22年度診療実績

(平成22年度)

	本 院	青 戸	第 三	柏	晴海トリトン	合 計
一日平均外来患者数	3,003	1,096	1,402	1,476	142	7,119
一日平均入院患者数	893	317	464	532		2,206
利用率 (稼働床)	85.1	89.4	82.2	91.3		86.5
予 算 達 成 率	100.0	102.8	99.2	101.3	100.0	100.5
紹介率 医療法	53.1	46.6	41.0	60.1	9.8	
” 保険法	43.5	44.1	33.1	49.9	3.9	

2) 派遣・関連病院関係

(1) 大学協力病院 (5病院)

(平成22年4月1日現在)

	病 院 名	院 長	副 院 長	常勤医数 (慈恵関係者)	病 床 数
1	国立病院機構 西埼玉中央病院	池内 健二 (昭57)	小野寺達之 (昭60)	41 (21)	325
2	富士市立中央病院	(院長職務代理者) 永井 素大 (昭45)	笠井 健司 (昭56) 鈴木 康之 (他学) 鈴木 優子 (看護)	72 (55)	596
3	厚木市立病院	田代 和也 (昭51)	太田 秀臣 (昭49) 吉塚 弥生 (看護)	46 (37)	356
4	町田市民病院	事業管理者 四方 洋 院長 近藤 直弥 (昭53)	佐藤 裕 (他学) 羽生 信義 (昭53) 金崎 章 (昭56) 櫻本千恵子 (他学)	69 (22)	458
5	東 急 病 院	徳留 悟朗 (昭56)		26 (20)	135

※大学協力病院の指定要件は次の通りである。

- 1) 院長または副院長等の主要ポストが得られること
- 2) 人事などに大学の意向が反映されること

(2) 教室等関連病院 (○印：大学協力病院)

内科学 ○ 国立病院機構西埼玉中央病院 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 神奈川リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 国立病院機構宇都宮病院 社会保険大宮総合病院 社会保険桜ヶ丘総合病院 国立病院東京医療センター 東京通信病院	横須賀うわまち病院 太田総合病院	都立小児総合医療センター* 湘南病院 国立成育医療センター 都立大塚病院 神奈川県立こども医療センター 狭山病院 葛飾赤十字産院 多摩南部地域病院
	※糖尿病・代謝・内分泌内科 川口市立医療センター 衣笠病院 川崎臨港病院 町立津南病院 野村病院	
※消化器・肝臓内科 ○ 東急病院 国立病院機構相模原病院 虎ノ門病院 松下電器東京健康管理センター 川口市立医療センター 松島病院大腸肛門病センター	※血液・腫瘍内科 川口市立医療センター 癌研究会附属病院 衣笠病院	皮膚科学 ○ 厚木市立病院 東京警察病院 NTT 東日本関東病院 東京通信病院
	※呼吸器内科 国立国際医療センター 国立病院機構東京病院 埼玉県立循環器呼吸器病センター 国立がんセンター中央病院	
※神経内科 川崎臨港病院 国立精神・神経センター武蔵病院 亀田総合病院 兵庫県立高齢者脳機能センター 姫路循環器病センター 国立国際医療センター 日本赤十字社医療センター	精神医学 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 栃木県精神保健センター 松下電器東京健康管理センター 北辰病院 横手興生病院 湘南病院 成増厚生病院 成田病院 総武病院 東条病院 放射線医学総合研究所 西熊谷病院 国立成育医療センター 常心会川室記念病院 栃木県立岡本台病院 豊後荘病院 久喜すずの木病院 高田西城病院 那須高原病院 両毛病院 河津浜病院 芳野病院 光生会平川病院	放射線医学 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 神奈川県立汐見台病院 放射線医学総合研究所 日赤医療センター 大田原赤十字病院 JR 東京総合病院 都職員共済組合青山病院 松下電器東京健康管理センター 癌研究会附属病院 星総合病院 都立荏原病院 東京歯科大学市川総合病院 東京労災病院 立川総合病院 藤沢市民病院 立川中央病院 聖マリアンナ医科大学
	※腎臓・高血圧内科 ○ 東急病院 済生会中央病院 益子病院 中野江古田病院 東京都老人医療センター 川口市立医療センター 沼津市立病院 養生会かしま病院 済生会向島病院	
※リウマチ・膠原病内科 国立病院機構相模原病院	小児科学 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 神奈川リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 国立病院機構宇都宮病院 国立病院機構相模原病院 埼玉県立小児医療センター 町立津南病院 都立北療育医療センター 社会保険川崎中央病院	外科学 ○ 国立病院機構西埼玉中央病院 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 ○ 東急病院 神奈川リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 社会保険桜ヶ丘総合病院 社会保険大宮総合病院 癌研究会附属病院 埼玉慈恵病院 湘南病院 川口市立医療センター 総合高津中央病院 賛育会病院 藤村病院 春日部中央総合病院 守谷慶友病院 藤立病院 金町中央病院 青山病院

麻生病院 川崎市立川崎病院 国立成育医療センター 佐々木病院 日比谷病院 第三北品川病院 安田病院 市川第二病院 益子病院 東葛辻仲病院 武蔵野総合病院 行田中央病院 佐倉中央病院 医療法人秀峰会川村病院	都立清瀬小児病院 産婦人科学 ○国立病院機構西埼玉中央病院 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 茅ヶ崎市立病院 深谷赤十字病院 杏雲堂病院 太田総合病院 国立成育医療センター 立正佼成会附属佼成病院 東京顕微鏡院附属病院 谷津保健病院 都健康推進財団多摩がん検診センター 横浜市立みなと赤十字病院	湘南病院 聖路加国際病院 大森赤十字病院 太田総合病院 東京共済病院 東京厚生年金病院 東京歯科大学市川総合病院 都立豊島病院 同愛記念病院 国立がんセンター東病院 東部地域病院 総合病院国保旭中央病院 東京臨海病院 佐久総合病院
整形外科 ○国立病院機構西埼玉中央病院 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○東急病院 神奈川県リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 国立病院機構宇都宮病院 社会保険桜ヶ丘総合病院 都職員共済組合青山病院 第三北品川病院 とちぎリハビリテーションセンター 都立豊島病院	泌尿器科学 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 社会保険大宮総合病院 星総合病院 JR東京総合病院 東京都リハビリテーション病院 平塚共済組合病院 立正佼成会附属佼成病院 国立成育医療センター 栃木県立がんセンター	麻酔科学 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 ○東急病院 川口市立医療センター 国立病院機構宇都宮病院 社会保険大宮総合病院 神奈川県立汐見台病院 東京北社会保険病院 埼玉県立循環器呼吸器病センター
脳神経外科学 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 東大宮病院 秋葉病院 麻生病院 宇都宮第1病院 大森赤十字病院 聖マリアンナ医科大学病院 明徳会佐藤第一病院	眼科学 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 ○東急病院 神奈川県立汐見台病院 神奈川県立汐見台病院 社会保険桜ヶ丘総合病院 国立病院機構相模原病院 東京労災病院 国立病院東京医療センター 田中農協病院 二本松眼科病院 八潮中央総合病院 衣笠病院 新松戸中央総合病院 国立身体障害者リハビリテーションセンター 東京警察病院	リハビリテーション医学 神奈川県立リハビリテーション病院 東京通信病院 中伊豆リハビリテーションセンター 都立大塚病院 都立墨東病院 とちぎリハビリテーションセンター 東京都リハビリテーション病院
形成外科学 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 東京厚生年金病院 第三北品川病院 都立駒込病院 本島総合病院	産婦人科学 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 ○東急病院 神奈川県立汐見台病院 神奈川県立汐見台病院 社会保険桜ヶ丘総合病院 国立病院機構相模原病院 東京労災病院 国立病院東京医療センター 田中農協病院 二本松眼科病院 八潮中央総合病院 衣笠病院 新松戸中央総合病院 国立身体障害者リハビリテーションセンター 東京警察病院	病理学 ○国立病院機構西埼玉中央病院 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 立正佼成会附属佼成病院 国立病院機構千葉東病院
心臓外科学 ○富士市立中央病院 ○町田市民病院 埼玉県立循環器呼吸器病センター 埼玉県立小児医療センター 横浜総合病院 都立豊島病院 佐久総合病院 新東京病院	耳鼻咽喉科学 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○東急病院 神奈川県立汐見台病院 神奈川県立汐見台病院 癌研究会附属病院	内視鏡科 益子病院 松島クリニック 社会保険中央総合病院 川村病院
		歯科 ○町田市民病院 社会保険大宮総合病院
		感染制御科 神奈川県立汐見台病院
		法医学 東京都監察医務院
		分子生理学 東京歯科大市川総合病院

(3) 特殊派遣機関（8機関）

病 院 名	科 名	病 院 名	科 名
日本航空インター ナショナル（羽田）	内 科 学	日本航空ジャパン	内 科 学
	精 神 医 学		精 神 医 学
	放 射 線 医 学		眼 科 学
	眼 科 学		耳 鼻 咽 喉 科 学
	耳 鼻 咽 喉 科 学		内 科 学
日本航空インター ナショナル（成田）	内 科 学	衆 議 院 診 療 所	皮 膚 科 学
	精 神 医 学		眼 科 学
全 日 空	内 科 学		出版健康保険組合診療所
	整 形 外 科 学	内 科 学	
	眼 科 学	眼 科 学	
	耳 鼻 咽 喉 科 学	東京国税局診療所	内 科 学
	内 視 鏡 科		精 神 医 学
航空医学研究センター	内 科 学		外 科 学
	精 神 医 学		
	眼 科 学		
	耳 鼻 咽 喉 科 学		

(4) 特殊派遣機関（海外派遣機関）

病 院 名	科 名
英 国 ロ ン ド ン 日 本 人 ク ラ ブ	内 科 学
	小 児 科 学

6. 学術情報センター

学術情報センター長 兼平 千裕 (放射線医学) (平成19年4月より)
同 図書館国領分館長 茅島 江子 (母性看護学) (平成22年4月より)

1) 平成22年度統計 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(1) 図書館

① 蔵書冊数	252,819冊
② 現在受入雑誌数	1,003種 (和789種、洋214種)
③ 電子ジャーナル提供数	約4,800種
④ 館外貸出冊数	11,215冊
⑤ 他学との文献相互貸借数	貸出4,660件 借受4,026件
⑥ 複写サービス	1,370,304枚
⑦ 情報検索サービス	79,493件 (代行とセルフサービスの合計)

(2) 国領分館

① 蔵書冊数	81,041冊
② 現在受入雑誌数	375種 (和322種、洋53種)
③ 館外貸出冊数	8,509冊 (視聴覚資料含む)

(3) 標本館

① 標本数	マクロ標本	1,630点
	顕微鏡標本	2,549点
② 視聴覚資料	ビデオ・プログラム	1,768セット
	スライド・プログラム	601セット
	16mmフィルム	37セット
	コンピュータ・ソフトウェア	52セット
	語学プログラム	204セット
	その他	79セット

(4) 史料室

見学者数 226名 (学内20名、学外206名)

(5) 写真室

① 撮影・スライド制作サービス	42件 (1,838枚)
② レントゲンフィルム複製サービス	258件 (2,104枚)
③ ビデオ編集サービス	52件 (265時間)
④ カラープリント出力サービス	191件 (2,858枚)
⑤ 35mmスライド入力サービス	27件 (1,514枚)

2) 主な事項

(1) 医学部学生演習

医学科1年生と2年生を対象にした基礎的な情報検索演習 (医学総論) と、医学科3年生と4年生の「医療情報・EBMコース」の情報検索演習、看護学科1年生の図書館オリエンテーションを担当した。

(2) ネットワークを介した情報提供

電子ジャーナルと医学関連データベースをネットワーク経由で利用できる環境を維持した。データベースに新規データが追加された際に電子メールにて通知するサービス (AutoAlert サービス) を、平成21年度に引き続いて実施している。また、平成21年度に引き続き、新聞4誌から医療関係の記事の見出しを学内に電子メールで配信するサービスも実施した。

(3) 学術リポジトリの構築

学内の学術成果物を電子的に蓄積し、インターネット上に公開する学術リポジトリの運用

- を担当している。東京慈恵会医科大学雑誌、Jikeikai Medical Journal、教育・研究年報、Research Activitiesの内容を最新版に更新し、インターネットで参照できるようにした。
- (4) 『東京慈恵会医科大学教育・研究年報2009（第29号）』および『Research Activities 2009』の編集担当
標記各年報の原稿を大学ネットワーク経由で収集し、編集・出版の作業を担当した。
- (5) 『東京慈恵会医科大学記録VII』の編集担当
学内各部署の協力を得て、平成16年度から20年度までの大学の活動をまとめた標記記録を1月に発行した。
- (6) 医学論文書きかた講習会の開催
Jikeikai Medical Journal編集委員会と東京慈恵会医科大学雑誌編集委員会の共催により、5月12日に大井静雄教授（脳神経外科学講座）「医学英単語の覚えかた・医学英語論文速読のコツ」、5月18日に甲斐正嗣先生（本学平成14年卒 ニューヨーク大学病院胸部心臓外科クリニカルフェロー）「アメリカ臨床研修への道とその実際」、5月20日に岡崎真雄准教授（学術情報センター）「How to Write More Clearly」、5月25日に小原平教授（英語研究室）「優しい英文法」と題する内容についての講習会が開催された（いずれも開催時間は、18時～19時30分）。この講習会は大学院共通カリキュラムの必須科目「医学研究概論」の授業を兼ねている。
- (7) 教材・研究資料の作製支援
学内教職員、学生、同窓生を対象に、静止画及び動画の撮影をはじめ、アナログ・デジタル写真の作製・加工、ポスター作成、ビデオ編集のサービスを行っている。また35mmスライドをデジタルデータ化するサービスも行っており、パワーポイントファイル作成支援をしている。
- (8) レントゲンフィルムの複製
教育・研究用の資料として、他病院への診療情報提供、裁判所等への提出資料として、また病院保管用資料として用いるレントゲンフィルムのコピーを行っている。
- (9) 広報活動支援業務
広報活動支援業務として、学内行事の撮影、および保管している画像データの提供を行っている。
- (10) 情報技術支援業務
学事課・システム課・教育センターの職員との協力による情報技術支援業務（テレビ会議等）を継続担当している。
- (11) リモートアクセスサービスの実施
大学ネットワーク上で利用可能となっている電子ジャーナルおよびデータベースを学外（自宅や派遣先）からアクセスするためのサービスである「リモートアクセスサービス」を平成21年度に引き続き行った。
- (12) 「東京慈恵会医科大学創立130年記念誌編集委員会」への参加
標記記念誌の編集作業、および掲載写真の用意のほか、関連して、10月2日（土）に開催された「東京慈恵会医科大学創立130年・東京慈恵会医科大学同窓会設立85周年合同記念式典」でのパネル展示の作成も担当した。

7. 教育センター

教育センターの目的は、卒前教育、卒後教育、生涯学習の連続性の中で、大学、附属病院を横断する教育活動を支援・実施することである。平成22年度の本センター活動については、大学の基本方針、運営計画に基く活動として、下記事業を実施した。

1) 大学の社会貢献と広報活動の充実においては、本センターが主管している公開講座推進委員会主導のもと、大学および4附属病院の独自性、自主性を保ちつつ運営し、一般市民および地域医療者を対象として大学主催の公開講座を25回開催し、2,796人の参加者があった。開催は次のとおり。

- (1) 大学 看護学科3回、心音セミナー3回
- (2) 附属病院愛宕山みんなの健康教室（NHK放送博物館共催）3回、CPR公開講座1回
- (3) 青戸病院公開健康セミナー 2回
- (4) 第三病院公開健康セミナー 11回
- (5) 柏病院地域医療連携フォーラム 2回

その中で23回分を国の私学助成の経常費補助金を活用して実施した。

これらの取り組みについては、学内に情報の提供を広く呼びかけ公開講座の推進を図り、一般市民および地域医療者には大学の公開講座ホームページに掲載し、情報発信を行った。

また、研究成果の社会還元・普及事業として、(独)日本学術振興会の委託を受け、ひらめき☆ときめきサイエンス「なぜ、近年肥満者が増加しているのだろうか?」を臨床検査医学講座・鈴木政登教授を責任者に、7月30日6階実習室で実施し、中高生29名が参加した。

2) シミュレーション教育の改善においては、西新橋スキルス・ラボをシミュレーション教育の充実と卒前・卒後・医療従事者の利用向上を図るため、平成22年4月1日よりC棟7階に移設し、シミュレーション教育施設に改称し、教育環境をセミナー室1室と実習室8室として拡充した。これに伴い、新しい教育実践として、臨床研修医のシミュレーション教育の集合研修を2回行った。

- (1) 4月2日 1年目研修医43名 ステーション数6（救急医療、腰椎穿刺など）
 - (2) 11月27日 2年目研修医33名 ステーション数4（救急医療、CVカテ挿入、エコー実習など）
- 教育センターが主管しているスキルス・ラボ運営委員会を4月よりシミュレーション教育施設運営委員会に改称し、学部学生、研修医、看護部等がシミュレーション教育施設および機器備品貸出を利用できるようにし、診療技能教育を向上した。利用件数は、西新橋校が年間371件、国領校が年間74件であった。

3) 文部科学省平成20年度戦略的大学連携支援事業（東京慈恵会医科大学（主管）、昭和大学、東京医科大学、東邦大学の4大学間連携）「東京都内4医療系大学連携によるカリキュラム開発と地域医療者生涯学習コース提供」は福島統教授（教育センター長）が責任者として、教育センターが主管事務を担当し、4大学間連携事業を推進し、次のように取組を実施した。

- (1) 4大学責任者会議を2回開催した。
- (2) 英国セント・ジョージ大学の医学教育責任者のProf.Peter McCrorieを招聘し、11月14日～22日に外部評価を実施した。
- (3) 公開シンポジウムを11月21日に開催し、本取組の成果を発表し、意見交換を行った。
9大学 40人参加、大学1号館講堂
- (4) 本事業の成果報告書を作成し、全国医学部等に配布した。
- (5) 大学IT技術職員Staff Development (SD) プログラムの活動を行い、公開セミナー・ワークショップを5回実施した。
・5月14日「医療情報の利活用について」（4大学19名参加）

- ・ 7月23日 「大学IT職員に求められるもの」(5大学30名参加)
- ・ 9月10日 「教育IT化の光と影—山口大学の事例から—」(4大学32名参加)
- ・ 10月1日 「医学教育と大学職員」(4大学25名参加)
- ・ 11月26日 SDを振り返っての発表(4大学23名参加)

- 4) 文部科学省平成22年度大学教育・学生支援推進事業大学教育推進プログラム「学生一人ひとりを育てる学習評価システム」は福島統教授(教育センター長)を責任者として、申請し、採択された。本事業で行った主な取組は次のとおり。
- (1) 医学科総合試験をコンピュータ試験化するためのシステム開発を行い、2月14日医学科5年生101名に対して総合試験でのコンピュータ試験トライアルを実施した。
 - (2) 学生一人ひとりの学習評価を蓄積するポートフォリオを構築するため、医学科は1年次福祉体験実習、2年次重症心身障害児療養体験実習などの学外実習のレポートやフィードバック、看護学科では老年看護学実習などの臨地実習について、学生の臨地実習自己評価などを入力フォーマットとして検討した。
- 5) 生涯継続学習のための卒前・卒後教育教材の作成とeラーニングの支援を行った。eラーニングは年間31コース137回を実施した。
- (1) 医学科学生 12コース、50回(3年次症候学演習、4年次基本的臨床技能実習など)
 - (2) 看護学科学生 8コース、29回(2年次情報科学、3・4年次在宅看護学実習など)
 - (3) 看護専門学校学生 2コース、4回(1年次情報リテラシーなど)
 - (4) 卒後教育(研修医、看護師、地域医療者など)9コース、54回(鏡視下手術トレーニングなど)
- 6) 4機関合同の教育活動の支援において、本センターが主管しているテレビ会議運営委員会主導のもと、4機関を接続したテレビ会議システムを運営し、年間21回のテレビ会議システムの利用支援を行った。利用内容は大学創立130年・同窓会設立85周年合同記念行事、4病院合同リスクマネジメントシンポジウム、臨床研究講習会、成医会、大震災に伴う緊急対策会議などであった。
- 7) 地域医療を行っている医師を対象に「プライマリ・ケアのための臨床研究者育成プログラム」を松島 雅人准教授(臨床疫学研究室・教育センター・総合診療部)を責任者として実施した。
- 【1期生・受講生12名】
- (1) 講義(eラーニング):6コース 全44回
- 【2期生・受講生12名】
- (1) 講義(eラーニング):6コース 全44回
 - (2) 第4回ワークショップ 7名参加 10月10-11日 6階講堂
- 【H22年度生・受講生14名】
- (1) 講義(eラーニング):6コース 全37回
 - (2) 第1回ワークショップ 13名参加 7月17-18日 E会議室
 - (3) 第2回ワークショップ 13名参加 12月11-12日 E会議室
- 上記の講義(eラーニング)6コースは家庭医療学、EBMから始まる臨床研究、疫学臨床研究、質的研究、生物統計学コース、医療倫理と研究倫理の内容で実施した。

8. その他

1) 成医会

(1) 第127回成医会総会は、平成22年10月7日(木)・8日(金)の2日間にわたって開催された。

① 特別講演

穎川 晋 教授(泌尿器科)

「高リスク前立腺癌に対する最新の治療戦略

—慈恵医大のとり組み—」

中川 秀己教授(皮膚科)

「当院乾癬患者におけるQOL調査」

② 宿題報告

杉崎 正志教授(歯科)

「ビスホスホネート関連顎骨壊死の臨床対応」

鈴木 勇司准教授(環境保健医学)

「磁場の安全性と有用性」

大西 明弘准教授(臨床検査医学)

「慢性肝炎・肝硬変患者における解毒機能と癌化に関わる遺伝的多型性」

川村 哲也准教授(腎臓・高血圧内科)

「IgA腎症の病態からみた治療法の提言

—エビデンスに基づく診療指針の作成に向けて—」

③ シンポジウム

「加齢を考える—アンチエイジングの基礎と臨床—」

司会 東條 克能(糖尿病・代謝・内分泌内科)

1. 加齢と生活習慣病

東條 克能(糖尿病・代謝・内分泌内科)

2. 加齢の分子生物学—テロメア・テロメラーゼ—

山田 尚(DNA医学研究所 分子遺伝学研究室・臨床情報部)

3. 皮膚のアンチエイジング

中川 秀己(皮膚科)

4. 骨・血管老化の病態連関とアンチエイジング

斎藤 充(整形外科)

5. ホルモン補充療法の功罪

神谷 直樹(晴海トリトンクリニック・産婦人科)

6. アンチエイジングの処方箋 —無・二少・三多

和田 高士(新橋健診センター)

④ パネルディスカッション

「東京慈恵会医科大学創立130年を記念して」

司会 阿部 俊昭(脳神経外科)

1. 東京慈恵会成立の過程を探る

—それを支えた慈恵・維新の志士達—

中山 和彦(精神神経科)

2. 慈恵看護教育の伝承と発展

芳賀 佐和子(看護学科)

3. 学祖高木兼寛の実践した疫学研究

浦島 充佳(小児科・分子疫学研究室)

4. 本学の医学教育と研究の将来

松藤 千弥(分子生物学)

- (2) 第1256回成医会例会は、平成23年2月23日（水）に行われ「生命を解くキーワード、それは“動的平衡”」が講演のテーマとして選ばれた。司会は、阿部俊昭（成医会運営委員長）が務め、青山学院大学理工学部教授の福岡伸一先生が講演し、最後に栗原敏成医会会長（学長）が総括を行った。
- (3) 第128回成医会総会については、平成23年10月6日（木）、7日（金）の2日間にわたって開催の予定。

2) 各種行事

- (1) 平成22年4月8日（木）、平成22年度医学科および看護学科入学式を挙行了した。
- (2) 平成22年8月9日（月）～8月11日（水）、宮崎県穆佐小学校学童2名、教諭2名の本学招待旅行が行われた。この行事は、昭和50年より始められ、今回で36回目となる。
- (3) 平成22年10月2日（土）、同窓会設立85周年記念第64回定期支部長会議、並びに大学創立130年・同窓会設立85周年合同記念式典を執り行った。
- (4) 平成22年10月9日（土）、学祖高木兼寛先生の墓参を行った。
- (5) 平成22年10月16日（土）、卒業50周年を迎えた卒業生（昭35年）をお招きし、懇談の集いを開催した。
- (6) 平成22年10月28日（木）、第106回解剖諸霊位供養法会を増上寺において執り行った。
- (7) 平成23年1月31日（月）、渡邊直熙教授、伊藤文之教授、山田昭夫教授、法橋建教授、星順隆教授を囲んでの退任記念パーティーが行われた。
- (8) 平成23年2月18日（金）献体者遺族に対して文部科学大臣名の感謝状伝達式を執り行った。
- (9) 平成23年3月11日（金）、第86回医学科、第16回看護学科卒業式を挙行了した。

3) 印刷物等の発行

- (1) 法人誌「The JIKEI」
 - 1) 平成22年8月に「The JIKEI 15号」を発行した。
特集記事は「青戸病院リニューアルの進捗状況」である。
 - 2) 平成23年1月に「The JIKEI 16号」を発行した。
特集記事は「大学創立130年・同窓会設立85周年」である。
同窓、医学部父兄、記念事業募金寄付者、教職員、医療連携病院などに送付した。
- (2) 慈恵ニュース
平成22年8月に「187号」、平成23年1月に「188号」を発行した。
その他、号外として平成22年5月に「学校法人慈恵大学 中期目標・中期計画・平成22年度事業計画」、平成22年6月に「春季団体交渉結果」を発行し、教職員に配布した。
- (3) 大学ガイド
平成22年5月に医学部入試案内として「大学ガイドブック2011」を発行した。
- (4) 大学入試ポスター
平成22年5月にオープンキャンパス並びに入試日程に関わる「大学入試ポスター」を医学科・看護学科別に発行した。
高等学校、予備校等をはじめ、同窓会長、支部長、学術連絡委員に送付した。
- (5) 大学院ガイド
 - 1) 平成22年5月に「大学院看護学専攻修士課程の受験に関するインフォメーション」を発行した。
 - 2) 平成22年7月に「大学院ガイド・募集要項（博士課程）」を発行した。
 - 3) 平成22年8月に「大学院ガイド（看護学専攻修士課程）」を発行した。
 - 4) 平成22年11月に「大学院二次募集要項（博士課程）」を発行した。
- (6) 大学案内
平成23年3月に「大学案内（日本語改訂版）」を発行した。

- (7) 大学広報
発行なし。
- (8) 大学公報
毎月発行（年12回）した。
- (9) 平成22年度学校法人慈恵大学新体制
大学役員の改選に伴い、平成22年4月に「平成22年度学校法人慈恵大学新体制」を発行し、同窓並びに教職員などへ配布した。
- (10) 週刊ダイヤモンド特別広告
大学創立130年記念並びに大学のブランド力向上を目的として、週刊ダイヤモンド7月24日号に特別広告を掲載した。また、その内容を抜き刷り版として発行し、大学創立130年記念式典当日の記念品に加えると同時にホームページへも掲載を図って、学内外に向けて情報発信を行った。
- (11) 大学ホームページ
1) 平成22年10月に大学トップページの全面リニューアルを行った。
2) 平成22年10月に大学創立130年記念事業並びに記念事業募金のページを開設した。
3) 平成23年3月に基礎講座及び臨床講座等の教育研究活動ページを開設した。
ホームページを利用した情報収集が一般化し、大学ホームページへの総訪問者数及び訪問回数は年々増加傾向にある。平成22年度のホームページ新規作成及び更新依頼は400件を超えたが、関連部署ならびに関連委員会と連携してホームページ掲載内容の充実を図るとともに、常に最新情報を遅滞なく掲載するよう努めた。
- (12) イン트라ネット
「理事長・学長室」、「行事予定」、「大学公示」、「理事会・教授会議抄録」、「事業計画・事業報告書」等の更新業務を担当した。イントラネットは、各部署にて更新した情報が掲載されており、学内での情報共有の有効な手段として活用した。
- (13) オールユーザーメールの活用
講演会、研修会等の開催のほか、教職員のテレビ・ラジオ・講演会等への出演や新聞・雑誌等への掲載情報を主として、平成22年度は430件のオールユーザーメールを発信した。

〔付〕 1. 平成22年度 事業計画に対する実施結果一覧

中 期 計 画	平成22年度事業計画	平 成 2 2 年 度 実 施 結 果
<p>I. 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標</p> <p>1. 教育に関する目標</p> <p>(1) 教育の成果に関する目標</p> <p>①教養教育のあり方を検討する。</p> <p>②研究的態度を涵養するカリキュラムを改善充実させる。</p> <p>③医学科と看護学科でエビデンスに基づいた判断能力を涵養するカリキュラムを改善充実させる。</p> <p>④外国語教育の改善充実を図る。</p> <p>⑤学生の個性を尊重した教育を実施する。</p> <p>⑥国家試験を視野に入れた評価方法の改善を図る。</p> <p>⑦大学間連携を推進する。</p>	<p>①-1 医学科新カリキュラムの導入効果を検証する。</p> <p>①-2 高学年への教養科目導入を検討する。</p> <p>②研究室配属期間を6週間に延長する。</p> <p>③-1 クリニカルクラークシップ型臨床実習を取り入れた診療科を拡大する。</p> <p>③-2 臨床疫学に関するカリキュラムの充実を図る。</p> <p>④看護学科のクラス編成方式を評価・検討する。</p> <p>⑤選択臨床実習の期間を延長し、自由度を拡大する。</p> <p>⑥国家試験を考慮した試験形式の出題を検証する。</p> <p>⑦ 4 私立医大や首都大学東京などの連携を継続する。</p>	<p>医学科—教学委員会、カリキュラム委員会、カリキュラム自己点検委員会、カリキュラム編成会議にて新カリキュラムを含め、全般的な検証を実施した。</p> <p>医学科—カリキュラム委員会にて継続審議中である。 看護—医療経済学と日本国憲法を4年次後期に位置づけている</p> <p>医学科—本年度より研究室配属を6週間とした。当実習予算も435万円から600万円に増額し、後方支援を図った。</p> <p>医学科—第54回FD「クリニカルクラークシップ指導医養成」を開催した。本年度は診療参加型実習を行っていない診療科にも参加して頂いた。 看護—モデルコアカリキュラムの到達目標を視野に入れて平成24年度の改正カリキュラムを検討中である。</p> <p>医学科—コース「臨床疫学Ⅰ～Ⅳ」を4年間掛けて段階的にコース「医療情報・EBMⅠ～Ⅳ」に改訂し、コース「医療情報・EBMⅣ」ではユニット「Evidence-based clinical practice」として内容も刷新し予定通り実施された。特に平成22年度の医療情報・EBMⅢでは6名、医療情報・EBMⅣでは9名の学外講師を招いて学習効果の向上を図った。</p> <p>外国語の科目担当責任者からの教育の充実について評価を得た。しかし、学生からの評価については今後も継続検討が必要である。</p> <p>医学科—選択実習に自由度を持たせるためPhaseⅠ～Ⅲを12週間、PhaseⅣを3週間で合わせて15週間としている。さらに平成21年度より選択実習PhaseⅤ（1週間ごと）を新設した。本年度はPhaseⅠ～Ⅳの15週間実習をする学生が増加した。 看護—4年次後期の総合実習は、学生の選択を優先して実施した。今年度は、8領域が自由度を拡大した内容を計画した。</p> <p>医学科—平成21年度と同様に国家試験でのいわゆる新形式、計算問題を卒業試験に組み込んだ。第52回FD「試験問題作成」では第104回医師国家試験問題の出題傾向を作問者にレクチャーし医学卒業総括試験問題の改善を図った。 看護—疾病・治療学の試験問題は、国家試験を考慮した出題形式を取り入れている。出題数は多いが、科目担当者が内容を吟味しており評価できる。</p> <p>首都大学東京から特別科目等履修生として国領校では前期3名、後期4名、西新橋校では2名受入れた。平成20年度より本学を中心に、戦略的連携支援事業として『東京都内4医療系大学連携による教育カリキュラムの開発と地域医療者生涯学習コースを提供する』という取り組みを開始し、その中で『教育能力向上のための共同取組』（昭和大学担当）〔学務系職員のSD〕研修会を開催。一定の効果を上げており、来年度以降の継続について検討している。</p>
<p>①豊富な症例を対象とした臨床研究を行うため基盤整備を行う。 ・トランスレーショナルリサーチを推進する環境を整備する。</p>	<p>①臨床研究推進のための検討を行う。</p>	<p>・星薬科大学との学術交流の協定を締結した。 ・研究奨励費と研究振興費を統合し運用を行った。 ・経常費補助金特別補助大学院重点経費の改廃により、大学院生研究助成金および研究科研究推進費のありかたについて検討を行った。研究を推進するため次年度も継続して行うが、助成額を減額して行うこととした。</p>

中 期 計 画	平成22年度事業計画	平成 22 年 度 実 施 結 果
<p>②社会人入学の推進を図る。</p> <p>③研究者に必要な倫理観、判断力を涵養するプログラムを策定する。</p> <p>④共通カリキュラムの改善を図る。</p> <p>⑤看護学専攻修士課程における研究を充実させ質を高める。</p>	<p>②社会人大学院生に対応したカリキュラムの充実を図る。</p> <p>③新設した医学教育のカリキュラムの内容を継続的に検証し充実を図る。</p> <p>④共通カリキュラムの内容を継続的に検討する。</p> <p>⑤看護学専攻修士課程の安定した運用を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人の勤務体制を考慮し、大学院の一部の授業（共通カリキュラム、選択カリキュラム）を夜間の時間帯あるいは土曜日に設定した。更に次年度より共通カリキュラムの授業にe-learningシステムを使用した疫学・臨床研究の科目を追加講義要項を作成し準備した。（社会人のカリキュラムを導入している授業細目科、研究部門は11の授業細目科と3部門の総合医科学研究センターである。） ・慈大新聞に社会人大学院の公募案内を掲載し、積極的に募集を行った。 ・大学院共通カリキュラム「医学教育学」の講義を改組し、看護学専攻修士課程と共修科目とした。当講義内容は本学大学院の教育方針に則して実施され、全ての大学院生に受講を義務付けている。 ・次年度より大学院生の多くが出席できるよう曜日・時間帯等に配慮した。 ・社会人大学院生でも履修できるよう動物実験や医療統計学を土曜日に開講し、社会人大学院生は受講しやすくなった。（出席状況良好） ・次年度から、社会人大学院生のニーズに則して共通カリキュラムの一部の授業にe-learningを導入することになり、講義要項を作成して運用できるよう準備した。 <p>大学院委員会及び各委員会は開設後の諸問題を解決しながら、順調に運営を行うことで院生が学修しやすい環境を整える連携ができた。</p>
<p>(2) 教育内容等に関する目標</p> <p>①医学科・看護学科の入学試験を改善する。</p> <p>②医学科と看護学科のカリキュラムを点検し改善する。</p> <p>③モデル・コア・カリキュラムを考慮した医学科の特色あるカリキュラムを継続的に検討する。</p> <p>④医学科の交換留学制度を充実させる。</p> <p>⑤レジデント教育プログラムを改善して医学生に公開する。</p> <p>⑥高校訪問やオープンキャンパスを積極的に行い、看護学科受験者増を図る。</p> <p>⑦看護学科の定員を増やす。</p>	<p>①志願者増を図り優秀な学生の獲得に努める。入試事務室のセンター化を図り、医学科・看護学科の入試に関する作業の一元化を継続する。</p> <p>②21改正カリキュラムの実施状況を継続的に検証する。</p> <p>③医学科カリキュラムの状況を検証する。</p> <p>④医学科の外国人留学生受入れ専任窓口の設置を検討する。</p> <p>⑤-1新プログラムをホームページへ開示し、プログラムの充実を図る。</p> <p>⑤-2シミュレーション教育コースを充実し、医学生への活用を検討する。</p> <p>⑥看護学科の志願者を増やすために継続して広報活動を行う。</p> <p>⑦“看護学科定員増に関するプロジェクト”で継続して看護学科定員増に関連する課題を検討する。</p>	<p>看護大学が増加する中で、受験生を増やすことを視野に入れて入試科目の範囲を限定した。事務作業の一元化はスムーズに実施できた。医学科と看護学科の入試帳票類を統一した事により、作業の効率化がと安全性が図られた。</p> <p>区分分会議と講師会を通して、より効果的なカリキュラムの改善に向けて取り組んでいる。医学科との共修科目を高学年次に実施できるかは、継続審議が必要である。</p> <p>カリキュラム自己点検・評価委員会を年5回開催し、検証した。特に、2023年度からのECFMGの受験資格には世界基準の認証取得が必要であり、従来からのモデル・コアカリキュラムに加えて、それを見据えたカリキュラム編成が将来的に求められる。</p> <p>外国人留学生の受入窓口は、現在まで学事課と放射線科の教員並びに研究補助員が担当しており、国際交流委員長から現状の対応について理事へ報告している。今後具体化していく予定。</p> <p>レジデントプログラムの改善について、各科に随時依頼を行った。各科独自のホームページの充実が進められており、徐々に精度が向上している。</p> <p>シミュレーション教育を研修医1年目（4月）および2年目（11月）を対象に実践し、教育コースを充実させた。今後、医学生への活用を検討する。</p> <p>高校訪問並びに高校での模擬授業を実施した。夏季休暇時にはオープンキャンパスを3回実施し、多数の参加者があった。</p> <p>平成25年度から定員を60名とすることを決定し、プロジェクトチームを設置した。</p>

中 期 計 画	平成22年度事業計画	平成 22 年 度 実 施 結 果
<p>⑧看護学科の講義、実習、演習の比率を改善する。</p> <p>⑨看護における臨床技能を高めるために実習方法を改善する。</p> <p>⑩看護学科の海外実習を推進する。</p>	<p>⑧看護学科の講義、実習、演習の比率を見直し実践能力を向上するようフィールド調整や方法論を検討する。</p> <p>⑨-1 ステップノートを活用し、臨床技能を高める実習を行う。</p> <p>⑨-2 シミュレーション教育の改善を図る。</p> <p>⑩アメリカ看護研修、国際看護交流協会研修生受入れと交流、招聘講演会を企画する。</p>	<p>実践力を高めるために学内実習を多くする必要があるが、実習室が少ないため、今後は方法論の検討を進める。</p> <p>ステップアップノートを活用することで、学生と教員の技術項目への意識が高まった。</p> <p>高機能シミュレータを導入し、救急医療などの新規プログラムの看護教育シミュレーション研修を支援した。</p> <p>アメリカ看護研修に9名の学生が参加した。国際交流協会研修生との交流を行った。</p>
<p>(3) 教育の実施体制等に関する目標</p> <p>①教育・研究を考慮した教員の適正配置と教員数を検討する。</p> <p>②講義室などの教育環境整備を行う。</p> <p>③教育能力向上のための教育研修を実施する。</p> <p>④教員・医師人事評価制度の運用と体系的人事制度を構築する。</p>	<p>①教員医師人事室で教員の適切な人数を把握する。</p> <p>②-1 継続的に教育環境やアメニティの改善を図る。</p> <p>②-2 シミュレーション教育施設を開設し、シミュレーション教育環境の改善を図る。</p> <p>③-1 継続的にFaculty Development, Staff Developmentを行い、教育体制の充実を図る。</p> <p>③-2 生涯教育のための講演会を継続的に開催する。</p> <p>④-1 教員評価システムを教員人事に活用する。</p> <p>④-2 学生による教員評価の内容を充実させる。</p>	<p>平成23年度の定数設定は、臨床教員に関しては、教員（医師）の適正数について各科の診療実績に基づき検討し決定した。一方、基礎系教員は、増減の必要性について検討を行った。結果的には現状数が維持されることになった。</p> <p>医学科-5階・6階講堂、7階実習室のプロジェクターを交換した。また高木会館7階演習室で老朽化が進んだ映写機器、テーブル、イスを更新し教育環境の改善を図った。</p> <p>看護一大学自己点検評価の視察に合わせて、教育環境の整備ができた。今後は、定員増に向けた増築の際に、継続して環境整備を行う必要がある。</p> <p>大学本館スキルスラボからC棟7階に移設し、シミュレーション教育施設を開設した。学生、研修医、看護師、病院スタッフの利用を向上させた。利用件数は年間371件（前年度比+28%）。</p> <p>医学科一初年次教育に関するワークショップ^o（FD）を開催し、一定の成果を上げた。また、4年生の授業が1コマ70分となったこと、教科書を選定したことに関して効果的な授業のあり方をテーマにワークショップ^o（FD）を開催した。即効的な効果ではなく継続的に開催することで教育体制の充実が期待される。看護学科のみのFDを2回、医学科と合同のFDを1回、大学院修士課程と共同で1回実施した。</p> <p>生涯学習センター主催のセミナーは、予定通り開催されている。4月より2月に月例セミナーを7回開催し、合計138名の参加があった。3月に予定していた月例セミナーは、東日本大震災に伴う状況により中止とした。また、8月に夏季セミナーを開催し、76名の参加であった。</p> <p>平成23年度より、教員評価システムへの登録内容が昇格審議の際に参考資料として利用されることとなった。</p> <p>医学科-学生ワーキンググループとの打合せ、年2回開催の学生会と教学委員との懇談会を通じて、授業評価・教員評価について意見交換し改善を進めている。教学委員会においても評価結果のフィードバックの方法や改善について検討された。また、評価結果に基づいて教学委員長が教員にフィードバックを実施した。</p>
<p>(4) 学生への支援に関する目標</p> <p>①学生支援のための教員組織を充実させる。</p>	<p>①②1・2年生に対する学生生活アドバイザー有効活用の支援および3・4年生に対する支援のあり方を検討する。</p>	<p>医学科-成績が不振の学生について学年担当教学委員を中心に面談等を通じて相談を行った。また本試験不合格者の保護者に通知し、大学と家庭が連携して対応する体制とした。学生生活アドバイザーも教員1人が2、3名の学生を受持って生活面や学習面でサポートしている。</p> <p>看護一学生生活アドバイザーについては、アンケートの結果、学生、教員ともに必要性への疑問が多かった。次年度は、3、4年生に向けた進路・就職指導委員会の設置を検討している。</p>

中 期 計 画	平成22年度事業計画	平成 22 年 度 実 施 結 果
<p>②学力に問題のある学生に対する体制を改善する。</p> <p>③奨学金制度を充実させる。</p> <p>④精神的支援を必要とする学生のためのシステムを構築する。</p>	<p>③奨学金授与・貸与方法を改善する。</p> <p>④学生健康管理チームの活動を開始する。学生相談室、学生アドバイザー制度の見直しを図る。</p>	<p>三菱東京UFJ銀行と提携の教育ローンを見直し、希望者が自由に利用できるようにした。</p> <p>医学科一退学者、休学者に対して学生部長、副学生部長、学年担当教学委員が中心で相談を行った。メンタル面で問題を抱える学生については学生相談室で対応している。学生健康管理チームを立ち上げるケースはなかったが教学委員会が新体制となり学生相談室委員長が学生健康管理チームの役割や位置づけ等について教学委員会で説明し周知した。</p> <p>看護一学生の保健指導担当者が、週1日、学生相談窓口を開設した。利用者数が少ないため、今後は学生への周知を図り、場所の検討を行う。学生相談室の臨床心理士との意見交換を年2回実施した。</p>
<p>(5) 看護専門学校に関する目標</p> <p>①看護教員の確保に努める。</p> <p>②看護実践を重視した看護教育を行う。</p> <p>③学生確保のため積極的に広報活動を行う。</p> <p>④学生生活支援を積極的に行う。</p> <p>⑤看護専門学校の再編を検討し実行する。 再編に向けて4病院を活用した実習カリキュラムを検討する。</p>	<p>①看護教員確保に必要な具体的な措置を講じ、教員を確保する。</p> <p>②技術体験・見学体験の機会を増加させる。 ・臨床と基礎をつなげる教育方法の開発を行う。</p> <p>③ホームページ、オープンキャンパス、説明会の充実、様々な広報媒体を用いて積極的な広報活動を行う。</p> <p>④学習についていけない学生や生活上で問題のある学生への支援・指導、保護者との連携・協力、奨学金制度の充実を図る。</p> <p>⑤看護専門学校の再編計画を策定する。</p>	<p>採用活動の結果11名の応募があり6名面接、4名（新橋1名、第三1名、柏2名）を採用した。各校ともに教員定数より不足している。次年度もホームページや教員養成課程に向け求人活動を継続する。応募者数に反して慈恵の教員として採用できた人数が少ない。各臨床から教員になりうる人材を定期的に教員養成課程に進学させるシステムづくりが急務である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護技術の経験度を明確にし修得度が上がるよう臨床と協力体制を図り技術力の向上に努めた。 ・実習室を有効活用し、学生が自己研鑽できるようにした。 ・柏看護専門学校が関東信越厚生局の指導を受け補充実習を行った。その情報をもとに他の2校も実習時間を見直し補充実習を実施できた。 <p>オープンキャンパス（学校説明会）の実施、予備校主催の進路説明会への参加、インターネットを活用した募集活動、推薦指定校の進路相談教官との連携などの募集活動によりオープンキャンパス参加者数、受験者数は増加した。特に各校とも推薦入試応募者が大幅に増加した。新橋104名、第三52名、柏77名が入学した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年で定期面接、成績不振者の個別面接・指導を実施。精神面・学習面の支援を行った。 ・必要に応じて保護者と連絡を密にして連携を図た。 ・経済的に貧窮する学生が増加しているため、大学に奨学金の貸与人数の増加および貸与方法の追加（一括支給）を依頼、奨学金規程改定を実現した。 <p>青戸看護専門学校閉校に伴い、青戸病院を看護学生の実習場所として活用することを検討し実習を開始した。 慈恵看護専門学校…母性看護学実習 柏看護専門学校…23年1月より臨地実習開始</p>
<p>2. 研究に関する目標</p> <p>(1) 研究水準及び研究成果に関する目標</p> <p>①教員の職位に応じた論文発表を評価する。</p> <p>②国際誌への投稿を推進する。</p>	<p>①-1 教員評価システムへの論文発表データ登録の簡便化、機能強化を図る。</p> <p>①-2 大学院委員会で検討した発表論文基準に照らして研究業績の評価を検討する。</p> <p>②講習会の開催など、国際誌への投稿推進策を策定する。</p>	<p>論文データ登録の機能強化のため、システムの要件をまとめ、システム改修をすることとした。（平成23年5月改修終了）。</p> <p>平成23年度に実施する予定である。</p> <p>医学論文書きかた講習会の開催を担当し、論文作成のルールの周知を図った。論文を作成する際に必要となる各種文献情報データベースの説明会を開催した。</p>

中 期 計 画	平成22年度事業計画	平成 22 年 度 実 施 結 果
③ Jikeikai Medical Journal の充 実を図る。	③ MEDLINE 収 載 を 目 標 に Jikeikai Medical Journal の掲 載論文の質と量の充実を図る。 東京慈恵会医科大学学術リポジ トリ構築を推進し、発表論文の 国内外からのアクセス性の向上 を図る。	Jikeikai Medical Journal (JMJ) 編集委員会と慈恵医大誌編集 委員会を合同で委員会を開催し、2誌の今後のあり方、JMJへ の論文掲載の促進、掲載論文の質の向上について審議を重ねた。 JMJへの投稿呼びかけ文書を作成し、JMJ第57巻(1号～4号) (2010年)を添えて、学内の講座・研究施設に配付した。本学学 術リポジトリにより、JMJ掲載論文を、冊子発行前からインター ネット公開した。
(2) 研究実施体制等の整備に関す る目標 ①臨床研究支援体制を構築する。 ②先端研究を推進する体制を作る。 ③トランスレーショナル研究推進 体制を作り振興する。 ④寄付講座を振興する。	①共用研究施設の拡充を図る。 ②先端医療・先端研究に関するア ンケートを実施し、学内研究費 の再構築を図る。iPS細胞を用 いた研究を推進する。 ③-1再生医療研究室を設置し、 先端的なトランスレーショナル 研究を推進する。GMP対応施 設の活用を推進する。 ③-2スーパー特区に採択された 事業を支援する。 ④新たな寄付講座の開設に向けて 取り組む。	・共用研究施設の整備が進み、さらに学内の登録研究者の研究 環境が向上した。また細胞培養室、光顕切片試料作製室 に加え各種蛍光顕微鏡、位相差顕微鏡などが集約され暗所 での利用が可能となった。 ・研究の活性化のため学内研究費(研究奨励費)の充実を図 り研究者支援を行った。 ・遺伝病に対するiPS細胞の作製に成功した。iPS細胞作製手 法を用いた癌幹細胞の作製を試みている。また、iPS細胞 に関する研究の紹介を「医学研究の基礎を語り合う集い」「遺 伝病研究講座セミナー」等の学内のセミナーで行い研究の 推進に努めた。 ・学内の再生医療研究の現状等を踏まえ、先端医療研究推進 委員会が答申した、本学における再生医療研究のあり方に 基づき、総合医科学研究センターの組織内に専門部署の設置、 専門家の配置について検討を進めた。 ・GMP対応施設(細胞産生施設)については、企業との共同 研究が実施されるなど活発に利用されている。 ・先端医療開発特区(スーパー特区)に採択された事業につ いて学内外の研究者を集め定期的に進捗報告会を開いた。 学内や外部組織に対して先端機器の使用説明会・セミナー を開くなどさらに研究を推進させるための工夫を行った。 ・大学本館1階にスーパー特区共同利用実験施設Ⅱ(旧スキ ルスラボ室)を設置した。 ・遺伝病研究講座に加え、新たな寄付研究講座(アレルギー 学研究講座：平成23年度から24年度までの2年間)の開設 準備を進めた。
(3) 総合医科学研究センターに関 する目標 ①自己点検・評価を推進し外部評 価を受ける。 ②研究成果を積極的に開示する。	①自己点検評価および外部評価を 実施し、評価結果を公開する。 センターの研究施設体制の再構 築を検討する。 ②研究所の合同研究発表会の開催 を検討する。	・自己点検・評価について大学年報等に記載し外部に公開した。 成果に関して、DNA医学研究所、共用研究施設は年報の体 裁を変更したり新たに刊行し一層の広報を行った。 ・総合医科学研究センター評価委員会を設置した。 ・3月に予定していたDNA医学研究所・臨床医学研究所の合 同研究発表会の開催は地震の影響で延期となったが、研究 成果は学内の「DNA医学研究所セミナー」の回数を年度末 に増やすなど成果の積極的な開示を行った。本セミナーに ついては開催日時に加えて、セミナーの要旨を学内全教職 員にオールユーザーメールを送信するなどの工夫を行って いる。

中 期 計 画	平成22年度事業計画	平 成 22 年 度 実 施 結 果
③各研究所・研究室の特色ある研究を推進し、情報公開に努める。	③大型研究設備をホームページで公開し、共同利用を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・DNA医学研究所は各研究部が協力し臨床教室の大学院生を積極的に受け入れ、臨床教室の研究をソフト面、ハード面よりサポートした。また独自の研究も進展し、特にすい臓がん、脳腫瘍に対する新規免疫療法は臨床応用が進み治療に至る例もあった。臨床医学研究所では新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の研究事業が活発に実施され、「最先端・次世代研究開発支援プログラム」に応募した大型プロジェクト研究課題が採択された。 ・実験動物研究施設は、スーパー特区設備整備事業により設置された「小動物用デジタルMRI装置」が大学に移管されるなど大型設備の充実が顕著となった。 ・共用研究施設は共同利用できる全ての機器について全面的に公開し、ホームページのリニューアルを行い、更に利用者のメーリングリストの活用を開始した。メンテナンスや機器の状況について周知が容易となりこれまで以上に利用がしやすくなった。
(4) その他 ①知的財産を社会に還元するために市民公開講座を積極的に開催する。	①市民および地域医療者の公開講座を継続し、補助金を活用して積極的に開催する。	大学、附属病院、青戸病院、第三病院、柏病院において一般市民または地域医療者を対象に25回の大学主催公開講座を開催した。
3. 附属病院（4病院）に関する目標 (1) 医療安全の推進 ①医療安全・感染対策管理体制の点検・評価を実施する。 ②教職員の教育・研修の定期的開催と医療安全文化を醸成する。 ③医療問題および感染症発生時の迅速な対応体制を確立する。 ④私立医科大学病院間の相互ラウンドを実施する。	①附属4病院相互ラウンドの再構築による附属4病院間での連携強化と問題解決を行う。フロアリスクマネージャーと協力した、改善策実施状況の定期的な評価を行う。 ②教職員に対する教育・研修により医療安全・感染対策に対する知識・技術を向上させる。 ③教職員への指導強化により、医療問題および感染症発生時に迅速に対応する。 ④私立医科大学病院間の相互ラウンドによる情報共有や、問題点の明確化による医療安全体制の見直しを図る。	【医療安全・感染対策】 5回/年開催される附属4病院リスクマネジメント委員会での事例の検討と改善策の共有を行った。又、附属4病院相互ラウンドにより現場での改善策の実施状況の確認を行った。 【医療安全・感染対策】 4回/年開催している附属4病院合同シンポジウムで医療安全・感染活動の共有や外部講師を招いての講演会を行った。医療安全推進室のスタッフがTeam STEPPSの研修を受講し11月1日の医療安全推進週間のシンポジウムで講演会を開催し2月8日の4病院医療安全シンポジウムでマスタートレーナーの講師からの講演を行った。1月からTeam STEPPSエッセンシャルコース開催し108名が参加した。 【医療安全】 5回/年開催される附属4病院リスクマネジメント委員会での事例の検討と改善策の共有を行った。又、日々の業務の中で病院間の連携を図り医療問題の解決に取り組んでいる。発生事例から現状の把握を行いマニュアルの見直しを随時行った。 【感染対策】 毎月、分院より本院の感染対策委員会に参加し情報共有、対策の協議を行った。 【医療安全】 医療安全推進連絡会議議長施設として、全私立医大病院（主に本院）から医療安全相互ラウンドに関する意見を聴取し、チェックリストの改訂案を作成し私立医大協会へ提供した。前年までの全国6ブロックから東西2ブロックへの変更に伴い、他地域の大学病院（藤田保健衛生大学附属病院・岩手医科大学附属病院）との相互ラウンドを行い、情報共有に努めた。 【感染対策】都内11大学による感染対策作業部会を開催し、チェックリストの作成や情報共有を行っている。また、全国の私大感染対策協議会の設立にともない事務局を担当し、第1回総会を開催した。

中 期 計 画	平成22年度事業計画	平 成 22 年 度 実 施 結 果
⑤システム工学を応用して業務を可視化し根本原因の検索とシステム改善を行う	⑤薬剤業務の業務改善、患者誤認予防、看護師管理下投与忘れの減少への取り組みを行う	6回/年の東大・早稲田・慈恵共同研究推進会議を開催し業務の可視化を行い問題の抽出、改善策の立案、実施、評価を行った。病院管理学会、医療の質・安全学会での口演を行った。モデル病棟では看護師管理下投与忘れが75%減少した。
(2) 先進医療の推進 ①医療の質と技術向上のための取り組みを推進する。	①-1 低侵襲手術を始めとした先進医療トレーニングシステムを周知させ振興する。 ①-2 患者ニーズに対応した先進医療を提供するため、各診療科からの申請に迅速に対応する。また、幅広く情報提供を行い先進医療の拡大を推進する。	鏡視下トレーニングコースの運用を通じて、安全に高度医療を提供できる体制整備を推進している。本コースは本運用に合わせて段階的に学内規程を策定しており、随時、診療部長会などで報告している。 毎月の診療部会議にて、各診療科において実施している臨床研究で特に先進性の高いものを新規申請するよう促した。また、本邦で認められている高度医療・先進医療の全リストを各診療科に配布し、当院での実施状況を確認、さらに新規申請手続きが非常に煩雑であるため、管理課事務員が医師のサポートを行ったことにより、下記の通り新規申請、承認件数が増加した。 ※平成22年度の高度および先進医療技術⇒合計9件（平成23年4月1日現在）
(3) 患者サービス・病診連携の推進 ①医療連携を進める具体的な体制整備を行う。 （医師・看護師・SW等が協働できる体制） ②ボランティア受入れ体制を整備・強化する。 ③退院・転院・在宅医療などの支援業務を一体化する。	①BSCを用いて患者支援・医療連携センターの協働体制強化に努め、近隣病院への戸別訪問等による医療連携の強化、推進を図る。 ②ボランティアの人員増を図り、活動範囲、場所の拡大を促進する。 ③退院・転院・在宅医療などの支援業務の情報を早期から共有し効率的な運用を図る。	戸別訪問は10医療機関、同窓支部長訪問は8施設を実施した。また、近隣医療機関主催による懇談会等に参加し、情報収集を図ることに努めた。 新規活動登録者数は61名。活動者総数は112名となった。活動状況は、月平均活動実人数63名、月平均延べ人数129名で、ここ数年の活動状況と比較し、約2倍に増加した。新規導入の植栽活動は、花壇のお花を見ると心が安らぐと、患者さんからも好評を得ている。 平成22年度は、外来PFMに参画し、早期患者支援に参画した。また、長期入院（30日以上）患者の把握、適切な入院期間および退院支援に努めた。
(4) 効率的な医療の推進 ①DPCに対応したクリニカルパスを普及し、治療の標準化、医療の安全と効率化を図る。	①-1 DPCに対応したクリニカルパスの導入を推進する。 ①-2 後発薬品導入を推進する。 ①-3 外来疾病別原価分析を実施する。	クリパスWGを発足し、他大学におけるクリパスの機能や運用等を視察した上で、当院のクリパスのシステム向上を図っている。また、一部の症例でクリパスを導入した。（本院） 現行使用クリパスの見直しおよび新病院で新規に作成するクリパスの洗い出し作業を行い、新病院システムとの互換性のあるクリパス作成の準備段階まで終えることが出来た。（青戸） 紙媒体のクリニカルパスを使用可能なものと不必要なものに整理することは完了した。使用可能なものについては利用頻度の高いものからパスオーダー化を推進することとし随時見直しを行っている。また癌拠点病院として5大癌（乳癌、肺癌、胃癌、肝癌、大腸癌）の作成を最優先とし、胃癌パスの登録は完了し近日中の使用開始を予定している。（柏） 約20疾患（膝・股関節置換術、腎悪性腫瘍手術、額骨骨折、嚢胞摘出等）にクリニカルパスを導入し、標準化と効率化を推進した。また、診療科別DPC請求と出来高請求の比較分析を継続実施し、改善が必要なクリニカルパスについては、各診療部へ情報提供と改善提案を行い、更なる効率的クリニカルパス作成を推進した。クリニカルパス実施件数は前年度の合計件数2,546件から2,608件へと増加（診療科別では泌尿器科と耳鼻咽喉科が特に増加）となった。（第三） 4機関で18品目の先発医薬品から後発医薬品への切替が終了し、薬価換算で1億4500円の経費を削減することができた。また、後発品に切替に際してトラブルは発生しなかった。 月次部門別原価計算並びに外来疾患別原価分析を実施するようソフトの導入を検討している。平成23年度から実施を目標に仕様をまとめている。

中 期 計 画	平成22年度事業計画	平成 22 年 度 実 施 結 果
<p>②医師、看護師、コメディカル、事務職の効率的な業務分担の推進を図る。</p> <p>③共通操作性のあるオーダーリングシステムの導入を検討する。</p>	<p>②関係部署間で協力して担当業務、業務分担を見直す。</p> <p>③4病院のオーダーリングシステム導入計画を検討する。</p>	<p>組織および業務の見直しを行い、各組織の役割を明確にした上で、事務業務分掌規程の改定をH23.4に行った。(人事課)</p> <p>平成22年度より、医療従事者勤務適正化委員会を設置され、業務課が中心となって医師の業務軽減について検討が進められている。平成23年5月には文書カウンターを設置が予定されており、当面は文書受付を行う。中長期的には、事務による文書の下書き業務を担うべく検討が進められている。(医師人事)</p> <p>青戸病院リニューアルに向けたシステム構築が決定されたが、システム稼動評価を経て第三病院のシステム化を検討する予定である。</p>
<p>(5) 予防医学の推進</p> <p>①総合健診・予防医学センターと各病院との連携を強化する。</p> <p>②スポーツ・ウェルネスクリニックとスポーツ医学研究を見直す。</p>	<p>①各病院との連携強化のため、オーダーリング導入の検討を行う。</p> <p>②-1 総合健診・予防医学センターと連携して、一般人を対象とした運動療法・栄養指導を継続実施し拡大させる。</p> <p>②-2 体力医学研究を推進し学会発表等を行い研究の活性化を図る。</p>	<p>平成23年4月より病院とのPACS統合により健診センターでの画像が外来端末で確認可能とした。またオーダーリング端末設置により健診後の患者情報などが分かり病院との連携を図った。</p> <p>一般人を対象とした運動療法は順調に実施できているが、栄養指導に関しては遅れている。</p> <p>体力医学研究に関する学会発表、研究など進めている。</p>
<p>●附属病院（本院）に関する目標</p> <p>①特定機能病院としての機能を充実させる。</p> <p>②東京都認定がん診療病院としての機能を充実させる。</p> <p>③人材育成(スキルアップ)を行う。</p>	<p>①各診療科へ病院としての具体的な支援策強化や実施申請方法の簡素化を行う。</p> <p>②東京都認定がん診療病院としての機能を充実させる。(院内がん登録の促進、がん相談支援体制の確立、レジメンオーダーシステム稼動)</p> <p>③学内のキャリアパスを取り纏め、体系・整備を検討する。</p>	<p>特定機能病院の機能充実のため、本年度は高度医療技術の推進および医療安全の向上を中心に実施した。</p> <p>①毎月の診療部会議で、各診療科で実施している臨床研究のうち特に先進性の高いものを新規申請するよう促した。また、本邦で認められている高度医療・先進医療の全リストを各診療科に配布し、当院での実施状況を確認した。新規申請手続きが煩雑であるため、管理課で医師のサポートを行い、新規申請、承認件数が増加した。</p> <p>※平成22年度の高度および先進医療技術⇒合計9件（平成23年4月1日現在）</p> <p>②症例確保においては、経費の一部を病院が負担している。</p> <p>③医療の安全性について、毎年実施される関東信越厚生局による立入検査における指摘事項を迅速に改善した。</p> <p>④その他、施設基準の届出事項（患者紹介率等）を毎月確認した。専門医・指導医の人数も充足している。</p> <p>⑤東日本大震災を受け、災害対策を行うチーム（DMAT）の整備に努める。</p> <p>院内での抗がん剤使用は、事前にレジメン審査委員会の承認をとり投与することとした。なお診療科限定であるが、レジメンオーダーシステムは稼動となった。(薬剤部)</p> <p>懸念材料であった緩和ケア研修会の開催は大きな成果があった。今後がんに関する連携を強化し地域がん診療拠点病院を目指していく。(管理課（診療情報室）)</p> <p>東京都がん診療連携協議会、相談・情報部会に参加すると共に、患者支援・医療連携センターは、がん相談員基礎研修会に参加した。また、相談内容に係るデータ集計、分析等を実施している。(患者支援・医療連携センター)</p> <p>大卒事務員キャリアパス(案)を体系化し、次年度以降制度化する予定である。(人事課)</p> <p>平成22年度より、臨床研修センターと教員・医師人事室の事務室が統合され、初期臨床研修から専門修得コース（レジデント）、そして助教としての正式採用へと事務手続きの流れが確立され、各医師からのキャリアパスに関する相談に柔軟に応じている。(医師人事)</p>

中 期 計 画	平成22年度事業計画	平成 22 年 度 実 施 結 果
④院内研修制度の充実を図る。	④「家庭医・再研修コース」の受け入れ体制を整備する。	平成20年度より、医師の開業前トレーニングを目的とした家庭医・再研修コースが設けられたが、本コースの利用者はないため、体制の改善を検討する。
①鏡視下手術トレーニングコースの充実を図る。	①STEP 1 及びMCQに関するe-ラーニングシステムの導入とSTEP 2の継続的な開催について検討する。	STEP 1 (実技)は毎年4回、順調に運営している。STEP 1 (MCQ)の稼動も順調である。STEP 2は、平成23年1月より本院にて本運用となり、受験者・合格者とも堅調に増加している。現在はSTEP 3の本運用に向けて準備を進めている。
①医療安全・感染対策に関する組織横断的な活動を推進する。	①教職員の医療安全および感染対策に関する意識向上を目的とした教育を実施する。特に研修医・レジデント・新規採用医師に対する教育・指導の充実を図る。フロアリスクマネージャーとの協力による、改善策実施状況の定期的な評価を行う。	【医療安全・感染対策】 ①各種研修会・セミナーを106回実施。今年度から、研修医医療安全セミナーを4回/年開催。医療安全・感染対策について重点的に指導を行った。研修後のアンケート調査から事例を用いた研修は、効果的で実践にいかせるものだったと評価を得た。 ②フロアリスクマネージャーによる院内ラウンドに今年度から看護主任・研修医も参加し前回指摘事項の改善状況の確認を行った。各種ワーキンググループ・検討会等フロアリスクマネージャーとともに事例発生時の情報共有・具体的改善策の立案・実施後の評価を行った。
①インフォームド・コンセントを徹底する。	①インフォームド・コンセントに関する調査を継続実施し、インフォームドコンセントの徹底を図る。患者からの苦情や意見を統計化し該当科へフィードバックを行い改善を図る。	患者からの苦情や意見があった場合、現場でのインフォームドコンセントが確実に行われていたか状況を確認している。徹底されていない場合は直接注意し、警鐘事例は医療安全管理部と連携を取りリスク会議や診療部会議にて報告している。(管理課)院内で運用している患者説明同意書について、増刷・新規作成時にリスクマネジメント委員会にて審議、所定項目(同意サイン欄等)の統一を進めた。又、ハイリスク症例やインシデント・アクシデント事例に関しては、随時患者説明同意書や診療録の内容を確認し不足があった場合は、追加説明するように依頼した。(医療安全推進室)
①患者支援・医療連携センターの機能充実を図る。	①BSCを用いた定期的な評価・修正を行い、患者支援・医療連携センターの機能充実を図る。	BSC・アクションプラン、指標等を定期的に評価、修正を行いながら実働した。
①臨床試験の支援体制を充実させる。	①臨床研究コーディネーターのレベル向上と治験の推進を図る。 ・臨床疫学研究室(新設)や分子疫学研究室と連携し、臨床研究を推進する。	①薬物及び医療機器治験審査委員会委員の教育として勉強会を開催した。 ②国際共同治験は、昨年度より8件増加して18件となった。 ③国際化に伴い、被験者登録や治験薬処方、症例報告書のWeb上でデータ入力、また採血検体の国際発送、手配などが増加した。 ④新規治験の依頼や実施計画に合わせて、SMO(治験施設支援機関)から派遣のコーディネーターを導入し、よりスピーディな被験者登録、実施に繋がられた。
①オーダーリングシステム導入による効率的な運用を図る。	①レジメンオーダー、処置オーダー、基本料オーダーおよび部門システム等を推進、検討する。	外来処置オーダーは眼科以外の診療科すべてで稼動した。眼科については、処置オーダー自体の作業は完了しているが、室内改修後のオーダー端末の増設について調整中である。また、基本料オーダーの稼動については、現在、外来委員会のWGで検討中である。(業務課) 下半期にレジメンオーダー、処置オーダーが順次稼動し、稼動調整しながら対象科拡大を図っている。(システム課)
②効率的な診療体制の構築を図る。	②-1内規の徹底を行いICUの効率的診療を図る。 ②-2外来点滴室の有効活用と患者サービス、質の向上を図る。	内規の認知が各科、各病棟まで浸透していないため周知を図っている。 月平均利用数300件程度で点滴室利用率80%台を維持した。看護師穿刺数は全点滴数の70%台と定着化した。また看護師穿刺を含めてリスクの発生はなく、看護部の静脈注射実習場所として看護師の技術習得に貢献した。
③手術室の効率運用を図る。	③-1外来棟手術室との機能連携の強化を図る。	外来棟にて麻酔科管理症例の取り扱い増加、看護業務の効率化が向上した。

中 期 計 画	平成22年度事業計画	平成 22 年 度 実 施 結 果
	③-2 中央材料室業務の効率化に向けて継続的に改善を図る。 滅菌器械とディスポ品の患者別セットを検討し、滅菌保証の精度向上に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ DRGセットを用いた手術が100%となった。 ・ 滅菌期限の総点検施行、棚卸し施行した。(手術部) ・ 滅菌装置2台の更新による滅菌時間短縮・乾燥性能の向上と、不足器械の計画的な補充により、手術器械の運用改善につながった。 ・ SPDとの協働による患者別セット化は導入に向けて検討中である。(中央材料室)
④救急患者受入れの体制整備を行う。	④東京都脳卒中急性期治療機関合同会議でのより積極的な行動。 ICLS等の教育コースを通じた芝消防署との連携を強化。広報の充実。ICUへの後期レジデントの派遣プログラム体制を整備。患者支援・医療連携センターとの関係強化。(医療連携の強化)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICLS等の教育コース、研修医同乗車実習等を通じ、芝消防署との連携を強化することができた。 ・ 救急医学講座のホームページを作成(修正中)し、広報活動を推し進めている。 ・ ICUへの後期レジデントの派遣プログラム体制を整備した。 ・ 医療連携強化のため、医療連携室事務方と関連施設を訪問している。
①月次医療収支額を把握する。 ②DPCデータの他大学とのベンチマークを実施する。 ③医療材料のSPD業務の再編を行う。	①月次医療収支額に基づくコスト管理の強化、収益性の向上を検討する。 ②6大学ベンチマークプロジェクトを継続的に推進する。 ③更なる4病院の物流効率化、標準化と大学全体の物流全般に関する将来計画案を策定する。	<p>4病院長・事務・看護部長会議や病院運営会議等にて検討し、効率の良い収支管理を行った。</p> <p>定例会議の開催、交換指標の追加や学会での発表ルールの制定等を行った。また、3大学で手術データの交換を開始した。3月11日の東日本大震災の影響を各大学でアンケートし、情報の共有、協力し合えること等を確認した。</p> <p>医療材料委員会の下部組織(4病院医療材料・物流検討WG)で医療材料の標準化と適正化を継続的に検討している。</p>
①施設基準等の定期点検を行う。 ②慣例的に行っている業務手順を法令遵守の視点で見直す。	①診療報酬改定に伴い、有効な施設基準を選択する。 ②病院機能評価受審時に指摘された事項を継続的に検討し改善を図る。	<p>本年度4月の診療報酬改定で、関係部署・科と連携を取り新規に設置された施設基準を算定することができた。また、精神神経科病棟においてワンランク上の看護基準を取得した。</p> <p>病院機能評価において「3-b」と評価された項目については、関係部署へ配布し、改善できるものから改善するようにした。患者満足度調査の継続実施しや看護部にてWGを組織し検討しているなど、各部署の取り組みが進んだ。</p>
①学内個人情報管理規定を遵守する。 ②電子媒体による情報管理を徹底する。	①定期的な研修会や講演会を実施し、個人情報管理を徹底する。 ②電子媒体の管理により情報を把握し、紙媒体の情報離散を減少させる。	<p>内部講師の招聘とDVDの視聴により、個人情報保護合同委員会主催の研修会を2月2日に開催した。(総務課) FAX誤送信防止のため、4病院共通の手順書を作成した。個人情報保護合同委員会開催による研修会を実施した。その際、医学生にも参加を呼びかけた。(管理課)</p> <p>上記研修会により管理面等を含めた啓蒙を図るとともに、個人情報流出・漏洩を防止するためオールユーザーにて注意喚起を行った。</p>
①診療情報を評価するシステムを構築する。	①関係部署と共同し、診療情報評価システムを構築するため情報収集を行う。	病院年報作成委員会を組織し、年報の作成を行っている。完成した年報を基に企画部と共同でシステムを構築する予定である。

中 期 計 画	平成22年度事業計画	平成 22 年 度 実 施 結 果
①働きやすい環境整備等を行う。	①職場環境の整備を検討し、具体的な改善を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事と家庭の両立支援啓発にH22.7西新橋、青戸、第三、柏の各機関でワークライフバランスセミナーを実施した。 ・働きながら子の養育することを支援するために、子育てハンドブックを作成し対象者に配付した。 ・ハラスメント防止の意識向上の周知するために、慈恵ニュース冬号に「ハラスメント防止と対策について」を掲載した。 ・同時にハラスメント防止のリーフレットを作成中、ハラスメント防止基本方針を次年度に向けて策定した。 ・人事部門ホームページでの案内充実、指針の策定を準備中。 ・メンタル不調者その他労務相談において、関係部署が協力し解決する流れを整備。 ・人事部門の窓口利用者へのサービスを見直すためにワーキンググループを組織し、顧客意識と接遇の向上への取組みを実施。療養休職の規程を整備し療養期間の見直しと円滑な復帰等を整備した。(人事課) ・女性医師の勤務環境の整備について、育児支援検討会にて検討を続けている。本学卒業の女性医師を対象としたアンケート調査を実施、勤務環境の整備について大学に提言していく予定である。また、医師の業務軽減については、医療従事者勤務適正化委員会にて検討が進められている。(医師人事) ・管理監督者向けメンタルヘルスセミナーの改善を図り、実効性を強化した。(給与厚生課) ・中央検査部採血受付、眼科外来改修などを行い患者サービス向上とともによりスムーズに対応できるような体制を構築した。(管理課)
②女性教職員・女性医師の復職を支援する。	②病児預かり室のPR、対象者の拡大、受入れ人数の検討を行う。再就職登録の運用、再就職登録者への求人情報の提供実施を行う。	H22.4より退職者の再就職登録の運用を開始し、求人情報の提供を実施した。同時に再就職規程を改定し、子育て後の再就職がしやすいように処遇を見直した。病児預かり室「ひまわりルーム」(H21年5月開設)は平均利用日数9.0日/月、利用者は延べ114名であった。対象を男性医師、受け入れ人数も2人から3人へ拡大した。次年度全職員拡大を視野に入れ運用の再検討を図りたい。育児支援ワーキンググループを通じて利用者からの意見を取りまとめ、必要に応じて管理課に改善要望を行っている。
①晴海トリトンクリニックの機能を点検・評価する。	①晴海トリトンクリニックの機能と附属病院との連携について検討する。	近年の大学の医師不足の影響により、複数のトリトン派遣科で診療日数が縮小されている。平成23年3月31日をもって歯科診療が終了し歯科外来を改修し診察室の有効利用に繋げ医科診療の充実を図る。
●青戸病院に関する目標		
①開かれた組織体制を構築する。	①平成21年度BSCによる業績評価と平成22年度版BSCの更新及び部門BSCの拡大を図る。	平成21年度BSCによる業績評価及び平成22年度版BSCを更新し各部門へのカスケードを行った。全教職員を対象としたBSC報告会を開催し情報共有をと周知を図った。
②各運営委員会を活性化し、病院長の諮問機関としての役割を強化する。	②運営委員会の活性化のため、各運営委員会の成果物の指標化を検討する。	各運営委員会の出席率と答申件数を把握し委員会の活動性と成果を評価した。
①収支を改善し、経営の安定化を図る。	①-1材料費、一般経費の管理を強化する。	医療経費に関しては、患者数、手術件数の大幅な増加により、約157百万円予算超過となったが、一般経費は消耗品費(約6百万円)、印刷費(約4百万円)の予算超過があるものの一般経費予算全体では約74百万円圧縮できた。
②発生主義に基づく予算管理、収益性分析、生産性分析による経営課題を解決できるシステムを構築する。	①-2新病院を含め医師および職員定数の見直しに着手する。 ②-1収益性分析を実施して対応策を講じる。 ②-2生産性分析を実施して対応策を講じる。	各科の活動性や収益性を調査し、新病院における診療ポートフォリオに基づき定数の見直しに着手した。 運営会議・運営企画会議において分析情報の共有化を図り、問題点の解決に取り組んだ。 運営会議・運営企画会議において分析情報の共有化を図り、問題点の解決に取り組んだ。

中 期 計 画	平成22年度事業計画	平成 22 年 度 実 施 結 果
<p>①附属4病院連携、地区医師会、連携医療施設、行政とのネットワーク整備をする。</p> <p>②学内連携を図ることによって、診療、教育体制を強化するとともに、教育研修制度を整備する。</p> <p>③東京都看護職員復職支援研修施設として対象者を受け入れる。</p>	<p>①-1 登録医制度を推進する。</p> <p>①-2 病病連携ネットワークを構築する。</p> <p>②メディカルカンファレンスを一層充実（継続）させる。</p> <p>③看護師再教育制度の内容を充実させ地域へ貢献する。</p>	<p>医療連携フォーラムを通して登録医の拡大を図り、紹介患者増加に繋げることができた。</p> <p>近隣9施設と「南かつしか病院ネットワーク協議会」を設立し、事例検討会・医療機関情報共有化を主導して推進できた。</p> <p>公開カンファレンスの活性化のため医療連携フォーラムと共催し、33医療施設から49名の参加が得られた。</p> <p>看護職員復職支援研修を10月、12月、2月に開催し、10名の研修生を受け入れた。研修募集の新聞折込広告の掲載回数を1回多くしたが、応募人数は一昨年、昨年と比較して減少してた。</p>
<p>①総合内科・救急医療の協働体制を確立し、患者受入体制を強化する。</p> <p>②手術室の物流を改善し効率運用を図ることによって手術数を増加させる。</p> <p>③医療の効率化、透明化、標準化を図る。</p> <p>④患者フローの視点で、入院から退院・転院まで一貫したコーディネートを行う。</p> <p>⑤新病院にICU・CCUを設置する。</p>	<p>①既設の総合内科病棟の運用細則を検討する。</p> <p>②新病院移行を考慮し中材等手術周辺環境を整理し、手術室の効率運用を図る。</p> <p>③DPCに合わせたクリパスの導入拡大を図る。</p> <p>④PFMと周辺環境整備により午前退院、午後入院を一層推進する。</p> <p>⑤HCUを4床設置、重症患者を集約するとともに診療・看護体制を試行する。</p>	<p>日曜祭日の救急医療を強化するため、外科系管理当直医を救急部日直に配置（兼務）し体制整備を行った。</p> <p>手術室周辺業務の委託に関し平成23年度開始に向け業者選定を終了しシミュレーションを開始した。</p> <p>現行使用クリパスの見直しおよび新病院で新規に作成するクリパスの洗い出し作業を行い、新病院システムとの互換性のあるクリバス作成の準備段階まで終わることが出来た。</p> <p>HCU設置にともなう稼働床のダウンサイジング（-10床）を背景に、午前退院・午後入院(40%)を推進し病床の高回転化を図った。</p> <p>HCU設置準備委員会において運用方法を検討し、6月より4床稼働させ新病院に向けてのシミュレーションを行った。</p>
<p>①大学病院、地域中核病院として患者志向の機能的な病院を建築する。（平成23年竣工を目指す。）</p>	<p>①-1 フェイズVとして運用検討を主体とした推進体制とする。病院情報システム構築関連強化、竣工開院に向けた体制を整える。</p> <p>①-2 実施設計に基づく内観、サイン等の計画、実質的検証を重ねる。</p> <p>①-3 システム設計、システム導入作業に着手する。</p> <p>①-4 葛飾区と連携し、周辺道路の拡張整備およびインフラ整備の折衝を行う。</p>	<p>青戸リニューアル・フェイズV検討体制で目標とした建築設計検証、IT設計、診療機器選定は予定通り遂行した。移転、開院に向けての実質的作業を遂行する次ステージとして、フェイズVI検討体制を再構築し、平成23年度4月からのスタートを予定している。</p> <p>総合図を用いた実質的検証は、予定通り平成23年2月に完了した。また、サイン計画についても予定の変更はない。</p> <p>マスタ作成については、平成23年1月～3月に富士通システム機能講習、デモ機体験、運用フロー検証を通して、予備知識を習得した。平成23年4月からは、マスター作成の実作業に移り、平成23年8月までに概ねのマスタ作成を完了する予定である。</p> <p>葛飾区と連携し、周辺道路の拡張整備およびインフラ整備の折衝は順調に進行しており、道路整備の測量及び設計は予定通り平成23年3月に完了した。</p>
<p>●第三病院に関する目標</p> <p>①診療に関する情報を公開する。</p> <p>②地域住民や行政への医療啓蒙行事を更に充実させる。</p>	<p>①-1 診療科研究実績、診療成績を全診療部で開示する。</p> <p>①-2 第三病院BSCの全教職員への周知と情報の見える化を推進する。</p> <p>②公開健康セミナー・ホスピタルフェアを開催し、地域の健康増進に積極的に取り組む。</p>	<p>診療情報を公開をする上で、開示内容を各診療部に依頼し、12診療部の治療内容と治療成績を治療成績情報として、院内1階中央ロビーの掲示板に掲出した。</p> <p>各部門で完成したBSCに関する説明文書を添付のうえ、院内各部署へ配布並びに周知を行った。また、BSC推進委員会では、KPIのチェックと数値目標達成に関する検討並びにポスター掲示による指標の見える化を行った。平成22年秋号、冬号として2回のポスター掲示を行った。また、イントラネット上に病院BSCと部門別BSCを掲載した。</p> <p>公開健康セミナーは年間10回開催し、平均194名の参加者があり好評である。また、11月7日に開催されたホスピタルフェアは昨年を上回り1500名を超える来場者があった。</p>

中 期 計 画	平成22年度事業計画	平成 22 年 度 実 施 結 果
③患者に対する対応を見直し改善を図り、積極的に患者を受入れる。	③救急医療のあり方検討会を通して、診療体制の改善を進める。 ・病床管理システムを導入に向けて、PFMを推進する。	救急診療あり方検討会にて外科系の救急診療体制と当直体制の見直し検討を実施した。平成23年の早期段階より新体制にて運用開始できる見込みである。救急搬送数は前年度比で増加に転じている。
①医療材料コストを見直す。	①患者単位の手術材料コスト管理を実施し、医療消耗品の経費削減を進める。	手術原価管理システムを導入し、コスト把握を開始した。医療消耗品については、4機関共同購入で経費削減を進めている。
①診療部を評価する。	①各診療部の多面評価によるベスト診療科選出を実施する。	平成22年度は各診療部の多面評価により腫瘍・血液内科が選出された。
①森田療法センターを本学の特色ある医療として内外に強く再アピールする。 ②各科の診療内容実績を分かりやすくアピールする。	①ホームページのタイムリーな更新や親しみのあるパンフレットを作成する。 ②各科別の診療案内パンフレットを作成する。	森田療法についての分かりやすい解説を入れ、新たにパンフレットを作成した。ホームページについては更新作業を進めている。森田療法センター主催のセミナーを年1回開催している。 全診療科の作成が終了している。また、異動、新規項目の追加等、随時更新を図っている。パンフの補充も頻繁に行い、患者さんの関心も高い。
①病診連携、病病連携のための強化を図る。	①-1 効率的病床運用のための後方連携強化を行う。 ・病診・病病連携の強化策を講じる。 ①-2 近隣医師会並びに近隣医科大学との情報交換を継続する。	後方連携強化については、病院訪問、救急搬送患者地域連携紹介加算の調整等を通じて連携体制の強化に努めた。また、病診・病病連携の強化については、登録医制度の拡充、医療連携フォーラムの開催、各地域医師会主催の連携の会への参加等を通じて医療連携の拡大に努めた。 世田谷区医師会の学術医学会に医療連携をテーマとする演題を含め10演題の発表を行なった。玉川医師会の「医療連携のつどい」に参画し、医療連携拡大に努めた。今年も私立医科大学多摩5大学附属病院長・事務長会での情報交換を実施した。
①高齢者に対する対応策を検討する。	①高齢者医療の施設および医療経済の実情や将来予測についての勉強会を開催し、療養病床のあり方を検討する。	7月のBig debateでは「第三病院の将来」をテーマに意見交換を実施した。11月の第三医療セミナーでは「大学病院・地域中核病院の今後の経営戦力」をテーマに地域中核病院としての医療経済や前方後方病院の連携の課題等について講演会を行なった。
①施設改修による療養・職場環境改善を持続的に実践する。 ②入院患者向け行事を開催する。	①病床の効率運用の推進と療養病床のあり方について継続検討する。また、2C病棟の改修工事を行う。 ②各種「癒しの行事」を継続開催する。	午前退院午後入院推進に向けた取り組みを実施。午前退院は80%以上と定着したが、午後予定入院率は目標の20%に対して10%程度である。次年度も継続して取り組み実施をする予定。2C病棟は改修工事が完了し、3月上旬にオープンした。 各種「癒しの行事」は毎月1回以上継続的に実施し、年間14回開催した。入院患者さんからは毎回好評を得ている。
●柏病院に関する目標 ①包括化による減収を回避する。 ②DPC導入に合わせ医療の効率化、標準化による安全を確保する。	①全クリニカルパスをオーダ化しパス内容を改善する。イントラネットを活用し、クリニカルパス内容を迅速に共有、改善できるシステムを構築する。 ②DPCデータを用いて第三病院、青戸病院とのベンチマーク分析を実施する。	全クリニカルパスのオーダ化を目指し、現行使用している紙媒体パスの見直しを行った。またパスオーダについての説明会を実施することで院内周知を図るとともに院内帳票の電子化レポート機能と連動させ、順次オーダ登録を開始した。更に、イントラネットを活用し病院全体の情報共有化等環境を整備した。 DPCデータ（青戸病院、第三病院、柏病院別、DPCコード別、手術コード別に症例数値、増収額、減収額順）を用い分析中である。
①がん診療連携拠点病院として必要な施設を整備する。 ②がん診療連携拠点病院として必要な地域連携を整備する。	①化学療法を実施する患者を極力外来化学療法室へ移行する。 ②千葉県がん診療連携協議会地域連携クリティカルパス専門部会に参画し、更に「5大がん・脳卒中・急性心筋梗塞」の地域連携パス導入に取組む。	各科外来処置室で実施していた外来患者を外来化学療法室に集約し、従来の入院例（重症例を除く）についても同室での外来通院治療に移行し、患者のQOLを高めることができた。なお土曜日枠の増設について、各科にアンケート調査を実施し、運営小委員会において継続的に検討を行っている。 東葛北部医療圏の医療機関・地区医師会を対象としたがん診療に関する地域医療連携バス連絡会議を開催し、5大がん・子宮頸がんの全県共用の地域医療連携バスを構築し、運用を開始した。 ・子宮頸がんバスについては11月以降に2症例、胃がん地域連携バスは12月より2症例実施した。

中期計画	平成22年度事業計画	平成22年度実施結果
<p>①手術件数の増加を図る。</p> <p>②救急受入れ患者の増加を図る。</p>	<p>①-1手術室・中材・ICU運営委員会等にて手術件数等の目標を設定し改善を図る。</p> <p>①-2ピッキング業務の委託化を検討し手術室運用の効率化を推進する。</p> <p>・手術件数増加に対応する病床運用、PFMを導入する。</p> <p>②ワーキング・グループで救急受入れ体制を検討し、救急患者の増加を図る。</p>	<p>柏病院重点改善項目に掲げている年間6,500件以上の手術件数を達成するために、2室増床した手術室の効率的運用を実施した。具体的には、手術枠の変更を行った。また、週間予定の確認を綿密に行い、空いている手術室については、枠にとらわれない柔軟な手術対応を行った。結果として、平成22年度の手術件数は6,503件と目標値を超えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月より整形外科借用機械の洗浄と看護師週末業務を委託し、看護師の間接業務を軽減することで、手術室運用の効率化を推進した。 ・平成23年度のピッキング業務の委託開始に向けての予算を確保した。 ・PFMの一環として、4月より看護師長1名をベッドコントロール専従にしたことにより各病棟との連携が円滑となり、効率的な病床運用が実行できた。平成22年度の病床稼働率(稼働床)は91.3%(前年度:87.6%)と、良好な状況を維持できた。 ・麻酔科管理症例の前日入院を可能にしたことにより、平均在院日数は13.8日(前年度:14.2日)と短縮できた。 <p>近隣医療機関からの紹介や救急隊からの搬送を可能な限り受け入れるとともに、受入可否の迅速な回答が可能な体制構築を進めた。また、専門医による迅速かつ適確な対応が可能となるよう、10月1日より循環器疾患救急ホットラインを設置し、連携病院ならびに近隣同窓に周知した。このように救急受入体制は充実したが、今年度はベッド稼働率が高く、救急患者の受入可能なベッドを確保するのが困難な状況が続いた。また、耐性菌への対応として、長期にわたり救急受入を制限せざるを得ない時期が出てしまった。</p>
<p>①地域(柏市)が求める外来、入院機能の拡充、高度化を検討する。</p>	<p>①-1患者増を図る。無菌治療センター化による効率的な治療と増収を図る。病室改修再編で増収を図る。</p> <p>①-2PACS化の拡大、拡充を継続検討する。</p> <p>①-3外来部門、個室のリニューアル改修を行い患者アメニティの向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・逆紹介の推進、近隣および関連医療機関との連携強化による患者確保、病室の効率的運用による紹介患者の入院受入の円滑化を進めている。 ・東葛北部地域は血液疾患を扱う病院が少なく、適切な時期に移植ができない問題があり、7C病棟の無菌床を11床に増床(6月14日)した。無菌床で治療することで、より安全な医療が提供できると共に、無菌治療室管理加算算定による増収、および7C病棟に無菌床を集約することでマンパワーの効率化が図れた。 <p>内視鏡画像のPACS化に向け平成23年度予算を確保し検討中である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来部門については診察ブースに関する現場の要望に対し、部分改修を行っている。その他、10~11月にかけて正面玄関車寄せの改修、自動販売機および携帯電話通話可能エリアの増設、院内緑化の見直しなど、アメニティ改善に注力した。また、遅い時間まで外来診療が行われるケースが増加しているため、1月11日より、外来会計窓口を午後6時30分まで延長し、またエスカレーター(1階→2階)の運転も延長するなどの患者サービス向上を図った。 ・7B病棟において、12月19日より医療安全の向上と患者のニーズに合わせた病室タイプ(特室を4人床、2人室を個室)に改修する工事を進め、2月より運用を開始した。
<p>①導入によるメリット、デメリットを検討する。</p>	<p>①システムを評価しITあり方検討委員会等で検討を進める。</p>	<p>平成21年10月にオーダシステムのハードウェア更新、併せてPACSを導入し、1年が経過した。オーダシステム更新では懸案であったレスポンスが改善、PACSではフィルム経費削減、保管スペースの削減が図れた。</p>

中 期 計 画	平成22年度事業計画	平成 22 年 度 実 施 結 果
<p>II. 業務運営の改善及び効率化に関する目標</p> <p>1. 運営体制の改善に関する目標</p> <p>①理事会機能を検証する。</p> <p>②慈恵大学行動憲章・行動規範を徹底する。</p> <p>③補助金、業務等の内部監査の実施により、内部統制の強化を推進する。</p> <p>④個人情報保護の継続的注意を喚起する。</p> <p>⑤本学の情報(社会貢献、研究成果、医療貢献)を学内外に発信する。</p> <p>⑥有事の際の広報体制確立と情報統制を確立する。</p> <p>⑦事業計画の実施状況を確認する。</p> <p>⑧BSCを普及拡大し、目標と進捗を把握、評価する。</p>	<p>①法人運営を効率的に進める組織体制を検証する。</p> <p>②行動憲章、行動規範を在職者に周知するプログラムを作成する。</p> <p>③補助金監査、業務監査の実施および監事との連携を強化する。</p> <p>④外部講師による講演会を実施し、注意喚起を行う。</p> <p>⑤-1 大学、附属病院に関する情報収集と広報手続き運用方法の仕組みを確立し、ホームページによる情報発信を推進する。</p> <p>⑤-2 大学広報誌(「The JIKEI」等)の企画段階より同窓会と連携して効果的な情報発信を推進する。</p> <p>⑥マスコミ対応マニュアルのブラッシュアップを行う。</p> <p>⑦BSCによる事業計画の実施プランを拡大する。BSC作成部門では事業計画と整合性をチェックする。</p> <p>⑧BSC新規作成部門を選定しワーキンググループを実施する。</p>	<p>大学基準協会の指摘に基づき、各部署からの改善報告をまとめた。組織体制の具体的な検証を進める。(総務部) 平成23年度学校法人慈恵大学事業計画(案)について、点検・評価を行った。(大学自己点検評価委員会)</p> <p>ホームページ内に「行動憲章・行動規範」の専用ページがあり、学内外に向けて発信した。また、広報誌「慈恵ニュース」でも行動憲章を毎号掲載し、教職員へ周知した。(広報課、人事課) 平成22年度は若手医師を対象としたマナーハンドブックを新たに作成し、平成23年4月採用者に配布した。このハンドブックには行動憲章・行動規範も盛り込んでおり、新規採用者に周知を行っている。(医師人事)</p> <p>今年度計画した以下の内部監査は予定通り実施し、理事長ならびに監事に報告した。</p> <p>1. 公的補助金監査</p> <p>1) 平成19年度および平成20年度分私立大学等経常費補助金(一般補助)</p> <p>2) 平成21年度分私立大学等経常費補助金(一般補助、特別補助)</p> <p>3) 平成21年度分厚生労働科学研究費等補助金</p> <p>4) 平成21年度分文部科学省科学研究費補助金</p> <p>5) 平成21年度分独立行政法人科学技術振興機構の略的創造研究推進事業(CREST、さきがけ)委託研究費</p> <p>2. 業務監査</p> <p>1) 慈恵実業(慈恵実業監査室による平成21年度内部監査実施状況および結果の確認)</p> <p>2) 事務業務分掌規程の改定および業務手順書の整備状況確認</p> <p>3) 事務部門における仮払金管理業務(一部次年度継続)</p> <p>内部講師の招聘とDVDの視聴により、個人情報保護合同委員会主催による研修会を2月2日に実施した。</p> <p>新聞・雑誌等の掲載記事、理事会・教授会議・運営会議等の抄録、オールユーザー配信依頼内容などを基に情報収集すると同時に、ホームページの作成・更新の書式を新規作成して申込手順を明確化する仕組みを作り、遅延防止や掲載漏れ防止に役立てた。</p> <p>年度初めに大学新体制の誌面を作成・発行し、慈大新聞に同封して配信するなど、同窓会と協力体制を築いた。また、130年記念行事においても情報共有を図りながら連携体制をとることができた。更に広報誌The JIKEIの発刊に際しても同窓会と連携し効果的な情報発信に努めた。</p> <p>NZ地震、東日本大震災後の取材時は、病院及び医療界の対応状況に即し、必要な情報をタイムリーにメディアに伝えたり、臨機応変に対応した。結果、組織としての倫理観やガバナンスを示すとともに、メディアの納得感も得た。分院および各部門とのコンセンサスの実現という一段階上のステップを達成できた。</p> <p>“見える化”タスク・フォースで、BSC作成時には事業計画との整合性を確認しながら作成している。平成23年度からは各部門の業務目標にBSCを応用して進めることとしている。</p> <p>眼科、腫瘍・血液内科、医療安全管理部、リハビリテーション科、栄養部、臨床工学部でBSCを作成した。平成23年度は新規作成部門の選定を行い、平成23年5月よりキックオフの予定である。</p>

中 期 計 画	平成22年度事業計画	平 成 22 年 度 実 施 結 果
2. 人材活用に関する目標 ①職員の人材育成制度を強化する。 ②人事評価システムを充実させる。	①新任管理職員研修プログラム2年目の検証を行う。 ②（学長諮問会議等における昇格審査等）本システムの情報の活用を図る。	新任管理職員研修プログラム2年目対象者は6月にプレゼンの発表会を実施し、研修考課の検証を行う。 平成23年度より、教員評価システムへの登録内容が昇格審議の際に参考資料として利用されることになった。
③業務の見直し、配置人員の見直し、業務効率化と人件費抑制を図る。 ④教職員の定着率を高める。 ⑤青戸看護専門学校閉校後に対する看護師確保体制を確立する。	③-1 IT、業務改善、アウトソーシングによる人員計画を策定する。 （青戸病院開設時の保守要員数と経費、既導入病院（本院、柏）の保守対応時間）（期限付契約職員の雇用管理上の問題点の把握と修正） ③-2 人件費抑制対策を検討し、抑制策を策定する。時間外手当抑制の具体策を策定し実行する。（時間外労働の総量制限の管理方法の策定） ③-3 各部門の業務標準作業書作成状況を把握し、作成を推進する。 ④集計結果の利用方法についても勘案し、教職員自己評価アンケートを実施する。 ⑤計画の人事異動の拡大により看護師を確保する。	・H22.9に入職5年未満の事務職員に向けて意識調査を実施した。期限付契約職員の環境や処遇の改善を具体化した。グループ会社への用度整備関係委託業務の検証のために委託管理部署に調査を実施し、見直しに向けた準備中である。（人事課） ・医療従事者勤務適正化委員会にてIT利用や業務改善による医師の業務軽減に向けて検討を進めている。（医師人事） ・青戸病院での保守に関する要件を整理、本稼働前の支援体制を含めた最終提案を受けて、最終審議をしている。（システム課） 委託・派遣契約の内容を見直し、経費縮減に向けた次年度の価格交渉を行った。常用職員の後任に期限付契約職員を採用し変動費化を進めた。所属長会議で時間外労働削減に向けて進捗確認を行っている。時間外が多い部署に個別に改善策を立てるよう支援を行っている。（人事課） 平成22年度は前年度に引き続き、労働時間管理の適正化を大学全体の目標に掲げ、前年度時間外労働を上回らない取り込み、時間外労働過多者の解消、有給休暇取得の偏り解消に向けて各部署にて取り組んだ。平成22年度は対前年度一人平均時間外労働は0.4時間減少し、時間外手当総額も約3,200万円が減額となった。（給与厚生課） 所属長会議で進捗状況の確認を行い、業務標準作業書の作成・推進を行った。 H22.7に法人大学教職員に向けて意識調査を実施、問題点を抽出し、次年度の改善事項に組み込む予定である。 看護部と協力し、8等級以上2名、7等級以下31名の人事異動を積極的に実施し、4機関看護師の要員管理のバランスを図った。
3. 事務の効率化・合理化に関する目標 ①適正なITランドデザインを構築し、IT戦略を策定する。 ②附属4病院にオーダリングシステムを導入し、効率化と患者満足度の向上を図る。 ③ネットワークの更新と再構築を行う。 ④経営管理データを一元管理し、経営判断を迅速に行える環境を構築する。	①中長期計画のIT投資適正化の検証組織を策定する。 ②レジメンオーダと処置オーダの稼働に向けて運用調整を進める。 ③ネットワーク更新計画を策定し、第三病院のネットワーク更新を実施する。 ④システム上抽出可能なデータを含め一元管理について検討を行う。	昨年度策定した答申内容の見直しを進めているが、学校法人会計の改定に合せた計画を再度策定すべく準備を進めている。 外来処置オーダは、眼科以外の診療科において稼働を開始した。（救急部・歯科を当初より除外している）（業務課）附属病院では下半期にレジメンオーダ、処置オーダが順次稼働しており、稼働調整しながら対象科拡大を図っている。（システム課） 青戸病院を除くネットワーク更新が予定通り完了した。 4病院の各種稼働額に加え入院患者数、外来患者数をイントラネット上で確認できるようにした。

中 期 計 画	平成22年度事業計画	平 成 22 年 度 実 施 結 果
<p>Ⅲ. 財務の改善に関する目標</p> <p>1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標</p> <p>①予算実績管理体制を強化して効率的な運用推進の仕組みを策定する。</p>	<p>①-1 中期計画の財務的な裏づけを検討できる組織へと発展させる。</p> <p>①-2 収支状況の月次把握を実現する。</p> <p>①-3 未収金回収委託業務を推進し、効果を検証する。</p>	<p>夏季常任理事会の資料として平成35年度までの中期計画を作成したが、中期計画を裏付ける財務資料を作成するまでには至っていない。今後は関係各部署と更に調整をし検討組織を作りたい。</p> <p>平成22年12月分より更に教育研究経費を見直し、ほぼ月次決算に足る計算書とした。</p> <p>4機関における弁護士による未収金回収委託業務(38件、26,147,609円)を1月に行った。なお、4機関における未収金回収督促の手順を統一した。</p>
<p>②経営改善重要項目ごとに検討組織を設置し改善を推進する。</p>	<p>②-1 第三病院、柏病院の収支構造を改善するためにあり方を検討し、マスタープランを作成する。</p> <p>②-2 手術室効率運用による手術件数の増加、病床の効率運用により増収を図る。外来患者の増加を図る。</p> <p>②-3 研究費補助金の獲得に向けて公募の周知と申請の徹底を図る。</p>	<p>柏病院では患者数等の数値目標に加え、年度単位で設定した重点改善項目に対し、担当の部署、委員会を明確化し取り組んだ。また、平成22年7月にBSC推進ワーキンググループを発足し、計4回(7月23日、8月30日、10月1日、3月5日)ワーキンググループを開催した。病院全体BSCを平成22年度版にブラッシュアップすると共に、看護部・薬剤部・中央検査部・栄養部の部署別BSCを作成し、10月5日の「柏病院重点改善項目・BSC中間報告会」にてその内容を発表し、イントラネットに掲載した。また、今年度の総括に向けて、柏病院BSC推進ワーキンググループ会議を3月5日(土)に開催し、病院全体ならびに前述の部署別BSCの実施状況を各部署から報告するとともに、診療部門として外科、循環器内科、泌尿器科のBSC作成のスタートアップを行った。第三病院ではDPC対策については業務課より、院内各部署への「DPCお助け通信」等による情報提供や医局個別訪問等を随時実施し、具体的な経営改善項目を提示している。また、手術原価管理システム(OC-system)の導入により、術式別原価管理分析も施行している。他にはBSC推進委員会により、各部署の重点改善項目の進捗状況の確認を定期的の実施し、主管委員会及び病院全体への周知、意識啓蒙等を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月1日より手術の1日前入院の推進、手術室における看護師業務の見直し等により手術室の効率運用を進めている。 ・円滑の病床運営のための後方病院の確保に向けて、病院全体で医療連携強化に注力している。また、容態安定時には退院・転院いただくことを入院時に医師から説明する、退院予定表の提出を徹底する、午前退院・午後入院を積極的に運用することにより、高いベッド稼働率(22年度:91.3%←21年度:87.6%)が維持できた。 ・逆紹介を積極運用等により、近隣および協力医療機関との連携強化を図ることで、外来患者数の確保を進めている。 ・学内研究プロジェクトが平成22年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択され、活発に研究が実施されている。 ・大型プロジェクト対策委員会は、平成23年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の応募申請に向け学内公募し、1課題を申請した。また「武田科学振興財団2011年度特定研究助成」の学内公募し、審査を実施し申請した。 ・平成23年度科学研究費補助金応募申請のため講習会、説明会を開催した。

中 期 計 画	平成22年度事業計画	平成 22 年 度 実 施 結 果
③科学的な分析に基づき医療収支の改善を推進する。	③疾病別の医療収入の把握とタイムリーな原価計算作業を行い、改善を推進する。	分析ソフト・ヒラソルの活用とコンサルタント会社との連携を継続し、診療部毎、疾患別DPCと出来高比較分析を実施した。診療科別DPC請求と出来高請求結果は毎月発行の院内報「DPCお助け通信」と健保DPC委員会にて報告を実施し、各診療部医局ミーティングへの参加等、個別に収支改善に向けた対応等も随時実施した。診療科別のDPC請求と出来高請求における比較分析結果を実施し、健保・DPCコーディング適正化委員会において毎月報告を実施した。平成22年度の出来高とDPCの比較では120.7%となり、対前年比で+13.6%（柏）と収益は向上している。月次部門別原価計算並びに外来疾患別原価分析を実施するようソフトの導入を検討し、具体的な検証作業を進めている。平成23年度から開始するよう仕様についても検証を進めている。
2. 経費の抑制に関する目標 ①物流の見直し、購入組織の見直し、個別、疾病別の医療材料費を把握することにより改善を推進する。 ②医療経費の抑制を図る。	①データを活用して改善を検討し、共同購入の推進により経費を削減する。 ②4病院医療材料・物流検討WGで継続的に医療経費（医材）をモニターし、評価する組織として継続させる。	中間報告の通り、共同購入の実績、物流の見直しについては継続的に実施する必要がある「4病院医療材料・物流検討WG」を中心に推進している。 棚卸しを定期的に行い、4病院全体の医療材料のモニタリング、使用量のモニタリングを実施し、標準化と低価格品への切替え等を随時実施している。
③エコ活動を推進し、電気・ガス・水道・重油・電話・コピー・酸素等の経費削減を図るための具体策を実行する。 ④ITグランドデザインに基づくIT投資計画、包括的なIT関連経費の適正化を推進する。	③全学対象の省エネルギー推進委員会を設置する。 ④ITの全体計画、適正金額の評価、執行を判定する組織の設置。IT経費の適正化の評価を実施する。	「省エネルギー推進委員会」設置準備をすすめた。東日本大震災による福島第一原発事故で、夏に向けて東京電力管内の電力が大幅に不足することが予測されることから設置された、「節電・停電に関する対策会議」の下部組織の「電力対策プロジェクトチーム」と省エネルギー推進委員会としてリンクしていく予定である。 情報システム将来検討会を発足し、ITの全体計画や経費の管理部署のあり方を検討し、基本方針を答申し、理事会の承認を得た。平成23年度に具体的な組織設置を設置し運用を図る。
3. 資産の運用管理の改善に関する目標 ①施設・設備の効率的な維持管理と計画的整備を図る。 ②機器・備品の効率的な管理、投資計画を策定する。	①施設・設備計画を策定する組織を設置し、効率的な維持管理を実施する。 ②慈恵実業と協働で機器登録管理システム導入を検討する。	建物・設備の対応年数及び経年劣化等による建物の改修計画、設備更新計画を検討中であったが、震災を考慮して再検討することとする。また、大学の収支状況を踏まえ大型設備投資計画を検討する組織を検討する。 システムベンダーと仕様が確定し、平成23年度の導入が決定。
IV. 自己点検・評価の充実に関する目標 ①自己点検・評価を公表し、運営（中期目標・計画、支援、設備整備等）に関わる検討組織の審議に反映できるシステムを構築、運営する。	①-1 ホームページで評価結果報告書の公開等、社会に公表する。 ①-2 大学基準協会の提言事項を委員会にて審議し改善対応を継続する。 平成21年度大学基準協会自己点検評価により、指摘された内容の改善を推進する。	評価結果については、ホームページへの掲載を行い、社会に公表した。また、自己点検・評価報告書を作成し、全国の医学部を有する国公立大学79校に配布した。（総務課・大学事務部） 大学基準協会からの提言事項について検討し、該当部署に改善を依頼し、取り組み状況を確認した。（総務課・大学事務部） 大学自己点検評価委員会と連携し、改善に向けての検討を開始した。

中 期 計 画	平成22年度事業計画	平 成 22 年 度 実 施 結 果
V. その他事業運営に関する重要目標 1. 青戸病院リニューアルに関する目標 ①青戸病院TFを設置し、リニューアル計画を推進する。 ②青戸病院リニューアル委員会を設置し、リニューアルTFと連携し、基本事項決定および行政折衝等を推進する。	①②工事期間中の諸問題、外溝工事、IT関連事項、移転・開院に向けた事項を検討する。	青戸病院リニューアル委員会は、青戸病院リニューアル・タスク・フォースからの審議事項を検討し、計画通り順調に進んでいる。
2. 附属病院外来棟建築に関する目標 ①西新橋キャンパス全体を視野に入れ建築計画を策定する。 ②附属病院の機能分化と西新橋キャンパスの有効利用を考慮した外来棟の基本コンセプトを策定する。	①マスタープラン検討会を通じ本院外来棟の建築スケジュール・プロジェクトプランを検討する。 ②本院機能、分院機能、西新橋キャンパスでの教育研究機能も考慮し本院外来棟の基本コンセプトを策定する。	新外来棟建築計画については、その外来機能コンセプト作成を中心に平成21年～22年にかけて検討した。引き続き、新外来棟建築の規模、建築場所、敷地内建物の整理、移転等について検討を重ね西新橋キャンパス全体の将来構想と新外来棟建築計画においてソフト及びハード面の計画を進める。医療建築コンサルタントの導入も併せて検討している。 外来棟建築準備小委員会において平成21年度に新外来棟コンセプトをまとめた。
3. 大学マスタープランの策定に関する目標 ①教育・研究・診療機能を総合的に考慮したマスタープランを策定する。	①建築専門家などを加えてマスタープラン検討委員会活動を再開する。	西新橋キャンパスについては、新外来棟建築を第1目標に建築専門家の参加により検討中である。常任理事会に報告し、今後の進め方について検討した。
4. 創立130年記念事業に関する目標 ①“共に歩む慈恵”にふさわしい記念事業を実施する。 ②記念事業に必要な寄付金を募集する。	①生涯学習の協力体制を構築する。 ②130年記念式典を挙げる。	生涯学習センター主催の月例および夏季セミナーを開催し、200名近くの参加を得た。 10月2日に記念式典、講演会、祝賀会を挙げる。創立130年記念事業委員会を中心に企画、検討を行い、創立記念にふさわしく、円滑に進行した。
5. 大規模災害時の対応に関する目標 ①大規模災害発生時の4機関連携体制対策指針を整備する。	①大規模災害発生時の4病院の連携を図るため、継続して、災害対策訓練を計画、実施する。	平成22年11月12日に、柏地区を震源とし柏病院における被災を想定した4病院の合同災害対策訓練及び講演会を実施し、防災マニュアルに基づく災害時対策の再確認と防災意識の啓蒙に効果を得た。平成23年度についても4病院合同訓練を予定している。

〔付〕 2. 学校法人 慈恵大学 中期目標・中期計画・平成23年度事業計画

〔本学の理念・目的・使命〕

- 理念：医学・看護学の教育・研究とその実践を通して人類の健康と福祉に貢献する。
- 目的：質の高い医師と看護専門職者の育成と臨床を支える医学・看護学研究を推進する。
- 使命：社会のニーズに応えることのできる医師・看護師・保健師の育成と医学・看護学研究を振興して人類の健康と福祉に寄与する。

〔本学が目指す将来像（ビジョン）〕

- 社会の共感を得て、国際的にも高い評価を受けることができる質の高い医科大学を目指す。

質の高い医学・看護学教育

- (1) 医学・看護学を深く理解し、豊かな人間性を具えた全人的な医療を実践できる医師・看護師・保健師を育成するための特色ある卒前・卒後教育システムを構築する。
- (2) 4 附属病院の特徴を活かした多様な医師・看護師・保健師育成プログラムを策定する。
- (3) 看護学科と看護専門学校は、協力して看護生涯学修の出発となる基礎能力の育成に組織的に取り組む。
- (4) 大学院教育の充実と改善を推進する。

本学の特色ある研究と臨床に還元できる研究の推進

- (1) 本学に継承されている特色ある研究を発展させる。
- (2) 臨床研究と疫学研究を推進するシステムを構築する。
- (3) 臨床を支える医学・看護学研究を推進する。
- (4) 先進医療を開拓するための医学研究を推進する。

質の高い医療の提供

- (1) 社会のニーズに応えることができる質の高い医療を実践できる附属病院を目指す。
- (2) 安心で安全な医療を提供できる医療システムを構築する。
- (3) 高度で先進的な医療を開発し実践する。
- (4) 医師、看護師・保健師としての技術を向上させるための取り組みを行う。
- (5) 附属病院の特色を活かして各附属病院の活性化と機能分化を図る。

130年記念事業

- (1) 130年記念事業を行う。

I 中期目標・中期計画期間

平成19年4月1日から平成25年3月31日までとする。

〔基本方針〕平成23年度の基本方針と重点施策

教育に関する重点施策

質の高い医療人の育成

- ・ 卒前教育の改善と充実を図る。
- ・ 卒後教育を改善して研修医とレジデントの応募者増を図る。
- ・ 看護学科・看護専門学校は、協力して卒業時の技術到達目標に関する評価を周知する。
- ・ 看護学専攻修士課程を看護学科、看護部と連携し発展させる。

研究に関する重点施策

医学・看護学研究の推進

- ・ 各講座を中心に行われている特色ある伝統的研究と共に先進的研究を推進する。
- ・ 研究推進のための競争的研究資金の獲得を目指す。
- ・ 医療現場と連携して看護学研究を振興する。

医療に関する重点施策

医療安全の推進

- ・ 医療安全体制を検証し、国民に信頼される医療安全システムを構築する。

地域医療への貢献

- ・ 柏病院の救急を強化し、増床計画を含め地域医療への貢献に努める。

職種間の協力体制

- ・ チーム医療の推進のための人材育成を推進する。

大学運営に関する重点施策

法令遵守の徹底

- ・ 教職員の法令遵守精神を向上させる。

安定した財政基盤の構築

- ・ 大学における収支構造の点検を行う。
- ・ 第三病院の収支構造の改善を図る。
- ・ 機関別の事業計画に基づく中期財務計画を策定する。
- ・ 収支状況の月次把握ができるようにする。
- ・ 医療収入の増加と医療経費の削減を図り、堅調な財政基盤の構築を図る。
- ・ 抗がん剤を含めた後発薬品の採用を推進し医療経費の削減を図る。
- ・ IT関連経費の適正化と全体計画検討組織を整備する。

広報活動の充実

- ・ 広報誌、ホームページを充実させ、本学の教育・研究内容および附属病院の診療内容などを社会にアピールすると共に病診連携、病病連携、同窓会員への情報発信に活用する。

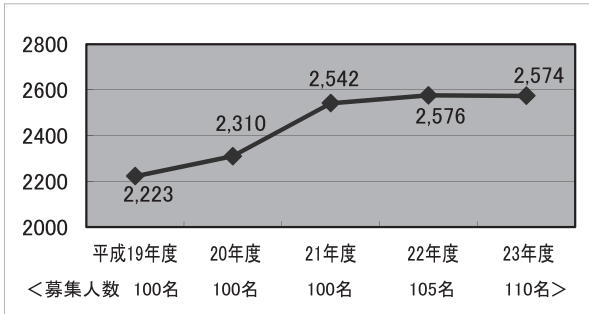
新青戸病院開院の準備を遅滞無く進め、平成24年1月5日に開院する。

附属病院（本院）外来棟建築に関する具体的な検討を推進する。

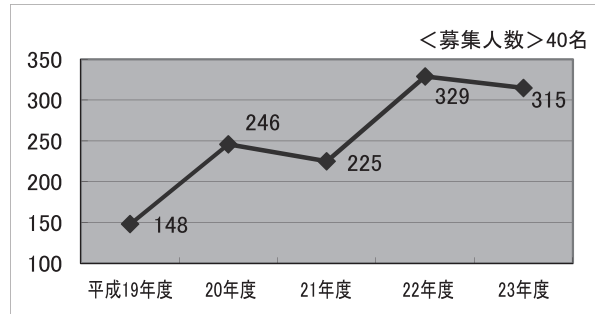
地球温暖化防止関連法規を遵守し、エコ活動を推進する。

大規模災害時の対応について再整備する。

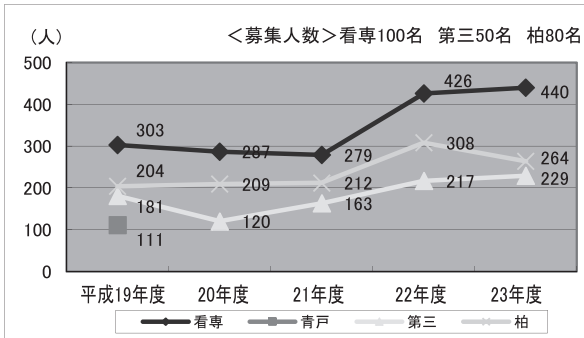
①大学志願者数



②看護学科 志願者数

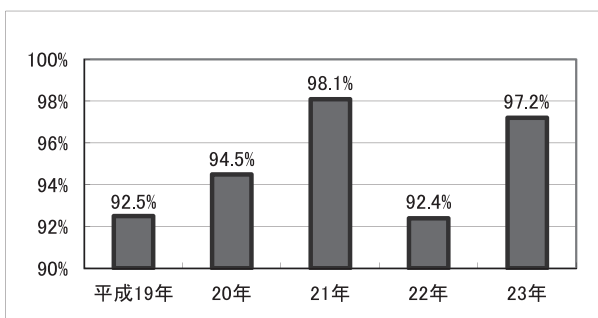


③4看護専門学校 志願者数

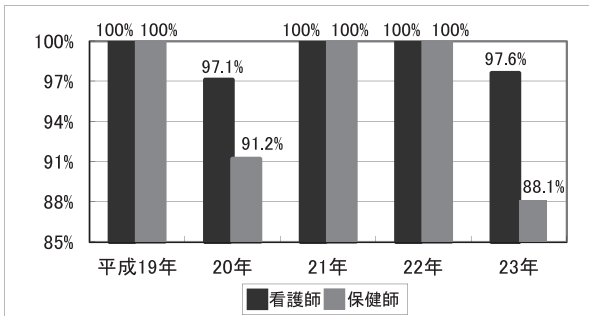


※青戸看護専門学校はH20年度より募集中止

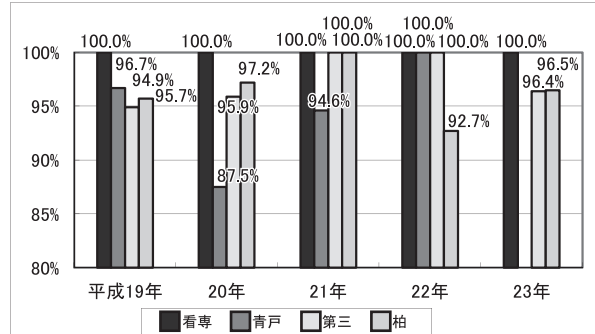
④医師国家試験 合格率(医学科)



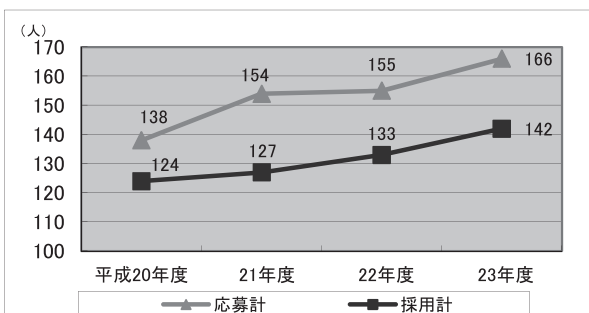
⑤看護師・保健師国家試験 合格率(看護学科)



⑥看護師国家試験 合格率(4看護専門学校)

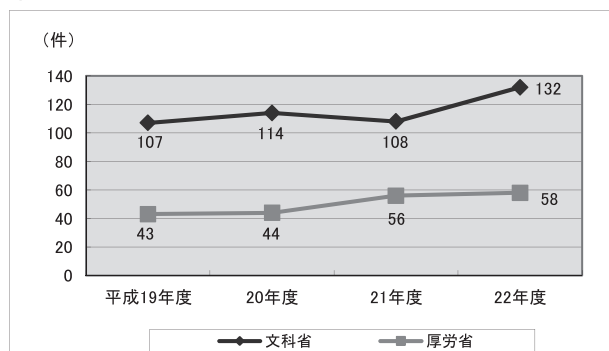


⑦レジデント応募者数、採用数

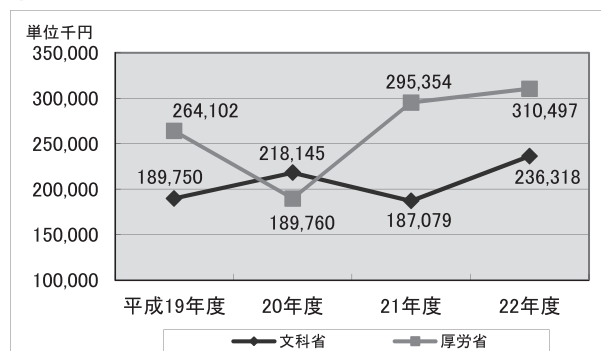


研究に関する重点施策：参考指標

① 科学研究費補助金 採択件数

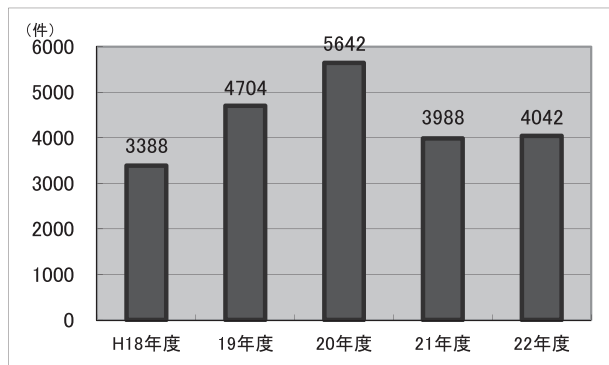


② 科学研究費補助金 採択金額



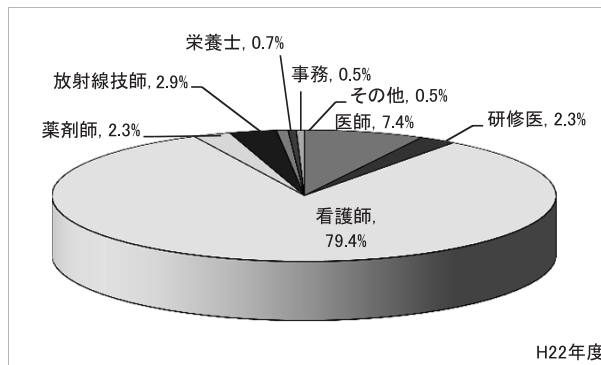
医療に関する重点施策：参考指標

① インシデント・アクシデント報告件数(本院)

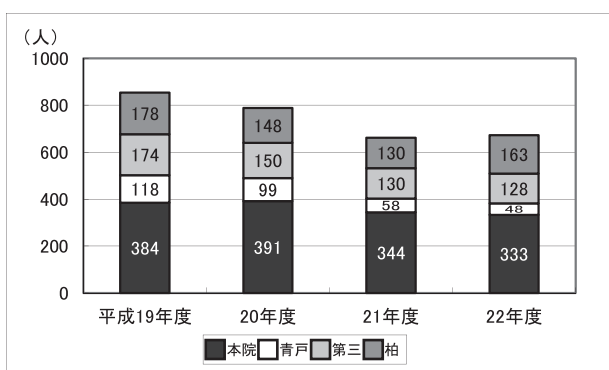


※H21年度の報告件数の減少はオーダリングシステムのクリック忘れを改善したことによるものである。

② インシデント・アクシデント報告 職種別報告件数(本院)



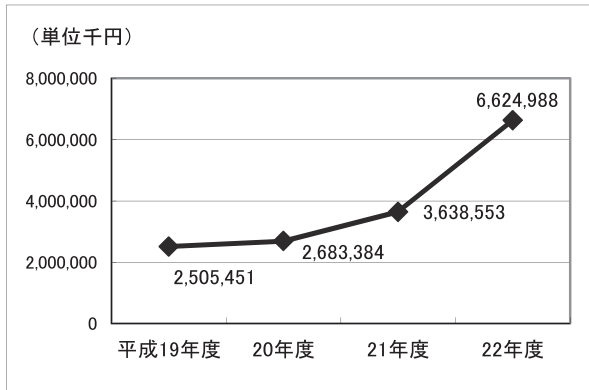
③ チーム医療構築WG参加者数



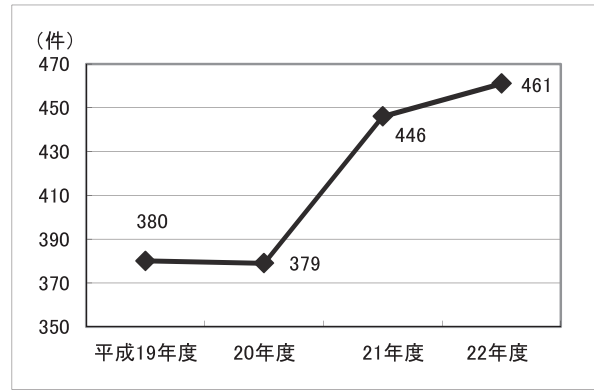
※4機関の開催合計数は平成19・20年度が10回、平成21・22年度が8回である。(本院、青戸の開催回数が各1回減)

大学運営に関する重点施策：参考指標

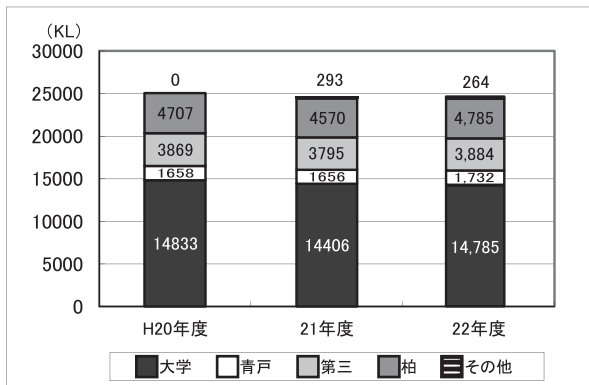
①経常収支



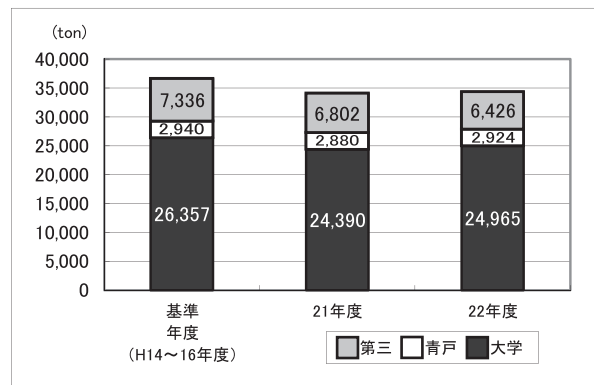
②メディア掲出件数



③原油換算使用量(省エネ法対応)

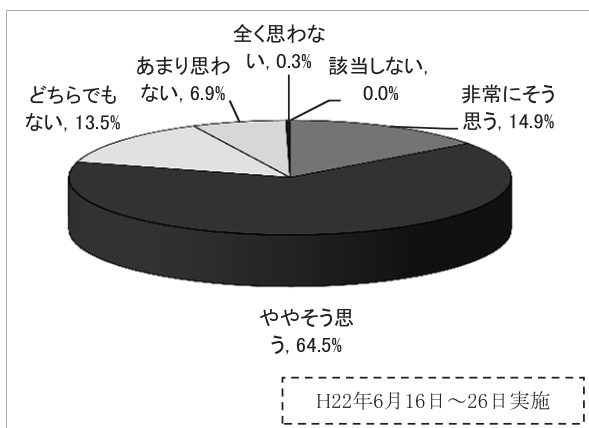


④CO2削減状況(東京都環境確保条例対応)



⑤病院教職員アンケート調査結果より

職場に関する設問 3
あなたは病院(大学)の理念・使命・目標などを理解していますか？



I. 中期目標・中期計画期間

平成19年4月1日から平成25年3月31日までとする。

II. 「中期目標・中期計画・平成23年事業計画」の項目

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成23年度事業計画
<p>I. 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標</p> <p>1. 教育に関する目標</p> <p>(1) 教育の成果に関する目標</p> <p>○卒前教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広く深い教養を身につけた医師・看護師を育成する。 エビデンスに基づいた医療判断が出来る医師・看護師を育成する。 医学生の臨床能力の向上を図る。 研究的態度を身に付けた医師・看護師を育成する。 国際感覚を持った医師・看護師育成のために外国語教育を充実させる。 医師・看護師・保健師国家試験合格率の向上を図る。 学習効果を適切に評価する。 入学後の学習支援を行い大学教育が滞りなく行えるように配慮する。 卒前教育における大学間連携を推進する。 自ら学ぶ態度を涵養する。 	<p>I. 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1. 教育に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 教育の成果に関する措置</p> <p>①教養教育のあり方を検討する。</p> <p>②研究的態度を涵養するためのカリキュラムを改善充実させる。</p> <p>③医学科と看護学科でエビデンスに基づいた判断能力を涵養するためのカリキュラムを改善充実させる。</p> <p>④外国語教育の改善を図る。</p> <p>⑤学生の個性を尊重した教育を実施する。</p> <p>⑥国家試験を視野に入れた評価方法の改善を図る。</p> <p>⑦大学間連携を推進する。</p>	<p>学事課 (教学委員会)</p> <p>学事課 教育センター (教学委員会)</p>	<p>①-1 学生の要望を踏まえ新カリキュラムの全般的な検証を実施する。</p> <p>①-2 高学年への教養科目導入を検討する。</p> <p>②研究室配属、選択実習（基礎選択）のあり方を検討する。基礎医学者の育成を図る。</p> <p>③-1 「クリニカルクラークシップ指導医養成」を継続的に開催する。モデルコアカリキュラムを視野に入れて、カリキュラムの見直しを行う。</p> <p>③-2 継続的に臨床疫学に関するカリキュラムの充実を図る。</p> <p>④看護学科のクラス編成方式について教員および学生からの評価に基づき検討する。</p> <p>⑤選択臨床実習の期間を延長し、自由度を拡大する。</p> <p>⑥医師国家試験の傾向に沿った医学卒業総括試験を行う。</p> <p>⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京医大、昭和大学、東邦大学との連携を継続する。 首都大学東京からの特別科目等履修生受入を継続し、効果を検証する。 職員のスキルアップに効果的なSD研修を行う。
<p>○大学院教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床を支える研究を推進する。 社会に開かれた大学院となるように改善し、生涯学習の場を提供する。 高い倫理観と判断力に優れた研究者を育成する。 医学教育に優れた研究者を育成する。 臨床研究に優れた研究者を育成する。 研究者育成のためのカリキュラムを策定する。 看護実践を支える看護研究を推進する。 	<p>①豊富な症例を対象とした臨床研究を行うため基盤整備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> トランスレーショナルリサーチを推進する環境を整備する。 <p>②社会人入学の推進を図る。</p>	<p>学事課 (大学院委員会、研究科委員会)</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 星薬科大学と学術交流の協定を締結し、臨床研究を推進する。 臨床研究推進のため、大学院生研究助成金、研究科研究推進費を有効運用する。 FD活動を継続して行う。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 導入したe-learningの運用状況について検証する。 ホームページ、慈大新聞などを通じて社会人の入学を推進する。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成23年度事業計画
	<p>③研究者に必要な倫理観、判断力を涵養するプログラムを策定する。</p> <p>④共通カリキュラムの改善を図る。</p> <p>⑤看護学専攻修士課程における研究を充実させ質を高める。</p>		<p>③大学院共通カリキュラム「医学教育学」の内容を大学院生からの意見・要望をもとに継続的に検証する。</p> <p>④社会人大学院生のニーズを取り入れ共通カリキュラムの内容を継続的に検討する。</p> <p>⑤大学院委員会および各委員会の有機的連携により看護学専攻修士課程の安定した運用を図る。</p>
<p>(2) 教育内容等に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優れた人材の獲得に向けた医学科入学試験方法を改善する。 ・看護学科の志願者増を視野に入れ、入学試験を改善する。 ・カリキュラムの点検・評価を行い改善する。 ・問題解決能力涵養のための教育形態を策定する。 ・臨床能力を向上させるための方略を策定する。 ・質の高い医療人を育成するための厳正で適切な評価を行う。 ・国際交流を推進する。 ・卒業教育カリキュラムを改善し公開する。 	<p>(2) 教育内容等に関する措置</p> <p>①医学科・看護学科の入学試験を改善する。</p> <p>②医学科と看護学科のカリキュラムを点検し改善する。</p> <p>③モデル・コア・カリキュラムを考慮した医学科の特色あるカリキュラムを継続的に検討する。</p> <p>④医学科の交換留学制度を充実させる。</p> <p>⑤レジデント教育プログラムを改善して医学生に公開する。</p> <p>⑥高校訪問やオープンキャンパスを積極的にを行い、看護学科受験者増を図る。</p> <p>⑦看護学科の定員を増やす。</p> <p>⑧看護学科の講義、実習、演習の比率を改善する。</p> <p>⑨看護における臨床技能を高めるために実習方法を改善する。</p>	<p>学事課 (入試委員会)</p> <p>学事課</p> <p>学事課 (教学委員会)</p> <p>学事課 (国際交流委員会)</p> <p>臨床研修センター</p> <p>教育センター</p> <p>学事課 (看護学科広報委員会)</p> <p>学事課</p> <p>学事課 (教学委員会)</p> <p>教育センター</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学科では積極的な相談会活動を展開する。 ・広報媒体「受験インフォメーション」を看護学科でも作成し周知を図る。 ・医学科一次試験の成績開示を行う。 ・看護学科では22年度入試状況を分析し、定員増に向けた検討を継続する。 <p>②学生アンケート調査等を含め21改正カリキュラム実施状況の点検作業を行う。24年度のカリキュラム改正に向け評価・改善を行う。</p> <p>③カリキュラム委員会、カリキュラム自己点検委員会で検証した内容を次年度カリキュラムに反映させる。</p> <p>④外国人留学生受け入れ専任窓口の設置について具体化案を作成する。</p> <p>⑤-1 レジデント教育プログラムの見直しを随時図るよう医局に呼びかけプログラムの充実を図る。</p> <p>⑤-2 シミュレーション教育コースを充実し、医学生への活用を検討する。</p> <p>⑥看護学科の志願者を増やすために継続して広報活動を行う。</p> <p>⑦“看護学科定員増に関するプロジェクト”で継続して看護学科定員増に向けた準備を推進する。</p> <p>⑧看護学科の講義：実習、演習比率を見直し実践能力を向上するようカリキュラム改正を行う。</p> <p>⑨-1 改善したステップアップノートを活用し臨床技能を高める。</p> <p>⑨-2 看護におけるシミュレーション教育の更なる改善を図る。</p> <p>⑨-3 キャリアサポートセンターを設置し、看護技術の向上に努める。</p>

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成23年度事業計画
	⑩看護学科の海外実習を推進する。	学事課 (看護学科国際交流委員会)	⑩アメリカ看護研修、国際看護交流協会研修生受入れと交流、招聘講演会を企画する。
(3) 教育の実施体制等に関する目標 ・教員の適正配置を検討する。 ・教育環境を整備する。 ・教員の教育能力の向上に努める。 ・教員評価を実施する。	(3) 教育の実施体制等に関する措置 ①教育・研究を考慮した教員の適正配置と教員数を検討する。 ②講義室などの教育環境整備を行う。 ③教育能力向上のための教育研修を実施する。 ④教員・医師人事評価制度の運用と体系的人事制度を構築する。	教員医師 人事室 学事課 教育センター 学事課 総務課 教育センター 教員医師 人事室 学事課	①教員医師人事室にて資料に基づき教員の適切な人数を設定する。 ②-1 ・教育環境の整備点検については継続して実施する。 ・平成25年看護学科定員増に向け、看護学科校舎増改築検討委員会でよりよい教育環境について検討する。 ②-2 継続してシミュレーション教育施設でのシミュレーション教育環境の改善を図る。 ③-1 ・医学科は継続的にFDを開催し、学生に対する教育効果を検討する。またSDを行い、教育体制の充実を図る。 ・看護学科は国領校と共に年2回ワークショップを開催する。 ③-2 ・生涯教育のための月例セミナー及び夏季セミナーを継続的に開催する。 ・学外実習の指導者を対象とした心音セミナー、聴心セミナーを開催する。 ④-1 ・教員評価システムへの個別入力を促進することで、昇格審査に活用する。 ・情意考課の実施に向けて具体的な検討を進める。 ④-2 ・医学科-学生アンケート分析結果に基づきカリキュラム自己点検委員会でカリキュラム改訂を実施する。評価結果を適切にフィードバックする。 ・修士課程-継続して授業アンケートを各科目責任者にフィードバックし授業改善につなげる。
(4) 学生への支援に関する目標 ・学生が充実した生活を送ることが出来るように支援する。 ・問題を抱えている学生を支援する。	(4) 学生への支援に関する措置 ①学生支援のための教員組織を充実させる。 ②学力に問題のある学生に対する体制を改善する。 ③奨学金制度を充実させる。	学事課 教育センター 学事課	①② ・学生生活アドバイザーの他、全学年の学生支援できる仕組みを確立する。 ・学外実習での評価データを蓄積する学習ポートフォリオを検討する。 ・看護学科学生、卒業生を対象とした就職・進路指導に関する委員会を設置する。 ・ハラスメント対策を検討する。 ③改訂後の教育ローンの運用状況について検証する。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成23年度事業計画
	④精神的支援を必要とする学生のためのシステムを構築する。		④ ・学生アンケートを基に更なる効果的な学生生活アドバイザー制度について検討する。 ・感染症への対応（ワクチン接種等）について引続き実施する。 ・継続して問題のある学生の対応について学生健康管理チームの活動を実施する。学生相談窓口を本実施する。
(5) 看護専門学校に関する目標 ・看護専門学校の質の向上を図る。 ・定員数の学生を確保する。 ・適切な看護専門学校の配置を検討する。	(5) 看護専門学校に関する措置 ①看護教員の確保に努める。 ②看護実践を重視した看護教育を行う。 ③学生確保のため積極的に広報活動を行う。 ④学生生活支援を積極的に行う。 ⑤4病院を活用した臨地実習カリキュラムを検討する。	看護専門学校	①看護教員確保に必要な具体的な措置を講じ、教員を確保する。 ②技術体験 ・見学体験の機会を増加させる。臨地実習では経験しにくい技術等のシミュレーションモデルを活用してプログラムを開発する。 ③ホームページ、オープンキャンパス、説明会の充実、様々な広報媒体を用いて積極的な広報活動を継続的に行う。 ④学習についていけない学生や生活上で問題のある学生への支援・指導、保護者との連携・協力、奨学金制度の充実を継続的に行う。 ⑤看護専門学校再編後の4病院を活用した実習カリキュラムを推進する。
2. 研究に関する目標 (1) 研究水準及び研究成果に関する目標 ・臨床を支える質の高い研究を振興する。 ・論文発表を促進する。 ・国際的に高い評価を受けることができる研究を推進する。	2. 研究に関する措置 (1) 研究水準及び研究成果に関する措置 ①教員の職位に応じた論文発表を評価する。 ②国際誌への投稿を推進する。 ③Jikeikai Medical Journalの充実を図る。	学術情報センター 大学院委員会 学事課 大学院委員会 学術情報センター	①-1 教員評価システムへの論文発表データ登録の簡便化、機能強化を行い、各講座・研究施設の担当者に転送方法について直接説明し、教員評価システムへの業績データ登録の促進を図る。 ①-2 研究科教授の研究業績を再評価する。 ②医学論文書きかた講習会の開催を含め、国際誌への投稿推進策を策定する。 ③MEDLINE収載を目標にJikeikai Medical Journalの掲載論文の質、量の充実を図る。東京慈恵会医科大学学術リポジトリの更新により、掲載論文への国内外からのアクセス性の向上を図る。
(2) 研究実施体制等の整備に関する目標 ・研究環境を整備する。 ・臨床研究を推進する体制を構築する。 ・先進的研究実施体制を作る。 ・寄付講座制度を活用する。 ・大学の研究費予算を見直す。 ・効率的な人員配置をする。	(2) 研究実施体制等の整備に関する措置 ①臨床研究支援体制を構築する。	総合医科学研究センター	①学内の研究実体の把握が出来るようになったことから臨床研究で利用頻度の高い研究を優先的に支援できる体制を構築する。共用研究施設の利用を促進する。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成23年度事業計画
	<p>②先端研究を推進する体制を作る。</p> <p>③トランスレーショナル研究推進体制を作り振興する。</p> <p>④寄付講座を振興する。</p>	<p>大型プロジェクト対策委員会 iPS細胞研究会</p> <p>大型プロジェクト対策委員会</p> <p>iPS細胞研究会</p> <p>大学事務部</p>	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先端医療・先端研究のアンケートを実施し、研究者間の共同研究の振興と新たな先端研究を推進する体制を強化する。 ・iPS細胞を用いた遺伝病の病態解析、癌幹細胞の病理解析を実施する。 ・大型プロジェクトの申請に向けて準備を進める。 <p>③-1 スーパー特区に採択された事業で得られた成果を基に実用化を進めるため、企業との協同体制の整備と研究費の獲得に取り組む。</p> <p>③-2 再生医療研究体制を整備して先端研究を推進する。GMP対応施設の管理体制をさらに充実させ、細胞治療及び再生医療を推進する。</p> <p>④寄付講座の増設に向けて取り組む。</p>
<p>(3) 総合医科学研究センターに関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各研究所・研究室の活動を定期的に点検・評価する。 ・競争的研究資金の獲得を目指す。 ・各研究所・研究室の特色ある研究を推進する。 ・研究支援部門の充実を図る。 	<p>(3) 総合医科学研究センターに関する措置</p> <p>①自己点検・評価を推進し外部評価を受ける。</p> <p>②研究成果を積極的に開示する。</p> <p>③各研究所・研究室の特色ある研究を推進し、情報公開に努める。</p>	<p>総合医科学研究センター 運営委員会</p>	<p>①自己点検評価、外部評価のありかたについて更に検討を重ねる。総合医科学研究センター各研究施設の内部評価を実施する。</p> <p>②「DNA医学研究所・臨床医学研究所合同研究発表会」の規模の拡大を検討する。</p> <p>③総合医科学研究センターのホームページ更新により共同利用の促進を図る。大型の研究費の獲得状況など活動状況をホームページで公開する。</p>
<p>(4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学・看護に関する情報を公開し社会に貢献する。 	<p>(4) その他の目標に関する措置</p> <p>①知的財産を社会に還元するために市民公開講座を積極的に開催する。</p>	<p>教育センター (公開講座推進委員会)</p>	<p>①市民および地域医療者の公開講座を継続し、補助金を活用して積極的に開催する。</p>
<p>3. 附属病院（4病院）に関する目標</p> <p>(1) 医療安全・感染対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属4病院間の連携強化と医療安全体制を整備する。 ・教職員の教育・研修の充実による医療安全・感染対策に対する意識の向上を図る。 ・全国の私立医科大学病院の医療安全・感染対策推進活動に貢献する。 	<p>3. 附属病院（4病院）に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 医療安全・感染対策の推進に関する措置</p> <p>①医療安全・感染対策管理体制の点検・評価を実施する。</p> <p>②教職員の教育・研修の定期的開催と医療安全文化を醸成する。</p>	<p>医療安全管理部</p>	<p>①附属4病院リスクマネジメント委員会や4病院相互ラウンドによる連携強化と問題解決を行う。</p> <p>②</p> <p>【医療安全】 全附属病院でTeam STEPPSを取り入れることを目標とし、講義を含めた積極的な活動を行う。</p> <p>【感染対策】 感染対策の基礎研修である感染対策ベーシックコースの普及を目指す。</p>

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成23年度事業計画
	③医療問題および感染症発生時の迅速な対応体制を確立する。		③ 【医療安全】 附属4病院リスクマネジメント委員会での事例検討と改善策共有、日々の業務の中で病院間の連携を図り医療問題の解決へ取り組む。 【感染対策】 本院感染対策委員会を中心に連携強化していく。
	④私立医科大学病院間の相互ラウンドを実施する。 ⑤システム工学を応用して業務を可視化し根本原因の検索とシステム改善を行う。		④ 【医療安全】 新たにラウンドする施設の取り組みを参考に当院の医療安全推進活動の見直しを行う。 【感染対策】 私大協議会の事務局として、相互ラウンド、サイトビジット、各作業部会などの事業を推進する。 ⑤投薬ミス（本院、第三）、患者誤認（青戸・柏）をテーマに東大・早稲田・慈恵共同研究を行い、各現場での取り組みの浸透を目指す。
(2) 先進医療の推進 ・患者ニーズにこたえる先進医療に取り組む。	(2) 先進医療の推進に関する措置 ①医療の質と技術向上のための取り組みを推進する。	臨床研修センター 管理課	①-1 低侵襲手術を始めとした先進医療トレーニングシステムを周知させ振興する。 ①-2 患者ニーズに対応した先進医療を提供するため、各診療科からの申請に迅速に対応する。また、幅広く情報提供を行い先進医療の拡大を推進する。
(3) 患者サービス・病診・病病連携の推進 ・患者中心の医療を円滑に推進する。 ・住民参加によるボランティアサービスの充実を図る。	(3) 患者サービス・病診・病病連携の推進に関する措置 ①医療連携を進める具体的な体制整備を行う。(医師・看護師・MSW等が協働できる体制) ②ボランティア受入れ体制を整備・強化する。 ③退院・転院・在宅医療などの支援業務を一体化する。	患者支援・医療連携センター ボランティア事務局 患者支援・医療連携センター	①BSCを用い、更なる訪問活動、懇談会への参加を通し関係医療機関等の情報把握、共有に努める。 ②ボランティアの定着と更なる人員増に努め、活動範囲の拡大を推進する。 ③前年に続き、院内PFM構築に参画し切れ目のない支援体制整備にする。
(4) 効率的な医療の推進 ・附属4病院で効率的なDPC運用を図る。 ・職種間の効率的な協働体制を構築する。 ・科学的根拠に基づく医療の効率化を推進する。	(4) 効率的な医療の推進に関する措置 ①DPCに対応したクリニカルパスを普及し、治療の標準化、医療の安全と効率化を図る。	業務課（本院、青戸、第三、柏） 薬剤部 企画部	①-1 クリパスWG等によるDPCに対応したクリニカルパスの導入により、抗癌剤のジェネリック採用などを推進し、標準化、安全と効率化を図る。 ①-2 購入額比率の高い注射薬のうち後発薬品に切替可能な品目を検討、薬事委員会に答申する。 ①-3 外来疾病別原価分析を実施する。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成23年度事業計画
	<p>②医師、看護師、コメディカル、事務職の効率的な業務分担の推進を図る。</p> <p>③共通操作性のあるオーダーリングシステムの導入を検討する。</p>	<p>業務課 人事課 教員医師 人事室</p> <p>システム課</p>	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療従事者勤務適正化委員会を中心に、医師の業務軽減に関する検討を継続する。 事務業務分掌規程に合致した業務標準作業書の作成・推進活動を行う。 医師の事務業務作業の軽減に向けて組織体制を見直す。 <p>③青戸病院リニューアル後のシステム稼動評価を経て、4附属病院のシステム化を検討する。</p>
<p>(5) 予防医学の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学として予防医学に貢献する。 スポーツウェルネスクリニックとスポーツ医学の再興。 	<p>(5) 予防医学の推進に関する措置</p> <p>①総合健診・予防医学センターと各病院との連携を強化する。</p> <p>②スポーツ・ウェルネスクリニックとスポーツ医学研究を見直す。</p>	<p>総合健診 ・予防医学センター</p> <p>整形外科</p> <p>リハビリテーション科</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 病院オーダーリングシステムとの連携を継続検討していく。 予防医学として禁煙教室を広めていく。 ドック受診後精密検査該当者の追跡調査を行う。 <p>②-1 健診・予防医学センターと連携しシステムを構築する。</p> <p>②-2 体力医学研究を推進し学会発表や論文発表を行い研究の活性化を図る。</p>
<p>●附属病院（本院）に関する目標</p> <p>(1) 医療の質の向上を図る。</p>	<p>●附属病院（本院）に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①特定機能病院としての機能を充実させる。</p> <p>②東京都認定がん診療病院としての機能を充実させ、がん診療連携拠点病院の指定を目指す。</p> <p>③人材育成（スキルアップ）を行う。</p> <p>④院内研修制度の充実を図る。</p>	<p>管理課 (運営会議 担当委員会)</p> <p>管理課 (診療情報 患者支援・医療 連携センター 薬剤部)</p> <p>人事課 教員医師 人事室</p> <p>教員医師 人事室</p>	<p>①各診療科へ病院としての具体的な支援強化や実施申請方法の簡素化を継続して行う。</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京都認定がん診療病院としての機能を充実させ、がん診療連携拠点病院としての機能充実を目指す。(院内がん登録の促進、がん相談支援体制の確立、ホームページ等を用いた院内外への広報活動、レジメンオーダーシステム全科稼動) がん関連会議への積極的参加によりがん拠点病院との情報共有を行う。 <p>③学内事務員およびコメディカル職員のキャリアパスを取り纏め、体系・整備を行う。カンファレンス・CPCによる症例検討を活発に行う。剖検率の改善を図る。</p> <p>④「家庭医・再研修コース」を周知し、利用を促進する。</p>
<p>(2) 先進（高度）医療を開発し、施行する。</p>	<p>①鏡視下手術トレーニングコースの充実を図る。</p>	<p>臨床研修センター</p>	<p>①-1 STEP 2（アニマルラボにおいてより実践的な手技の評価を行う）を継続的に実施し、受験者、合格者の増加を図る。</p> <p>①-2 STEP 3の暫定運用を円滑に開始する。</p>

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成23年度事業計画
(3) 医療安全・感染対策管理体制の充実と推進を図る。	①医療安全・感染対策に関する組織横断的な活動を推進する。	医療安全管理部	① 【医療安全】 ・人間工学に基づいた医療安全システムの構築を図る。 ・術前合同カンファレンスの各診療科による主体的運用を行い活性化と円滑な運用を図る。 ・Team STEPPSを主体とした医療安全エッセンシャルコースを定期的に開催し、医療安全文化の醸成を推進する。 ・オカレンスの項目内容の再検討を行い職員への周知徹底をする。また医師からの報告件数の増加を図る ・対外的な研修の参加 【感染対策】 ・耐性菌対策の推進
(4) 患者・家族の満足度の向上を図る。	①インフォームド・コンセントを徹底する。	管理課 医療安全推進室	①患者からの苦情や意見を統計化し、インフォームド・コンセントに関する事項については該当科へフィードバックする。 ・患者説明同意書の改訂 ・新規作成時に共通項目を統一様式とする。
(5) 地域連携促進ときめ細やかな医療サービスを提供する。	①患者支援・医療連携センターの機能充実を図る。	患者支援 医療連携センター	①BSCをもとにタイムリーな評価・修正を行い、患者支援・医療連携センターの機能充実を図る。
(6) 臨床研究を促進する。	①薬物治療学研究室、臨床疫学研究室、分子疫学研究室と連携し、臨床研究を推進する。	臨床試験 支援センター	①臨床研究コーディネーターのレベル向上と治験の件数の増加を図る。 ・国際共同治験へ積極的な参画に努める。
(7) 効率的医療を推進する。	①オーダーリングシステム導入による効率的な運用を図る。 ②効率的な診療体制の構築を図る。 ③手術室の効率運用を図る。 ④救急患者受入れの体制整備を行う。	業務課 システム課 ICU 看護部 (外来委員会) 手術部 中央材料室 救急部	①レジメンオーダー、処置オーダーの全科稼働と対象（レジメン種、入院処置）拡大を図る。 ②-1 RRS（rapid response system）の委員会を結成、運用を図り、院内救命率を上げる。 ②-2 各科外来に散在している静脈注射、瀉血等の集約化を図り、外来点滴室の有効活用と質の向上を図る。 ③-1 外来棟手術室での麻酔科管理症例の増加とそれに伴う救急患者受け入れ体制の強化を図る。 ③-2 ディスポ品と滅菌器械の患者別セット化に向け継続的に取り組む。 ・手術を安全、効率的に運用するために手術器械セットメニュー表の改善や借用器械の写真付き表などの作成について検討する。 ④地域救急医療システムの強化(学外) 慈恵4病院内の救急連携の強化(患者の移送・医師の派遣)

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成23年度事業計画
(8) コスト管理の強化と収益性の向上を図る。	①月次医療収支額を把握する。 ②DPCデータの他大学とのベンチマークを実施する。 ③医療材料のSPD業務の再編を行う。	事務部 企画部 事務部 財務部 企画部	①月次医療収支額に基づくコスト管理の強化、収益性の向上を検討する。 ②6大学ベンチマークプロジェクトを継続的に推進する。 ③更なる4病院の物流効率化、標準化と大学全体の物流全般に関する将来計画案を策定する。
(9) 情報公開の条件を整備する。	①診療情報を評価するシステムを構築する。	管理課 企画部	①病院年報作成委員会にて選ばれた指標を公開する。
(10) 教職員の職場満足度を向上させる。	①働きやすい環境整備等を行う。 ②女性教職員・女性医師の復職を支援する。	企画部 管理課 人事課 給与厚生課 教員医師 人事室 教員医師 人事室 管理課 看護部 人事課 給与厚生課	①アンケート調査等を行い引き続き職場環境の整備を検討し、具体的な改善を実施する。また、情報提供によりハラスメント防止に努める。 ②病児預かり室のPR、対象者の拡大、受入れ人数の検討を継続して行う。再就職登録の運用、再就職登録者への求人情報の提供実施を行う。
(11) 晴海トリトクリニックの将来構想を見直す。	①晴海トリトクリニックの機能を点検・評価する。	晴海トリトクリニック	①本院と連携体制の取り決め事項を再検証し、受け入れ態勢整備の推進を図る。
●青戸病院に関する目標	●青戸病院に関する目標を達成するためにとるべき措置		
(1) 管理運営を強化する。	①開かれた組織体制を構築する。 ②各運営委員会を活性化し、病院長の諮問機関としての役割を強化する。	青戸病院 (運営会議・BSCWG) 運営会議	①病院全体BSC・各部署BSC共にブラッシュアップを行い、診療部への拡大を図る。 ②運営委員会の活動性と成果を評価する。新病院に向けて運営委員会の再編を検討する。
(2) 財政基盤を磐石にする。	①収支を改善し、経営の安定化を図る。 ②発生主義に基づく予算管理、収益性分析、生産性分析による経営課題を解決できるシステムを構築する。	運営企画会 事務部	①-1 新病院移転に伴う患者数調整等を踏まえ支出管理を強化する。 ①-2 ・平成24年度の診療体制を明確化し医師の定数を決定する。 ・新病院運営における職員数の確定検証を行う。 ②収益性分析、生産性分析情報の可視化により問題箇所の明確化を図り、改善に取り組む。
(3) オープン・システムを構築する。	①附属4病院連携、地区医師会、連携医療施設、行政とのネットワーク整備をする。 ②学内連携を図ることによって、診療、教育体制を強化するとともに、教育研修制度を整備する。 ③東京都看護職員復職支援研修施設として対象者を受け入れる。	患者支援 医療連携 センター 運営委員会 看護部 事務部	①-1 同窓の開業医を訪問し、更なる登録医拡大に努める。 ①-2 転院の円滑化に向けた具体的な病病連携システム作りに取り組む。 ② 医療連携室と連携し実効性のあるメディカルカンファレンスを開催する。 ③東京都看護職員復職支援事業の受託を継続し地域へ貢献する。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成23年度事業計画
(4) 診療体制及び重点機能を強化する。	①総合内科・救急医療の協働体制を確立し、患者受入体制を強化する。 ②手術室の物流を改善し効率運用を図ることによって手術数を増加させる。 ③医療の効率化、透明化、標準化を図る。 ④患者フローの視点で、入院から退院・転院まで一貫したコーディネートを行う。 ⑤新病院にICU・CCUを設置する。	運営会議 運営委員会 運営委員会 手術部 運営委員会 事務部 看護部 医療連携 センター 運営企画会 ICU・CCU 設置PT	①受入体制・当直体制等の運用細則を確立し実行する。 ②手術室周辺業務の委託化により業務強化と効率化を進め、手術件数の増加を図る。 ③新病院においてシステムとの互換性のある効果的なクリパスの拡大を行う。 ④新病院におけるPFM機能を職種横断的に確立する。 ⑤ICU・CCUの稼動に向け準備委員会において運用を確立する。
(5) 病院リニューアルを実施する。	①大学病院、地域中核病院として患者志向の機能的な病院を建築する。(平成23年竣工を目指す。)	リニューアル委員会 リニューアルTF	①-1 具体的な引越し計画及び開院準備、開院、開院後の病院運営を行う。病院名を改称する。 〈仮称〉東京慈恵会医科大学葛飾医療センター ①-2 官公庁検査、解体計画の検証・実行、インフラ導入、竣工後のシステム、診療機器、什器・備品などの具体的導入計画を策定し、開院する。 ①-3 システムのマスタ作成を平成23年6月までに終了し、7月～9月にテスト・教育及び操作訓練を実施する。10月竣工後は、システム設置及び動作検証と本番環境でのリハーサルを実施し開院する。 ①-4 インフラは平成23年10月竣工までに整備し、道路を含む外構関係は平成24年6月までに整備する。
●第三病院に関する目標 (1) 信頼される地域中核病院になる。	●第三病院に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①診療に関する情報を公開する。 ②地域住民や行政への医療啓蒙行事を更に充実させる。 ③患者に対する対応を見直し改善を図り、積極的に患者を受入れる。	第三病院 業務課 第三病院 管理課 第三病院 運営会議	①-1 各科にアンケート調査を行い、診療及び治療成績開示内容の見直しを検討する。 ①-2 病院BSCと部門別BSCを実際に運用し更なる情報の見える化を推進する。 ②公開健康セミナー・ホスピタルフェアを開催し、地域の健康増進に積極的に取組む。 ③救急室管理体制の改革を実行し、救急受入数の増加を図る。
(2) 財政基盤を磐石にする。	①医療材料コストを見直す。	第三病院 管理課	①導入した手術原価管理システムについて精度を上げ、厳格なコスト管理を進める。4機関共同購入のアイテム数を更に増やすよう努める。
(3) 優秀な人材を確保する。	①診療部を評価する。	第三病院 管理課	①各診療部の多面評価によるベスト診療科選出を実施し、診療体制の改善を図る。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成23年度事業計画
(4) 特色ある医療を強化する。	①森田療法センターを本学の特色ある医療として内外に強く再アピールする。 ②各科の診療内容実績を分かりやすくアピールする。	第三病院 管理課	①タイムリーな情報提供し、患者数の増加を図る。 ②各科別の診療案内パンフレットを随時更新する。
(5) 信頼関係に基づいた病診・病病連携を実践する。	①病診連携、病病連携のための強化を図る。	第三病院 業務課 第三病院 管理課	①-1 ・後方連携病院の開拓と関係強化を図る。 ・地域医師会主催の連携の会への積極的な参加による医療連携の拡大を図る。 ①-2 近隣医師会並びに近隣医科大学との情報交換を継続する。
(6) 「お年寄りにも優しい病院」を目指す。	①高齢者に対する対応策を検討する。	第三病院 運営会議	①地域住民および行政・医師会等が地域中核病院に求めるものを把握に努め、高齢者対策に結びつける。
(7) 癒しの病院環境を醸成する。	①施設改修による療養・職場環境改善を持続的に実践する。 ②入院患者向け行事を開催する。	第三病院 管理課 第三病院 管理課	①医医棟建替、1・2・3号館・ロッカー室建替、精神科外来改修、脳神経外科外来改修を行う。 ②各種「癒しの行事」を継続開催する。
●柏病院に関する目標 (1) DPCに対応した医療の標準化・効率化を推進する。	●柏病院に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①包括化による減収を回避する。 ②医療の効率化、標準化による安全を確保する。	柏病院 DPC導入TF クリバス 委員会 柏病院 業務課	①クリニカルパスのオーダ化を進め、パス内容を改善することで、包括化による減収を回避する。 ②DPCデータ活用により、近隣地域の同規模病院とのベンチマーク分析が実施可能な環境・関係を構築し、医療の効率化、標準化を進める。
(2) 地域中核病院として十分に機能する。	①入院から退院・転院まで一貫した患者支援を行う。病院のビジョンを共有し、急性期医療・地域医療に貢献する。	看護部 PFMワーキング・グループ BSCワーキング・グループ 業務課 管理課	①患者支援センターの構築とPFM機能の充実。病院全体BSCをブラッシュアップし、各部門BSCの拡大を図る。
(3) がん診療連携拠点病院として必要な高い診療機能を整備する。	①がん診療連携拠点病院として必要な施設を整備する。 ②がん診療連携拠点病院として必要な地域連携を整備する。	柏病院 地域がん診療 連携拠点病院 運営委員会	①ベッドの効率的運用、土曜日の実施体制を整備し、病棟で行っている化学療法患者を極力外来化学療法室で実施する。 ②4疾病・がんの全県共用地域医療連携パスの積極的活用に向けて、協力医療機関を増やすと共に連携を強化する。
(4) 手術件数を増加させると共に、手術増加に対応できるシステムを構築する。	①手術件数の増加を図る。	柏病院 手術部 管理課	①-1 手術室のシステム見直しにより効率運用を推進し目標手術件数を達成する。 ①-2 ・ピッキング業務の委託化を実施し、手術室運用の更なる効率化を推進する。 ・術後短期での転院等も含めた手術件数増加に対応する病床運用システムを構築する。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成 23 年度 事業 計画
	②救急受入れ患者の増加を図る。	柏病院 救急体制改善 ワーキング・ グループ	② ・円滑な退院・転院の運用により 病棟および救急室の空床を確保 し、常時、救急患者が受入可能 な体制を構築する。 ・救急患者の受入可否の迅速な回 答を完全実施する。
(5) 病院機能を充実させる。	①地域（柏市）が求める外来、入院機能の拡充、 高度化を検討する。	柏病院 将来構想 検討委員 会 柏病院 PACS 設置準備 委員会 柏病院 将来構想 検討委員 会	①-1 4 疾病・がんの全県共用地 域医療連携バスを活用し、循環 型地域医療連携システムの円滑 運用を推進する。 ①-2 内視鏡部門のシステム化お よび画像のPACS化を図る。 ①-3 待ち時間短縮やトイレ等の 病棟の環境改善に取り組み、院 内全体のアメニティー向上を進 める。 ①-4 柏病院の救急を強化し、増 床計画を含め地域医療への貢献 に努める。
(6) 電子カルテの導入を検討する。	①導入によるメリット、デメリットを検討する。	システム課	①オーダシステムのレポート機能 等の拡充に沿ってシステム評価 をする一方、電子カルテシステ ムとオーダシステムとの差異分 析などの検討を進める。
II. 業務運営の改善及び効率化に関する目標 1. 運営体制の改善に関する目標 <ul style="list-style-type: none"> ・理事会機能の強化を図る。 ・法令遵守の徹底を図る。 ・広報活動を充実する。 ・法人運営の総合的計画立案機能を強化する。 ・内部統制の強化を図る。 ・個人情報管理を徹底する。 	II. 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 1. 運営体制の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①理事会機能を検証する。 ②慈恵大学行動憲章・行動規範の周知を徹底する。 ③施設基準等の定期点検を行う。 ④慣例的に行っている業務手順を法令遵守の視点で見直す。 ⑤内部監査の充実を図る。 ⑥補助金（公的研究費、私立大学等経常費補助金等）に係る管理体制を充実する。	大学自己 点検評価 委員会 人事課 広報課 教員医師 人事部 管理課 管理課 監査室 研究支援課 経理課	①自己点検評価委員会において法人全体の機能を検証する。 ②広報誌やホームページを通じて、教職員に周知すると共に内外に向けて本学の姿勢を発信する。マナーハンドブックを新規採用医師に配布し行動憲章、行動規範の周知を図る。 ③該当する施設基準等について情報収集に努め常に算定できるようにする。 ④病院機能評価にて「3-b」と評価された項目を中心として業務の見直しを図る。 ⑤補助金（研究費、経常費補助金等）監査、業務監査の充実、ならびに監事、外部監査人と更なる連携を図ることにより内部統制の強化を推進する。 ⑥補助金（公的研究費、経常費補助金等）の管理を充実し、内部統制強化を推進する。

中期目標	中期計画	主体部署	平成23年度事業計画
	<p>⑦個人情報保護の継続的注意を喚起する。</p> <p>⑧本学の情報（社会貢献、研究成果、医療貢献）を学内外に発信する。</p> <p>⑨有事の際の広報体制確立と情報統制を確立する。</p> <p>⑩事業計画の実施状況を確認する。</p> <p>⑪BSCを普及拡大し、目標と進捗を把握、評価する。</p>	<p>総務課・管理課 （個人情報保護委員会） 広報課 広報課 企画部</p>	<p>⑦講演会を実施し継続して注意喚起を行う。</p> <p>⑧-1大学の教育研究活動ページの充実と更新頻度の高いホームページを主体に入力し易い形式を検討する。 ⑧-2広報誌・ホームページ・慈恵トピックス掲示板などを活用し、教職員・同窓・医療界・取引先・患者・社会へ積極的に情報を発信する。</p> <p>⑨休日・夜間の有事の際にも初期対応がスムーズに行えるようマニュアルをブラッシュアップする。</p> <p>⑩事業計画と整合性のあるBSCの作成を促し大学の中長期計画が各部門の目標と連動するよう進める。</p> <p>⑪BSC新規作成部門を選定しワーキンググループを実施する。</p>
<p>2. 人材活用に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 人材育成のための教育制度を構築する。 業務の効率化を図り人件費を抑制する。 	<p>2. 人材活用に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①職員の人材育成制度を強化する。</p> <p>②人事評価システムを充実させる。</p> <p>③業務の見直し、配置人員の見直し、業務効率化と人件費抑制を図る。</p> <p>④教職員の定着率を高める。</p> <p>⑤看護師確保体制を確立する。</p>	<p>人事課 教員医師 人事室 業務課 システム課 教員医師 人事室 人事課 人事課 給与厚生課 人事課 各機関管理課 企画部 人事課 給与厚生課 人事課 人事課 看護部</p>	<p>①-1研修制度の体系化の確立。OJT制度の検証を行う。 ①-2異動計画・昇級基準を盛り込んだ事務員キャリアパスを作成する。 ①-3事務員を主に自己申告を実施する。</p> <p>②学長諮問会議による昇格審査には教員評価システムへの入力が必要であることを学内に周知し、教員による入力率を高め、評価結果を教員昇格資料として積極的に利用していく。</p> <p>③-1・システム保守の業務内容を再検証し人員数と保守時間帯の見直し提案を実施する。 ・医療従事者勤務適正化委員会にて医師の業務軽減について検討を進める。 ・青戸病院開設時の要員数を関係部署と決定する。</p> <p>③-2非正規労働力を有効活用し、人件費の流動費化を促進する。 ③-3事務業務分掌規程に合致した業務標準作業書の作成・推進活動を行う。</p> <p>④-1継続して教職員アンケートを実施する。 ④-2教職員のメンタルヘルスケア対策を強化する。</p> <p>⑤採用活動と定着を強化し看護師の確保に努める。</p>

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成23年度事業計画
<p>3. 事務の効率化・合理化に関する目標 ・IT導入による効率化を実現する。</p>	<p>3. 事務の効率化・合理化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①適正なITグランドデザインを構築し、IT戦略を策定する。</p> <p>②附属4病院にオーダーリングシステムを導入し、効率化と患者満足度の向上を図る。</p> <p>③ネットワークの更新と再構築を行う。</p> <p>④経営管理データを一元管理し、経営判断を迅速に行える環境を構築する。</p>	<p>総務部 財務部 企画部 業務課 システム課 システム課 企画部</p>	<p>①中長期計画のIT投資適正化の検証組織を策定する。</p> <p>② ・柏病院でのレジメンオーダ、処方置オーダの導入準備を進める。 ・附属病院オーダシステムの更新計画と第三病院システム(HIS)の具体的な計画案を策定する。</p> <p>③システム導入計画に合わせたインフラ整備計画を策定する。</p> <p>④システム全般に関する検討組織を設置し経営管理データの一元管理について検討する。</p>
<p>Ⅲ. 財務の改善に関する目標</p> <p>1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標 ・安定した経営基盤を確立する。 ・機動的な小グループ(タスク・フォース)の取り組みにより経営改善を推進する。 ・第三病院の収支構造を改善する。 ・科学研究費補助金・経常費補助金の獲得・増加に努める。</p>	<p>Ⅲ. 財務の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①予算実績管理体制を強化して効率的な運用推進の仕組みを策定する。</p> <p>②経営改善重要項目ごとに検討組織を設置し改善を推進する。</p> <p>③科学的な分析に基づき医療収支の改善を推進する。</p>	<p>企画部 財務部 経理課 本院 青戸病院 第三病院 柏病院 研究支援課 大型プロジェクト委員会 教育研究助成委員会 業務課(本院、青戸、第三、柏) 企画部</p>	<p>①-1 中期的な財務検討体制を作り、建設・設備投資中長期計画を策定する。</p> <p>①-2 収支状況の月次把握を本実施する。</p> <p>②-1 1. 救急患者の受入れを強化し地域医療に貢献する。 2. 手術室における看護業務および業者委託業務の区分見直し等による手術室の効率運用を進める。 3. クリパスの拡充等によるDPCの適正化。 4. BSCの運用による改善項目の検討実施。 5. 医療連携を強化し、紹介患者受入と逆紹介の積極運用等により外来患者の確保を図る。</p> <p>②-2 平成23年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に応募申請する。研究費申請の講習会を開催して採択率の向上を目指す。</p> <p>③分析ソフトを活用し各診療科毎、疾患別DPCの分析を行い増収および減収分析から改善を提案する。</p>
<p>2. 経費の抑制に関する目標 ・物流の効率化、一括購入により経費を抑制する。 ・各種資源の消費を削減する。 ・IT関連経費の適正化を図る。</p>	<p>2. 経費の抑制に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①物流の見直し、購入組織の見直し、個別、疾病別の医療材料費を把握することにより改善を推進する。</p>	<p>施設課</p>	<p>①「4病院医療材料・物流検討WG」を中心に医療材料の4病院共同購入を継続して推進する。病院買取の不要品が他部署で使用出来るシステムを検討し無駄、滅菌切れを防止する。手術室の医療材料の収支状況データを有効活用し、経費削減、業務効率化を推進する。</p>

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成23年度事業計画
	<p>②医療経費の抑制を図る。</p> <p>③地球温暖化防止関連法規を遵守し、エコ活動を推進する。電気・ガス・水道・重油・電話・コピー・酸素等の経費削減を図るための具体策を実行する。</p> <p>④IT グランドデザインに基づくIT投資計画、包括的なIT関連経費の適正化を推進する。</p>	<p>管理課 企画部</p> <p>施設課</p> <p>財務部 総務部 企画部</p>	<p>②4病院医療材料・物流検討WGで継続的に医療経費（医材）をモニターし、評価する組織として継続させる。</p> <p>③「エネルギー管理統括者（本部）」、「エネルギー管理企画推進者（本部）」、「エネルギー管理者（各機関）」の選出と省エネ委員会の設置を行う。</p> <p>④ITの全体計画、適正金額の評価、執行を判定する組織の設置。IT経費の適正化の評価を実施する。</p>
<p>3. 資産の運用管理の改善に関する目標</p> <p>・全学的かつ経営的視野に立った資産の効率的な運用を図る。</p>	<p>3. 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①施設・設備の効率的な維持管理と計画的整備を図る。</p> <p>②機器・備品の効率的な管理、投資計画を策定する。</p>	<p>施設課</p> <p>財務部</p>	<p>①施設・設備計画を策定する体制を検討する。</p> <p>②資産管理のシステム化を実現し、効果的な投資計画策定の準備を進める。</p>
<p>IV. 自己点検・評価の充実に関する目標</p> <p>・点検・評価結果を公表し、改善につなげる。</p>	<p>IV. 自己点検・評価の充実に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①自己点検・評価を公表し、運営（中期目標・計画、支援、設備整備等）に関わる検討組織の審議に反映できるシステムを構築、運営する。</p>	<p>総務課 大学事務部</p> <p>医学科 看護学科</p>	<p>①-1 学校法人慈恵大学、東京慈恵会医科大学の情報公開を進める。</p> <p>①-2 大学自己点検評価委員会を定期的に開催し、大学基準協会への中間報告に向けて、準備を進める。</p> <p>①-3 平成21年度大学基準協会自己点検評価により、指摘された内容の改善を推進する。</p>
<p>V. その他事業運営に関する重要目標</p> <p>1. 青戸病院リニューアルに関する目標</p> <p>・基本方針・基本コンセプトに基づく新病院を開設する。</p>	<p>V. 財務の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1. 青戸病院リニューアルに関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①青戸病院TFを設置し、リニューアル計画を推進する。</p> <p>②青戸病院リニューアル委員会を設置し、リニューアルTFと連携し、基本事項決定および行政折衝等を推進する。</p>	<p>青戸リニューアル委員会</p>	<p>①②新青戸病院の開院準備を遅滞無く進め、平成24年1月5日に開院する。</p>
<p>2. 附属病院外来棟建築に関する目標</p> <p>・本院外来棟の建築（着工：平成24年度目標）。</p>	<p>2. 附属病院外来棟建築に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①西新橋キャンパス全体を視野に入れ建築計画を策定する。</p> <p>②附属病院の機能分化と西新橋キャンパスの有効利用を考慮した外来棟の基本コンセプトを策定する。</p>	<p>マスター プラン検討 委員会</p>	<p>①西新橋キャンパス全体の建物基本計画を策定し、新外来棟の建築計画に反映する。</p> <p>②検討した新外来棟のコンセプトに基づき建築計画を具体化する。</p>
<p>3. 大学マスタープランの策定に関する目標</p> <p>・明確な長期マスタープランを策定する。</p>	<p>3. 大学マスタープランの策定に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①教育・研究・診療機能を総合的に考慮したマスタープランを策定する。</p>	<p>マスター プラン検討 委員会</p>	<p>①マスタープラン検討委員会、外来棟建築準備委員会等の検討組織を確立し大学全体構想を策定する。</p>

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成23年度事業計画
<p>4. 創立130年記念事業に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・130年記念事業を実施する。 ・事業実現に必要な寄付金を確保する。 	<p>4. 創立130年記念事業に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①“共に歩む慈恵”にふさわしい記念事業を実施する。</p> <p>②記念事業に必要な寄付金を募集する。</p>	130年記念事業委員会	<p>①生涯学習の機会の提供を継続的に行う。</p> <p>②記念事業に必要な寄付金の募集を継続する。</p>
<p>5. 大規模災害時の対応に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害発生時の体制を構築する。 	<p>5. 大規模災害時の対応に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①大規模災害時の体制を強化する。</p> <p>②大規模災害に対応する施設・設備を整備する。</p> <p>③被災地への支援体制を構築する。</p>	<p>総務課</p> <p>栄養部 薬剤部 施設課 人事課</p> <p>施設課 システム課</p> <p>防災委員会 災害対策本部</p>	<p>①-1 大規模災害時の指示・命令系統と情報伝達について確認し再構築する。</p> <p>①-2 必要な食料、薬剤、医療材料等を点検し、確保に努める。また供給体制を整える。</p> <p>①-3 スタッフの出勤困難時の対応策を検討・構築する。</p> <p>②建物、施設の安全性を点検し、整備する。また、整備計画を策定する。停電に対応する設備および体制を構築する。</p> <p>③被災地への支援体制を整備し、要請に応じて医療スタッフを派遣する。</p>